

授業科目名： 国語概論（書写を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮津 大蔵
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ① 学習指導要領に示された小学校国語科の構造と内容を理解する。 ② 小学校国語科の学習指導案の基本的な書き方（書写を含む）を知り、実際に書けるようにする。			
授業の概要 学習指導要領をもとに、小学校国語科の教科構造、目標、内容等について幅広く考察することによって、実際に授業を行うために不可欠な知識や方法論を身につける。概要：・小学校国語科の教科構造、目標、内容について・国語科各領域の現代的課題について・授業設計の際の課題、留意点について・学習者評価、授業評価における課題、留意点について 「卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連」卒業後、小学校教員としてふさわしい基礎的知識・技能を身に付ける。 ■実務経験のある教員による授業科目			
授業計画 第1回：シラバスに基づくガイダンス 小学校国語科の構造 第2回：国語科の目標、内容、教育課程 第3回：国語科学習指導要領の変遷 第4回：各領域の課題 第5回：国語科授業設計の課題 第6回：国語科教材研究の実際 第7回：国語科授業観察・評価の課題 定期試験は実施しない			
テキスト 小学校学習指導要領解説 国語編 他			
参考書・参考資料等 その都度提示する。			
学生に対する評価 レポート試験（80％）模擬授業の発表内容（20％）			

授業科目名： 社会科概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤孔美
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会		
授業のテーマ及び到達目標 小学校社会科で取り扱われる領域は広域であり、その事項を幅広い児童の関心と関連付ける授業教材が重要である。とりわけ、身近な事項を日本国の課題として、あるいは世界的な課題として発展させる視点を重視していく。そのための小学校における社会科の基礎的な知識、方法を獲得することをテーマとする。			
授業の概要 小学校社会科の学問的基礎について、多角的な視点（社会、経済、文化等）から実際の授業で有用となる、新聞、情報機器を利用した教材を取り扱い、多様な授業方法（班ごとの課題を発表、議論等）によって学習を進める。 また授業における活動は、その場で評価し改善すべき点を示す。 提出物などは、確認後、返却する際に評価を伝える。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 小学校社会科とはどのようなものか 第2回：小学校社会科の目標、内容等 小学校社会科の授業について考察する。 第3回：小学校社会科の授業の実態 小学校社会科における授業の考察とその解決方法について考察する。 第4回：小学校社会科の理論1 第5回：小学校社会科の理論2 第6回：小学校社会科の課題とその解決 第7回：授業の振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト 『小学校学習指導要領解説 生活編』（文部科学省 著） 『小学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省 著）			
参考書・参考資料等 小学校社会科検定教科書			

学生に対する評価

小テスト40%、レポート30%、受講態度30%

出席は80%以上必要。授業における取り組み、テスト、レポートなどにより総合的に評価する

授業科目名： 算数概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 峰野 宏祐
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 算数		
授業のテーマ及び到達目標			
・教科用図書で扱われる教材の分析及び数学的系統からの考察によって得られる知見に基づく望ましい算数的活動について理解する。			
・小学校算数科の学習を通して、児童がどのような資質・能力を育んでいくべきか、具体を通して自分なりに述べられるようにする。			
授業の概要			
小学校算数科における各領域の内容について、算数的活動を通してその本質（数学的意味や背景）を理解する。また、算数とは何か、小学校算数科においてどのような資質・能力を育んでいくかについて、協働的な学びを通して考察していく。			
授業計画			
第1回：算数における”よい授業”とは これまでの経験、並びに実際の算数授業の観察を通して算数科におけるよい授業とは何か考える			
第2回：「主体的・対話的で深い学び」と数学的活動を通じた授業づくり			
第3回：「数学的に考える」とは？ 帰納・演繹・類推			
第4回：「みんなで学ぶ」ということ 算数における多様性と協働			
第5回：単元づくりの考え方 図形の面積の単元づくりをもとに			
第6回：日常場面の役割 算数における真性な学びと培いたい力（ICT活用含む）			
第7回：算数の学習と学習評価			
定期試験 試験期間中に実施する。			
テキスト			
小学校学習指導要領解説 算数編			
参考書・参考資料等			
平川 賢「授業場面でわかる！算数用語ハンドブック」東洋館出版社			
学生に対する評価			
授業への積極的な参加、課題、レポート、模擬授業、試験等を総合して評価する。			
・授業への積極的な参加、課題、模擬授業、ノート提出等40％			
・レポート（学習指導案を含む） 20％			
・試験 40％			

授業科目名： 理科概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中野 英之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 理科		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 小学校理科の内容について理解を深める。 2. 小学校理科で扱われる基礎的な実験・実習の技術を習得する。 3. 理科における実験・実習やものづくり教育の重要性について体験を通して理解を深める。			
授業の概要			
理科概論は、小学校教諭 1 種免許状を取得するために必要な科目の 1 つであり、「教科指導法（理科）」を履修する前提となる科目である。本科目においては、理科の内容構成の各柱の中で、特にエネルギー、粒子、地球を主な内容とし、基礎的事項に関して観察や実験等を活動を通して実感をともなった理解を図り、科学的な見方や考え方について学ぶことをねらいとする。			
授業計画 対面授業では履修者全体を A～D 班に分けて授業を行う。 第 1 回：ガイダンス、薬品の取り扱いについて（オンデマンド、課題）。 第 2 回：A,B 班：対面授業（ガスバーナーの使い方、顕微鏡の使い方） 全員：放射線について知ろう（オンデマンド、課題） 第 3 回：C,D 班：対面授業（ガスバーナーの使い方、顕微鏡の使い方） 全員：ふりこの実験（オンデマンド、課題） 第 4 回：A,B 班：対面授業（水溶液の性質、上皿でんびんの使い方・てこの原理） 全員：星座早見をつくってみよう（オンデマンド、課題） 第 5 回：C,D 班：対面授業（水溶液の性質、上皿でんびんの使い方・てこの原理） 全員：天体望遠鏡の使い方を知ろう（オンデマンド、課題） 第 6 回：A,B 班：対面授業（星座の学習、電流計と電圧計の使い方） 全員：電磁石の性質を知ろう（オンデマンド、課題） 第 7 回：C,D 班：対面授業（星座の学習、電流計と電圧計の使い方） 全員：大地のつくりの変化（オンデマンド、課題） 授業のまとめ（オンデマンド）			
定期試験 試験期間中に実施する。			
テキスト 小学校学習指導要領解説－理科編－			
参考書・参考資料等 授業で適宜紹介する。			
学生に対する評価 試験（50％）, 課題（50％）の合算で評価する。			

授業科目名： 生活概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中野 英之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生活		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 生活科の創設の過程と生活科のねらいを理解する。			
2. 生活科の目標、学習内容を理解する。			
3. 低学年における体験的な学習事例について理解する。			
授業の概要			
小学校低学年で設定されている教科「生活科」について、その成立の歴史、目標、学習活動例についての学習を通して、低学年期の児童の学びについて考える。			
授業計画 対面授業ではA,Bの2班に分けて実施する。			
第1回：ガイダンス、生活科の歴史的背景と意義、内容と目標について。 身近な自然物等から色をとってみよう。（オンデマンド、課題）			
第2回：じゃがいも栽培における注意点について（オンデマンド、課題）			
第3回：A班：自分たちと様々な人や場所との関りについて（オンデマンド、課題） B班：ネイチャーゲーム（対面、班活動）			
第4回：A班：ネイチャーゲーム（対面、班活動） B班：自分たちと様々な人や場所との関りについて（オンデマンド、課題）			
第5回：黒須田川周辺の水質環境マップづくり（オンデマンド、課題）			
第6回：A班：身近な材料を用いたおもちゃづくり（対面、班活動） B班：自分たちと様々な人や場所との関りについて（オンデマンド、課題）			
第7回：A班：自分たちと様々な人や場所との関りについて（オンデマンド、課題） B班：身近な材料を用いたおもちゃづくり（対面、班活動） 授業のまとめ（オンデマンド）			
定期試験 試験期間中に実施する。			
テキスト			
小学校学習指導要領解説－生活編－			
参考書・参考資料等			
授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価			
試験（50％）、課題（50％）として合算して評価する。			

授業科目名： 音楽概論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 谷本 直美	
						担当形態： 単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 音楽					
授業のテーマ及び到達目標							
・ 小学校学習指導要領音楽科に関する知識を理解し、その授業に必要な技能を習得することができる。（知識・技能）							
・ 技能習得の過程で音楽の共通事項について思考・判断し、表現することができる。（思考・判断・表現）							
・ 個人及び集団の基礎技能の習得に向けて練習に意欲的に取り組んでいる。（主体的な学び）							
授業の概要							
本科目は、小学校学習指導要領音楽科の概要、共通事項、国歌についての理解、ならびに授業で求められる個人の基礎的な演奏技能および仲間との協力関係における集団技能の習得を念頭に置いて、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞に関わる授業を展開する。							
授業計画							
第1回：オリエンテーション		歌唱の特性と実技①（斉唱・輪唱・合唱）					
第2回：共通事項について		歌唱の特性と実技②（男声・女声・変声）					
第3回：音符や休符等について		歌唱の特性と実技③（二部合唱）					
第4回：国歌について		歌唱の特性と実技④（三部合唱）					
第5回：鍵盤楽器の特性と実技①（指番号）		リコーダーの特性と実技①（タンギング）					
第6回：鍵盤楽器の特性と実技②（指くぐり）		リコーダーの特性と実技②（スラー）					
第7回：鍵盤楽器の特性と実技③（指またぎ）		リコーダーの特性と実技③（サミング）					
音楽用語テスト							
第8回：鍵盤楽器の特性と実技④（Ⅰの和音）		リコーダーの特性と実技④（スタッカート）					
第9回：鍵盤楽器の特性と実技⑤（Ⅴの和音）		打楽器の特性と実技					
第10回：鍵盤楽器の特性と実技⑥（Ⅳの和音）		和楽器の特性と実技					
第11回：鍵盤楽器の特性と実技⑦（強弱）		重奏の特性と実技					
第12回：鍵盤打楽器の特性と実技		合奏の特性と実技					
第13回：トーンチャイムの特性と実技		常時活動の特性と実技					
定期試験（筆記試験）							
テキスト 小学校学習指導要領音楽科編 自作楽譜							
参考書・参考資料等 小学校音楽科教科書、小学生用歌集							

学生に対する評価

毎時の取り組み、知識の理解度（筆記試験）、実技の習熟度（実技試験）等から総合的に評価する。

授業科目名： 図画工作概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 名達英詔
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ 子どもの強い興味関心に支えられ、身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作科の目標、内容、指導等の概要を学ぶ。 到達目標： (1)図画工作科の目標、内容、教師のあり方、造形を通して子どもたちが育つための環境など、教科指導の概要を理解している。 (2)様々な材料体験や表現・鑑賞によって得られる楽しさや喜びを味わえる。			
授業の概要 図画工作科の特性、教科の目標、内容、指導等について、講義及び表現・鑑賞の実践と考察に情報機器の活用等を交えながら学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス・図画工作の特性 第2回：図画工作科の目標と内容 概説 造形遊びで表す活動の解説と実践 鑑賞を含む 第3回：立体に表す活動の解説と実践 鑑賞を含む 第4回：絵に表す活動の解説と実践① 様々な表し方で 鑑賞を含む 第5回：絵に表す活動の解説と実践② 思いをもとに表す 鑑賞を含む 第6回：工作に表す活動の解説と実践 鑑賞を含む 第7回：ポートフォリオ作成 授業のまとめ・講評 定期試験は実施しない			
テキスト ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』日本文教出版			
参考書・参考資料等 ・授業内で適宜紹介			
学生に対する評価 授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自身のポートフォリオによ			

り到達目標の(1)を評価する(60%)。

授業への出席状況，活動への取り組み，学習態度，作品の提出，ポートフォリオにより到達目標の(2)を評価する(40%)。

授業科目名： 家庭概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鈴木真優美
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 家庭		
授業のテーマ及び到達目標				
「自分の生活を問い直し、自ら考え、よりよい生活をしようとする家庭科の学び」				
・家庭科教育の意義や特質を考え、時代を展望した家庭科教育のねらいを理解し説明する。				
・多様化した現代の家庭や家庭で生活する子どもの生活実態について分析し、家庭生活の課題の解決に向けての手立てを考える。				
・小学校家庭科の目標や内容及び指導に必要な知識・技能、授業設計の方法等を理解する。				
授業の概要				
「家庭」は 社会の基本単位であり、生活の拠点である。社会のさまざまな影響を受けつつ生活する子どもの生活実態を捉え、人が人として成長する場である「家庭」の重要性を理解するとともに、「家庭」にかかわる問題解決能力や実践的な指導力の育成を図ることをねらいとする。また、家庭科教育の歴史を通して、家庭科教育の意義を考え、小学校学習指導要領における家庭科の目標・内容、家庭科で育む資質・能力などを理解する。さまざまな資料や情報を収集し、子どもの実態を探りながら、課題解決を考えたり、生活スキルの学びを理解し、自らの生活に生かしたり、シティズンシップ教育と家庭科について考察したりする。				
授業計画				
第1回：「家庭概論」のガイダンスを行い、シラバスの概略、評価計画、授業の特徴などを伝える。家庭科教育の意義と学びの特質、現代の「家族・家庭生活」の状況について考える。				
第2回：家庭科教育の4期にわたる変遷の歴史を明らかにしつつ、男女別習から男女共修、男女共同参画社会の実現へ歩み出した、新しい家庭科教育の展望を考える。小学校学習指導要領の変遷、小学校家庭科の学習指導要領の内容を通して、小学校家庭科の授業について考える。				
第3回：家庭科の学習内容と年間指導計画、指導と評価の計画を分析し、授業設計について考える。				
第4回：複数の資料を活用して、子どもの生活実態を捉え、グループ討議を行い、課題を明確にして解決の糸口を探る。資料で読み取ったことをもとに時間外学習でレポートをまとめ、発表原稿も作成する。				
第5回：前時までに捉えた子どもの生活課題と解決に向けてのレポートをもとに、実態把握と問題解決について意見交換して考える。子どもの生活課題と解決に向けて、よりよく生きようとするWell-Beingの学びを考える。				
第6回：いくつかの教育実践例をもとに「生活スキルの学び」の要素を視点として分析し、生涯を通し				

てスキルアップを図る「生活スキルの学び」の要素について理解する。「KJ法」等学習ツールを用いた学習の効果についても考える。「生活スキルの学び」を実践するための調理実習を計画し、調理実習および実習レポートは時間外学習で行う。

第7回：グローバルな市民性を培うシティズンシップ教育と家庭科教育の関連の必要性について考える。多様な価値を自らに位置づけて考えるためにディベートの概要を学び、社会をとりまく多様な価値を包含する話題をもとに、シティズンシップを培う。ポートフォリオをもとに家庭概論のまとめと振り返りを行う。

定期試験は実施しない。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 家庭編」（平成29年告示 文部科学省）

随時、必要な資料を講義資料として配付する。

参考書・参考資料等

「小学校 新しい家庭5・6」浜島京子・岡 陽子

「わたしたちの家庭科5 6」鳴海多恵子・石井克枝・堀内かおる

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」小学校家庭、国立教育政策研究所教育課程研究センター

学生に対する評価

毎回のワークシート、小テストの内容（40%）、子どもの実態調査、資料収集状況及びレポート（20%）、調理実習レポート（20%）、ポートフォリオ（まとめ、振り返り）（20%）

授業科目名： 小学体育Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 木原 洋一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 小学生の発達段階に応じた指導方法を理解する			
・ 「体ほぐしの運動」のうち「気づき」「交流」の特性および小学生への適応性を体得・理解する			
・ 「ボール運動」のうち「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」の特性および小学生への適応性を体得・理解する			
授業の概要			
本科目では、小学校における体育の6領域のうち、「体づくり運動」（特に「体ほぐしの運動」）および「ボール運動」に焦点を当てる。「体ほぐしの運動」は制度的な位置づけの要素が強く、実施のための内容や方法が不十分な現状にある。本科目では、「体ほぐしの運動」の実技等を通して、上記の諸問題にアプローチする。また「ボール運動」では、種目の教材化が必要となる一方で、近年ではプレルボールやティーボール、フラッグフットボールといった、既存の学校体育ではあまり扱われなかった新たな種目に注目が集まっている。本科目では、後者の実技等を通して、上記の諸問題にアプローチする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、小学体育における「体づくり運動」ならびに「ボール運動」の現状			
第2回：子どもの技能段階や発達段階に応じた指導			
第3回：小学体育における指導のポイント：インストラクション、巡視、相互作用			
第4回：「気づき」に焦点を当てた「体ほぐしの運動」			
第5回：「交流」に焦点を当てた「体ほぐしの運動」			
第6回：G ボールをもちいた「体ほぐしの運動」			
第7回：「体ほぐしの運動」における指導のポイント			
第8回：「ゴール型」に焦点を当てた「ボール運動（アルティメット）」			
第9回：「ゴール型」に焦点を当てた「ボール運動（フラッグフットボール）」			
第10回：「ネット型」に焦点を当てた「ボール運動（プレルボール）」			
第11回：「ネット型」に焦点を当てた「ボール運動（ソフトバレーボール）」			
第12回：「ベースボール型」に焦点を当てた「ボール運動（ハンドベースボール）」			
第13回：「ベースボール型」に焦点を当てた「ボール運動（ティーボール）」			
定期試験			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
高橋健夫・岡出美則監訳（1999）ボール運動の指導プログラム—楽しい戦術学習の進め方。明治図書出版。			
学生に対する評価			
授業へのコミットメント（5%*13回＝65%）/定期試験（35%）			

授業科目名： 小学体育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 木村 和宏
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育		
授業のテーマ及び到達目標 運動特性を理解し、発育発達段階に応じた指導法を習得する。			
授業の概要 本授業は、小学年代の運動特性を理解し、ボール運動・ボールゲームを実践する中で、その指導について実践する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：一般コーディネーション（概論、トレーニング、注意点等） 第3回：鬼ごっこ、鬼遊び、ドッチボール（ボールを使わないボール運動学習、スロー、キャッチ、かわす） 第4回：ベースボール型ボール運動（ベースボール型ボール運動の特徴） 第5回：ベースボール型ボール運動と指導実習①（キックベースボール） 第6回：ベースボール型ボール運動と指導実習②（ハンドベースボール） 第7回：ネット型ボール運動（ネット型ボール運動の特徴） 第8回：ネット型ボール運動と指導実習①（バドミントン） 第9回：ネット型ボール運動と指導実習②（ソフトバレー） 第10回：ゴール型ボール運動（ゴール型ボール運動の特徴） 第11回：ゴール型ボール運動と指導実習①（サッカー、フットサル） 第12回：ゴール型ボール運動と指導実習②（ハンドボール） 第13回：ゴール型ボール運動と指導実習③（ミニバスケットボール）、まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト その都度紹介する。			
参考書・参考資料等 その都度紹介する。			
学生に対する評価 授業での取り組み、姿勢、課題レポートなど総合して評価する。			

授業科目名： 小学体育Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清水 由
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育		
授業のテーマ及び到達目標 小学校の体育授業を担当できるようになるための素地を獲得させる。 具体的には、次の3つの事項を到達目標とする。 1. 学習指導要領解説に示された小学校体育科の内容の概要を理解し、具体的な内容や方法を習得する。 2. 実践的な模擬授業を構成することで学習指導要領および解説書の理解を深め、その指導方法について仲間と意見交換する。 3. 教師になることを想定し、実際の児童のつまずきを理解してその対応としての指導方法を学ぶ。			
授業の概要 小学校体育授業における学習内容・教材や課題づくり、学習指導要領の概要について、身体活動を通して理解を深め、小学校で授業を担当する指導者としての資質の向上を主要なねらいとする。 次学年で開講される教科指導法（体育）につながる小学校体育の指導内容・指導方法の基本を学ぶ科目である。 教室での講義と実技を通しての学びとなる。			
授業計画 第1回：学習指導要領の理解① ー体育授業の目標内容ー 学習指導要領で示されている目標について理解する。 社会的な課題に応じて変化する教育の大きな流れとともに、体育授業の目標の変遷や構造を理解する。 また、今後の授業の見通しを持ち、全11グループをつくり、模擬授業提案する日を決める。 第2回：学習指導要領の理解② ー体育授業の内容・方法ー 現行の学習指導要領で示されている内容について理解する。 特に、体育科に示された6領域について、その具体について理解する。 第3回：体づくり運動領域の内容と方法① ー基本的な運動遊びー 体づくり運動領域のうち、基本的な運動遊びについてのICT機器の活用を考慮した模擬授業を行う。			

運動遊びの授業について、子供の反応やつまずきを中心に遊びとしての指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第4回：体づくり運動領域の内容と方法② ーなわとびを使った授業ー

体づくり運動領域のうち、なわとびを使った模擬授業を行う。

なわとびを使った授業について、子供の反応やつまずきを中心にその指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第5回：器械運動領域の内容と方法① ー基礎感覚づくりー

器械運動領域のうち、基礎感覚づくりの運動についてのICT機器の活用を考慮した模擬授業を行う。

基礎感覚づくりの運動の授業について、子供の反応やつまずきを中心に遊びとしての指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第6回：器械運動領域の内容と方法② ー跳び箱を使った授業ー

器械運動領域のうち、跳び箱を使った授業、特に開脚跳びについてのICT機器の活用を考慮した模擬授業を行う。

跳び箱を使った授業について、子供の反応やつまずきを中心に遊びとしての指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第7回：器械運動領域の内容と方法③ ー鉄棒を使った授業ー

器械運動領域のうち、鉄棒を使った授業についての模擬授業を行う。

鉄棒を使った授業について、子供の反応やつまずきを中心に遊びとしての指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第8回：器械運動領域の内容と方法④ ーマットを使った授業ー

器械運動領域のうち、マットを使った授業についてのICT機器の活用を考慮した模擬授業を行う。

マットを使った授業について、子供の反応やつまずきを中心に遊びとしての指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第9回：ボール運動系の領域の内容と方法① ーおに遊びー

ボール運動系のうち、おに遊びの授業についての模擬授業を行う。

おに遊びの授業について、子供の反応やつまずきを中心にその指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第10回：ボール運動系の領域の内容と方法② ーゴール型ー

ボール運動系のうち、ゴール型の授業についてのICT機器の活用を考慮した模擬授業を行う。

ゴール型の授業について、子供の反応やつまずきを中心にその指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第11回：ボール運動系の領域の内容と方法③ ーネット型ー

ボール運動系のうち、ネット型の授業についてのICT機器の活用を考慮した模擬授業を行う。

ネット型の授業について、子供の反応やつまずきを中心にその指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第12回：ボール運動系の領域の内容と方法④ ―ベースボール型―

ボール運動系のうち、ベースボール型の授業についてのICT機器の活用を考慮した模擬授業を行う。

ベースボール型の授業について、子供の反応やつまずきを中心にその指導方法を考え、身体活動を伴って理解する。

第13回：模擬授業の振り返り

自らの行った模擬授業を体育授業の観察者視点から模擬映像を見て振り返りを行う。

定期試験は実施しない

テキスト

『小学校学習指導要領解説 体育編』

参考書・参考資料等

『テキストブック 授業のユニバーサルデザイン 体育』一般社団法人日本授業UD学会

学生に対する評価

毎回のふりかえりと3つの課題で評価を行う。

出席回数が3分の2に満たない場合には、本学の規定に基づき単位認定しない。

毎回のふりかえ（30％）・・・到達目標1、3

課題1 模擬授業の指導技量・内容（20％）・・・到達目標1、2

課題2 模擬授業のレポート（20％）・・・到達目標1、2

課題3 児童のつまずきとその指導法の理解と工夫（30％）・・・到達目標3

試合等でやむを得ず欠席する場合は届け出を提出する。

授業科目名： 外国語概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 奥村耕一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
自律的に課題に取り組む学習習慣を確立し、教員として必要な資質・能力を身につけるとともに、自らの学びを実践的な知識・技能に結び付くようになることが最終的な目標である。			
授業の概要			
小学校における外国語活動（中学年）ならびに外国語科（高学年）の授業を担当するために、学習指導要領の内容を理解し、中学校への接続も踏まえながら、外国語としての英語教育に関する基本的な知識や背景的な知識を身につけることをねらいとする。併せて、授業運営や学習評価の考え方や方法について知り、学習指導案の作成方法も実践的に学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、小学校の外国語教育についてこれまでに学んだこと、学級担任及びALTの役割とティーム・ティーチングの在り方、英語の授業についての基本的事項の理解			
第2回：児童の実態把握と外国語活動・外国語科における授業実践に必要な力と学習集団を育む活動（グループワーク、ペアワーク）の在り方、教材としての児童文学の理解			
第3回：外国語活動・外国語科における授業実践に必要な力・学習指導案の書き方と作成・ICTの効果的な活用			
第4回：外国語活動における授業実践と評価の実際（評価の観点・評価規準・判定基準・評価方法）			
第5回：外国語科（ 科 英語科）における基本的事項についての評価の実際（評価の観点・評価規準・判定基準・評価方法）			
第6回：授業実践において学習意欲を高め、自尊感情を育てる力量形成、自己評価、相互評価の在り方			
第7回：小・中・高等学校の連携の在り方と小学校英語の役割、総復習と筆記試験			
テキスト			
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編（文部科学省・開隆堂） Let's Try! 1・2（文部科学省・東京書籍）、We Can! 1・2（文部科学省・東京書籍）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜提示する。			
学生に対する評価			
毎回の授業後のレポート 30%、授業への貢献（活動やディスカッションへの参加状況、発表の状況） 40%、筆記試験 30%			

授業科目名： 人文科学系教科総論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮津大蔵、奥村耕一
				担当形態： オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 日本語、英語の運用に関わる基本的な事項を知る。（知識・技能）				
2. より適切な言語表現をすることができる。（思考・判断・表現）				
3. 日常生活の中で言語表現に関して意識を高める。（主体的な学び）				
授業の概要				
大学での学び、および社会生活を営む上で基礎となる国語科・英語科の運用能力を向上させることをねらいとしている。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション 国語科、英語科それぞれのねらい、学びの見通し（担当：宮津大蔵）				
第2回：敬語 敬語の種類と使い分け、注意すべき敬語、配慮を示す言葉（担当：宮津大蔵）				
第3回：文法 品詞・活用の種類、ら抜き言葉、文のねじれと言葉の係り受け、接続語・指示語（担当：宮津大蔵）				
第4回：語彙・言葉の意味 類義語・対義語、視点、文体（担当：宮津大蔵）				
第5回：漢字・表記 部首・音訓・熟語、仮名遣い、送り仮名（担当：宮津大蔵）				
第6回：文章表現1 ノートの取り方、メールの書き方（担当：宮津大蔵）				
第7回：文章表現2 情報の集め方と図書館の利用法（担当：宮津大蔵）				
第8回：文章表現3 レポート、論文の書き方（担当：宮津大蔵）				
第9回：英語の歴史と現代社会における英語の役割英語の歴史 世界の英語（担当：奥村耕一）				
第10回：英語の音声の特徴（リズム、イントネーション、発音）日本語のリズムと英語のリズムの違い イントネーション、アクセント、発音 P h o n i c s（担当：奥村耕一）				
第11回：英語の音声（チャンツ、歌） チャンツの作り方 英語の歌（担当：奥村耕一）				
第12回：日常生活の語彙 日常生活や学校生活で使う語彙（担当：奥村耕一）				
第13回：クラスルーム・イングリッシュ 外国語活動や外国語科の授業で使うやさしい英語表現（担当：奥村耕一）				
定期試験				
テキスト 随時連絡する。				
参考書・参考資料等 随時連絡する。				
学生に対する評価				
到達目標に照らして総合的に評価する。				

授業科目名： 社会科学系教科総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤孔美
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標			
社会諸科学の学問内容、学問方法等、さらにはそれらと社会科学系教科の関係等を理解している。			
社会科学系教科と社会諸科学に関係について考察し、表現することができる。			
社会諸科学を主体的に学ぼうとし、その学びを、社会科学系教科に活かそうとしている。			
授業の概要			
小学校における社会科学系教科（生活科・社会科）について学ぶための基礎ついて学習します。まず、小学校における社会科学系教科の基礎となっている社会科学にはどのようなものがあり、どのような学問なのかを概観します。それらを踏まえて、小学校における社会科学系教科（生活科・社会科）はどのようなものか、小学校の教育課程においてどのような位置にあり、他教科等とどのような関係にあるかなどを学習します。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
社会科学とはどのようなものか			
第2回：社会科における内容の枠組み			
「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に関連する社会科学の概要			
第3回：社会科における内容の枠組み			
「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に関連する社会科学の学問内容			
第4回：社会科における内容の枠組み			
「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に関連する社会科学の学問方法			
第5回：社会科における内容の枠組み			
「地理的環境と人々の生活」に関連する社会科学の概要			
第6回：社会科における内容の枠組み			
「地理的環境と人々の生活」に関連する社会科学の学問内容			
第7回：社会科における内容の枠組み			
「地理的環境と人々の生活」に関連する社会科学の学問方法			
第8回：社会科における内容の枠組み			
歴史と人々の生活」に関連する社会科学の概要			

第9回：社会科における内容の枠組み

「歴史と人々の生活」に関連する社会科学の学問内容

第10回：社会科における内容の枠組み

「歴史と人々の生活」に関連する社会科学の学問方法

第11回：社会科学系教科の歴史

小学校・中学校・高等学校における社会科学系教科

第12回：小学校における社会科学系教科

社会科学系教科と社会諸科学

第13回：生活科の概要

生活科と社会諸科学

定期試験は実施しない

テキスト

『小学校学習指導要領解説 生活編』（文部科学省 著）

『小学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省 著）

参考書・参考資料等

小学校社会科検定教科書

学生に対する評価

小テスト40%、レポート30%、受講態度30%

出席は80%以上必要。授業における取り組み、テスト、レポートなどにより総合的に評価する

授業科目名： 自然科学系教科総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中野英之、峰野宏祐
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 小学校算数および理科における概念や原理・法則の基礎的な理解と、問題解決に必要な基礎的な技能を習得する。			
2. 小学校算数および理科において学んできた概念や問題解決の技能等を新たな課題に活用し他者に伝えられるようにする。			
3. 小学校算数および理科で見出された問題を主体的に解決しようとする姿勢や、自ら学ぼうとする態度を身に付ける。			
授業の概要			
小学校算数・理科の目標や内容の基本的事項について、実感を伴った理解を図り、必要な資質・能力について具体的に学んでいく。さらに、算数の数と計算・図形・測定・変化・データの活用や、理科の各領域（物理・化学・生物・地学）固有の見方・考え方を踏まえ、基本的な活動を含めた適切な理解を深めるとともに、指導方法や評価と結び付けて考えていく。その際、学習内容に即して、具体的・実践的に考えていくことが必要であり、授業を行う際の指導に関連づけた活動を随時加えて授業を進めていく。			
授業計画（第1回～7回：算数（担当：峰野 宏祐）、第8回～13回：理科（担当：中野英之））			
第1回：ガイダンス：なぜ算数を学習するの？数学的活動を通して算数教育の意義を考える（担当：峰野宏祐）			
第2回：たし算・ひき算 加法・減法の意味をはじめとした「A.数と計算」領域の教材研究（担当：峰野宏祐）			
第3回：小数で割るってどういうこと？ 数の拡張をはじめとした「A.数と計算」領域の教材研究（担当：峰野宏祐）			
第4回：第6回：図形がわかる、とは？ 図形概念理解をはじめとした「B.図形」領域の教材研究（担当：峰野宏祐）			
第5回：どうやって比べるの？ 比較から普遍単位に向けた「C.測定」領域の教材研究（担当：峰野宏祐）			
第6回：昨今求められる「データを活用する力」とは？「D.データの活用」領域の教材研究（担当：峰野宏祐）			
第7回：算数の授業を見てみよう 試験（算数分野）（担当：峰野宏祐）			
第8回：ガイダンス：理科教育の意義、理科実験における安全性の確保について考える。（担当：中野英之）			
第9回：実験・実習を軸とした理科の授業のデザインについて。（担当：中野英之）			
第10回：物理分野：電気回路に関する実験を通して、多面的な視点で物理分野を捉える。（担当：中野英之）			
第11回：化学分野：身近な材料を用いた化学実験を通して、多面的な視点で化学分野を捉える。（担当：中野英之）			
第12回：生物分野：ヒトの体に関する実験を通して、多面的な視点で生物分野を捉える。（担当：中野英之）			
第13回：地学分野：地学現象に関する実験を通して、多面的な視点で地学分野を捉える。（担当：中野英之）			
定期試験：試験期間中に試験（理科分野）を行う。			

テキスト

授業内で適宜紹介する。

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介するとともに、必要に応じて資料を配布する。

学生に対する評価

算数・理科分野の合算で評価する。

算数分野：授業への積極的参加、毎回の課題 40%、レポート 20%、試験 40%

理科分野：毎回の課題 50%、試験 50%

授業科目名： 教科指導法（国語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮津 大蔵
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ① 学習指導要領を踏まえ、目標・内容、育成する資質・能力を理解し、小学校国語科のICT機器の活用を含めた学習指導案を作成できる。 ② 国語科の模擬授業において分担された役割を果たすことができる。 ③ 研究協議会において授業分析・考察が出来る。			
授業の概要 初等国語概説で学んだ基礎・基本を生かし、小学校における国語科の授業を実際に行うことが出来るように演習的に学ぶ。具体的には国語科の各領域の教材研究、学習指導案作成、模擬授業等を通して、実際の学習指導ができるようにする。教材研究に基づく学習指導案を作成し、模擬授業を通して実践力をつける。授業分析を通して、グループの取り組みについて成果と課題を的確に指摘できること等を目指す。小学校教員養成課程における小学校教員免許取得のために必要不可欠な科目である。 「卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連」卒業後、小学校教員としてふさわしい基礎的知識・技能を身に付ける。 ■実務経験のある教員による授業科目			
授業計画 第1回：ガイダンス、今後の授業計画について オリエンテーション（学習指導要領、授業内容、履修、評価の仕方等の包括的説明）グループニング、教材・課題選択 事前学習 小学校国語科の実践について調査する。 事後学習 担当する課題について調査する。 時間外学習 指導案、教材研究、教材づくり等、時間外にもグループでの作業が必要になります。 第2回：ICT教材・教具（デジタル教科書、電子黒板、タブレット端末等）を使った実践について 事前学習 ICTを使った実践について調査する。 事後学習 使用方法について習熟する。 時間外学習 教材研究（国語科学習指導案について） 第3回：課題別・グループ別による教材研究と学習指導案作成 事前学習 担当する課題について調査する。			

事後学習 担当課題についてさらに調査を進める。

時間外学習 教材研究（現代国語教育の課題について・単元計画の実際について）を進める。

第4回：「話すこと・聞くこと」領域の模擬授業及び研究協議事前学習

事前学習「話すこと・聞くこと」領域の実践について調査する。

事後学習 模擬授業の成果、改善点、課題について整理する。

時間外学習 次回研究授業（模擬授業と授業検討会）の準備をする。

第5回：「書くこと」領域の模擬授業及び研究協議

事前学習「書くこと」領域の実践について調査する。

事後学習 模擬授業の成果、改善点、課題について整理する。

時間外学習 次回研究授業（模擬授業と授業検討会）の準備をする。

第6回：「読むこと」領域の模擬授業及び研究協議

事前学習「読むこと」領域の実践について調査する。

事後学習 模擬授業の成果、改善点、課題について整理する。

時間外学習 次回研究授業（模擬授業と授業検討会）の準備をする。

第7回：「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する模擬授業及び研究協議

事前学習「伝統的な言語文化」に関する実践について調査する。

事後学習 模擬授業の成果、改善点、課題について整理する。

時間外学習 ここまでの学びを振り返ってまとめる。

テキスト

小学校学習指導要領解説 国語編他

参考書・参考資料等

その都度紹介する。

学生に対する評価

レポート及び授業中のパフォーマンスなどで総合的に評価する。ペーパーによる試験は行わない。模擬授業における各自の役割分担（学習指導案作成能力、授業表現力）70％ 研究協議会における発言、成果と課題の指摘等30％【フィードバック】研究協議会において、模擬授業についての指導講評を行う。

授業科目名： 教科指導法（社会）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤孔美
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 社会		
授業のテーマ及び到達目標			
学習指導要領を踏まえ、社会科の目標・内容について理解し、社会科の授業に必要な基本的な知識・技法等を身につけることができる。			
社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて社会へのかかわり方を選択・判断することができる。			
よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を身に着けるとともに、社会科の授業づくりに意欲的に取り組むことができる。			
授業の概要			
小学校社会科の教科としての意義と特質、また小学校社会科の目標・内容等についての理解を深めます。また、授業ビデオの視聴、学習指導案の作成や模擬授業の実施など、演習形式を取り入れ、社会科指導についての意欲を高めるとともに、社会科の授業に必要な基本的な知識・技法等を身に付けます。			
授業計画			
第1回：小学校第3学年社会科の目標、内容等			
第2回：小学校第4学年社会科の目標、内容等			
第3回：小学校第5学年社会科の目標、内容等			
第4回：小学校第6学年社会科の目標、内容等			
第5回：小学校中学年社会科の授業作り			
第6回：小学校高学年社会科の授業作り			
第7回：模擬授業における協議会、まとめ			
模擬授業の実施（児童の実態に合わせた教材開発、指導案作成（情報通信技術の活用を含む））			
定期試験は実施しない			
テキスト			
『小学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）			
参考書・参考資料等			
小学校社会科検定教科書			
学生に対する評価			
小テスト30%、受講態度30%、課題40%			

出席は80%以上必要とする。授業における取組、テスト、レポート等により総合的に評価する。

授業科目名： 教科指導法（算数）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 峰野 宏祐
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 算数		
授業のテーマ及び到達目標			
・教科用図書で扱われる教材の分析及び数学的系統からの考察によって得られる知見に基づく望ましい算数的活動について理解する。			
・学習指導要領をふまえ、小学校算数科の学習を通して、児童がどのような資質・能力を育んでいくべきか、具体を通して自分なりに述べられるようにする。			
授業の概要			
小学校算数科における各領域の内容について、算数的活動を通してその本質（数学的意味や背景）を理解する。また、算数とは何か、小学校算数科においてどのような資質・能力を育んでいくかについて、協働的な学びを通して考察していく。			
授業計画			
第1回：誰のため？何のため？算数科における学習指導案のかき方			
第2回：文章題はなぜ難しいのか 言葉と算数学習			
第3回：児童は何に困っている？ 全国学力・学習状況調査をもとに、算数教育の諸課題について検討する（学習評価含む）			
第4回：本当に意味のあるICT活用とは 算数授業とICT活用			
第5回：模擬授業・協議会			
第6回：模擬授業・協議会			
第7回：模擬授業・協議会、まとめ			
定期試験			
テキスト			
小学校学習指導要領解説 算数編			
参考書・参考資料等			
平川 賢「授業場面でわかる！算数用語ハンドブック」東洋館出版社			
学生に対する評価			
授業への積極的な参加、課題、レポート、模擬授業、試験等を総合して評価する。			
・授業への積極的な参加、課題、模擬授業、ノート提出等40％			
・レポート（学習指導案を含む） 20％			
・試験 40％			

授業科目名： 教科指導法（理科）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中野 英之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 理科		
授業のテーマ及び到達目標			
1．小学校理科における学習指導要領の内容について理解を深めることができる。 2．実験・実習をベースとした授業の立案方法を習得するとともに、授業実践を行うことができる。			
授業の概要			
小学校理科の学習指導要領の内容について理解を深めるとともに、模擬授業を通して実験・実習に関する指導技術や授業づくりを受講生が体験しながら習得する。			
授業計画 模擬授業については、受講生を全 20 班に分けて実施する。			
第 1 回：全員：小学校理科の目標、目指す資質・能力、評価の観点及び評価の方法について。 （オンデマンド、課題）			
第 2 回：全員：小学校理科における、観察・実験活動に関わる思考力・表現力、ポートフォリオの作り方について。（オンデマンド、課題）			
第 3 回：全員：理科における授業づくり、指導案の作成方法（ICT 機器の活用を含む）。 （オンデマンド、課題）			
第 4 回：模擬授業①（1～5 班）（対面で実施） 理科の指導内容および児童の実態を踏まえた教材開発、指導案の作成、模擬授業。 ※模擬授業は授業前に略案を作成・提出し、授業後指定された日時までに細案を作成・提出する。 全員：理科で指導する内容 1（エネルギーの柱、粒子の柱）（オンデマンド、課題）			
第 5 回：模擬授業②（6～10 班）（対面で実施） 理科の指導内容および児童の実態を踏まえた教材開発、指導案の作成、模擬授業。 全員：理科で指導する内容 1（生命の柱、地球の柱）（オンデマンド、課題）			
第 6 回：模擬授業③（11～15 班）（対面で実施） 理科の指導内容および児童の実態を踏まえた教材開発、指導案の作成、模擬授業。			
第 7 回：模擬授業④（16～20 班）（対面で実施） 理科の指導内容および児童の実態を踏まえた教材開発、指導案の作成、模擬授業。 全員：授業のまとめ（オンデマンド）			
定期試験 試験期間中に実施する。			
テキスト			
小学校学習指導要領解説－理科編－			
参考書・参考資料等 授業で適宜紹介する。			
学生に対する評価			
試験（30%）、課題（40%）、模擬授業（40%）の合算で評価する。			

授業科目名： 教科指導法（生活）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中野 英之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 生活		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 学習指導要領における目標及び内容を踏まえた上で、生活科は遊びなど具体的な活動を通して気付きの質を高め、自立し生活を豊かにしていくための学習であることを理解し、そのための基本的な知識・技能（ICT 機器の活用を含む）の習得を目指す。			
2. 気付きの質を高める実習を工夫したり、児童の特徴である思考と表現の一体化を踏まえた授業づくりをしたりするなど、実践的指導力の基礎を身に付ける。			
3. 将来小学校教員として児童の多様性を進んで理解しようとする態度や、授業に以下説ように自ら学んでいく姿勢を身に付けることに重点をおく。			
授業の概要			
生活科は、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を」育成することを目標としている。本科目においては、講義だけでなく実際に模擬授業を行うことにより、生活科の教科としての意義と特質についての理解を深める。また、三つの資質・能力の柱、9つの学習内容を把握した上で、気付きの質の向上目指した適切な指導法を選ぶとともに、評価と結び付けて考えていく。特に活動を通して思考する低学年児童の特徴を踏まえ、児童の思いや願いに即した指導ができるよう、指導と関連付けた授業を進める。			
授業計画 ※模擬授業は履修者を 20 班に分けて実施する。			
第 1 回：全員：生活科における目標、具体的な活動や体験の意義。（オンデマンド、課題） ICT 機器の活用			
第 2 回：全員：生活科における授業づくりと学習指導案について。（オンデマンド、課題）			
第 3 回：全員：生活科における気付きの質の向上、指導と評価の一体化について。 （オンデマンド、課題）			
第 4 回：模擬授業①（1～5 班）（対面で実施） 生活科の指導内容および児童の実態を踏まえた教材開発、指導案の作成、（ICT 機器の活用を含めた）模擬授業。 ※模擬授業は授業前に略案を作成・提出し、授業後指定された日時までに細案を作成・提出する。 全員：生活科における 9 つの内容の階層性について（オンデマンド、課題）			
第 5 回：模擬授業②（6～10 班）（対面で実施） 生活科の指導内容および児童の実態を踏まえた教材開発、指導案の作成、（ICT 機器の活用を含めた）模擬授業。 全員：生活科における 9 つの各内容について（オンデマンド、課題）。			
第 6 回：模擬授業③（11～15 班）（対面で実施） 生活科の指導内容および児童の実態を踏まえた教材開発、指導案の作成、（ICT 機器の活用を含めた）模擬授業。			
第 7 回：模擬授業④（16～20 班）（対面で実施） 生活科の指導内容および児童の実態を踏まえた教材開発、指導案の作成、（ICT 機器の活用を含めた）模擬授業。 全員：授業のまとめ（オンデマンド）			
定期試験 試験期間中に実施する。			
テキスト			

小学校学習指導要領解説－生活編－
参考書・参考資料等 授業で適宜紹介する。
学生に対する評価 試験（30%）、課題（40%）、模擬授業（40%）を合算して評価を行う。

授業科目名： 教科指導法（音楽）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷本 直美
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 音楽		
授業のテーマ及び到達目標 ・学習指導要領における音楽科の目標及び内容とICT機器の活用を含めその指導法について理解することができる。（知識・技能） ・模擬授業体験及び模擬授業実践を通して、自身の課題を見出し、思考判断したことを表現している。（思考・判断・表現） ・教師による模擬授業後の協議ならびに模擬授業の立案・準備に取り組み、積極的に他者と意見交換している。（主体的な学び）			
授業の概要 音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された音楽科の学習内容について背景となる芸術領域と関連させて理解を深めるとともに、授業参観ならびに常時活動の模擬実践に向けた取り組みを通して授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 小学校6年間に見る音楽表現の特徴 第2回：音楽科の目標 共通教材1年生 歌唱の指導について① 第3回：共通事項 共通教材2年生 歌唱の指導について②（ICT機器の活用を含む） 第4回：共通教材3年生 器楽の指導について① 第5回：共通教材4年生 器楽の指導について②（ICT機器の活用を含む） 第6回：共通教材5年生 音楽づくりの指導について① 第7回：共通教材6年生 音楽づくりの指導について②（ICT機器の活用を含む） 第8回：鑑賞の指導について① 第9回：鑑賞の指導について②（ICT機器の活用を含む） 第10回：常時活動について 第11回：常時活動の立案 第12回：常時活動の模擬実践①（ICT機器の活用を含む） 第13回：常時活動の模擬実践②（ICT機器の活用を含む） 定期試験は実施しない			
テキスト 小学校学習指導要領音楽編			

参考書・参考資料等

小学校音楽科教科書

学生に対する評価

毎時間の取り組みとミニレポート、模擬授業、筆記試験から総合的に判断する。

授業科目名： 教科指導法（図画工 作）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 名達英詔
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ： 子どもの強い興味関心に支えられ、身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作科について、小学校学習指導要領をもとに、その目標、内容を踏まえた指導や評価について学ぶ。 (1)図画工作科の意義と役割、教科に関する基礎的知識及び実践的技能を発揮することができる。 (2)図画工作科の意義と役割、教科に関する基礎的知識及び実践的技能をもとにICT機器の活用を含め指導を構想することができる。 (3)図画工作科の意義と役割について理解を深め、教科に関する知識・技能を自ら学ぶ姿を醸成できる。			
授業の概要 図画工作科の指導法について、講義及び造形活動を体験しつつ図画工作の意義と役割について理解を深めるとともに、実際に授業を行うときに必要となる知識や技能、態度、情報機器の活用等を身につける。			
授業計画 第1回：ガイダンス・図画工作科の特性・目標と内容解説 第2回：図画工作科の学習指導案解説（ICT機器の活用、展開、評価等） 第3回：指導法1 造形遊び「身近な材料で・身近な環境で」についての検討・模擬授業 第4回：指導法2 絵に表す「想いを表す」についての検討・模擬授業 第5回：指導法3 立体に表す「箱を組み合わせる」についての検討・模擬授業 第6回：指導法4 工作に表す「遊べる工作」についての検討・模擬授業 第7回：ポートフォリオの作成 授業のまとめ・講評 定期試験は実施しない			
テキスト ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』日本文教出版			
参考書・参考資料等 授業内にて適宜紹介			

学生に対する評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自身のポートフォリオにより到達目標の(1)(2)を評価する(60%)。

授業への出席状況、活動への取り組み、学習態度、作品の提出、ポートフォリオにより到達目標の(3)を評価する(40%)。

授業科目名： 教科指導法（家庭）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鈴木真優美 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 家庭		
授業のテーマ及び到達目標 「家族の一員として生活をよりよくしようと実践できる家庭科の学習」 ・家庭科の学習が、子どもの日常生活を学習の対象としていることを理解し、社会のさまざまな影響を受け、家庭で生活する子どもの生活実態を捉えながら、生活を問い直す家庭科を考える。 ・小学校家庭科の授業設計に必要な知識と技能を習得し、学習指導案作成を通して、よりよい生活を目指した授業づくり（ICT機器の活用を含む）を行う。 ・社会のさまざまな影響を受けつつ、家庭で生活する子どもの生活実態を捉えながら、家庭の問題を探りつつ、課題の解決に向け、よりよく改善しようとする子どもを育てるための題材を工夫することができる。			
授業の概要 時代の状況を捉えつつ、自らの生き方を問い、生活を創る学びを通して、教育者としての問題解決能力や実践的な指導力の育成を図ることをねらいとする。小学校学習指導要領家庭科の目標及び内容を理解し、学習指導案の構成要素である題材目標、指導計画、評価計画、指導技術などについて学び、学習指導案を作成する。さらに、教材教具を作成し、発問や板書の計画を立て、模擬授業等の準備を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 家庭概論で学んだ事を振り返り、家庭科の目標及び内容、年間の学習指導計画・評価計画等について確認し今後の見通しをもつ。 第2回：内容A「家族・家庭生活」について、「家庭って何？」をもとに具体的な題材を考え、学習指導計画を立てる。 第3回：内容B「衣食住の生活」の衣生活について、授業実践「ミシンに挑戦しよう」及び授業実践「気持ちよい住まい方を考えよう」をもとに具体的な題材を考え、学習指導計画を立てる。ICTの活用についても考える。 第4回：内容C「消費生活・環境」について、授業実践「めぞう買い物名人」をもとに具体的な題材を考え、学習指導計画を立てる。ICTの活用についても考える。 第5回：「おいしくゆでよう」の実践例をもとに学習指導案作成の基本について考え、模擬授業を実施する。			

第6回：授業実践「家庭科室探検をしよう」をもとに、家庭科室の管理や衛生管理、子どもたちへの指導等の事柄を踏まえ、学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。

第7回：ポートフォリオをもとに教科指導法（家庭）について、学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。全体の振り返り、まとめを行う。

定期試験は実施しない。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 家庭編」（平成29年告示 文部科学省）

「小学校 新しい家庭5・6」浜島京子・岡 陽子

「わたしたちの家庭科5・6」鳴海多恵子・石井克枝・堀内かおる

随時、必要な資料を講義資料として配付する。

参考書・参考資料等

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」小学校家庭、国立教育政策研究所教育課程研究センター

「小学校家庭科教育法」大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子

「はじめての家庭科指導」内野紀子・鳴海多恵子・石井克枝・堀内かおる

学生に対する評価

各回のワークシート（振り返り）の内容（40%）、課題レポート（学習指導案略案等）の内容（40%）、ポートフォリオ（まとめ、振り返り）（20%）

授業科目名： 教科指導法（体育）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清水 由
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 体育		
授業のテーマ及び到達目標 小学校の体育授業を担当できるようになるための素地を獲得させる。 具体的には、次の3つの事項を到達目標とする。 1. 授業内容について、学習指導要領および解説書等で理解を深めて実践的な模擬授業に適用することができる。 2. それぞれの領域の教材研究の上で児童観、教材の特性、単元計画、目標、展開（ICT機器の活用）、学習評価を含めた学習指導案を作成し、授業を担当することができる。 3. リフレクションシートの作成等を通して指導を振り返り、授業改善に取り組むことができる。			
授業の概要 小学体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習を踏まえ、教材づくり、学習指導案作成、授業展開を通して体育授業を担当できる小学校教師としての力量形成を図る。 授業展開後、自らの授業動画から客観的なデータをとって振り返り、授業を再構築して再び授業展開を行う。			
授業計画 第1回：【オリエンテーション】 全授業の授業計画、および指導者グループづくり（1班2～3名程度×A・Bグループ 全10グループ）各グループの指導領域分担（全20授業）の決定。 学習指導要領および解説書の理解を踏まえ、児童観、教材の特性、単元計画、目標、展開（ICT機器の活用）、学習評価を含めた学習指導案作成について資料を通しての理解。 第2回：【マイクロティーチング】（インストラクション） 授業における教師行動（学習指導行動＝インストラクション、相互作用行動＝インタラクション、マネジメント、巡視行動＝モニタリング）のうち、インストラクションについて、授業場面を設定して展開する。主に、期間記録のとり方を理解し、よいインストラクションとマネジメント行動の在り方について考える。 第3回：【マイクロティーチング】（インタラクション） 授業における教師行動（学習指導行動＝インストラクション、相互作用行動＝インタラクション、マネジメント、巡視行動＝モニタリング）のうち、インタラクションについて、授業場面を設定して展開す			

る。主に、フィードバック行動の記録のとり方を理解し、よいインタラクションの在り方について考える。

第4回：【模擬授業Ⅰ-①】体づくり運動領域の模擬授業

体育館を2つに分け、それぞれで担当者が模擬授業を行う。

水泳を除く、体づくり運動（体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動）、器械運動（マット、跳び箱、鉄棒）、陸上運動（短距離走・リレー、幅跳び・高跳び、障害走）、ボール運動（ゴール型、ネット型、ベースボール型）の4領域から1領域（1種目）選んで指導案を作成し、1授業（30分）を2～3人で分担して指導する。

第5回：【模擬授業Ⅰ-②】器械運動領域の模擬授業

前週の授業についてサマリーシート（期間記録、声かけとその有効性）によって振り返る。

また、授業者は行った模擬授業のリフレクションシートを提出する。

指導グループは指導案を作成して提出し、1授業（30分）を2～3人で分担して指導する。

第6回：【模擬授業Ⅰ-③】陸上運動領域の模擬授業

前週の授業についてサマリーシート（期間記録、声かけとその有効性）によって振り返る。

また、授業者は行った模擬授業のリフレクションシートを提出する。

指導グループは指導案を作成して提出し、1授業（30分）を2～3人で分担して指導する。

第7回：【模擬授業Ⅰ-④】ボール運動領域の模擬授業

前週の授業についてサマリーシート（期間記録、声かけとその有効性）によって振り返る。

また、授業者は行った模擬授業のリフレクションシートを提出する。

指導グループは指導案を作成して提出し、1授業（30分）を2～3人で分担して指導する。

第8回：【模擬授業Ⅰの振り返り】

模擬授業Ⅰの全20授業についての一覧表を作成し、振り返りをする。

個々までに作成したサマリーシートについて、自分たちの授業や他の授業について比較しながら傾向を理解する。そして、2回目はICT端末を活用した模擬授業について考える。

第9回：【模擬授業Ⅱ-①】ICT端末を活用した体づくり運動領域の模擬授業

「模擬授業Ⅰ」の反省を生かしてそれぞれが2回目の模擬授業を行う。

「模擬授業Ⅰ」と同様にサマリーシートやリフレクションシートを使って振り返りを行う。

第10回：【模擬授業Ⅱ-②】ICT端末を活用した器械運動領域の模擬授業

「模擬授業Ⅰ」の反省を生かしてそれぞれが2回目の模擬授業を行う。

「模擬授業Ⅰ」と同様にサマリーシートやリフレクションシートを使って振り返りを行う。

第11回：【模擬授業Ⅱ-③】ICT端末を活用した陸上運動領域の模擬授業

「模擬授業Ⅰ」の反省を生かしてそれぞれが2回目の模擬授業を行う。

「模擬授業Ⅰ」と同様にサマリーシートやリフレクションシートを使って振り返りを行う。

第12回：【模擬授業Ⅱ-④】ICT端末を活用したボール運動領域の模擬授業

「模擬授業Ⅰ」の反省を生かしてそれぞれが2回目の模擬授業を行う。

「模擬授業Ⅰ」と同様にサマリーシートやリフレクションシートを使って振り返りを行う。

第13回：【模擬授業の振り返り，総括】

全40授業についての一覧表を作成し，本授業の総括をする。

自分たちの授業を中心に1回目と2回目を比べる。他の授業についても1回目と2回目を比較して全体の傾向を理解し、本授業における学びを振り返る。

テキスト

『小学校学習指導要領解説 体育編』

『テキストブック 授業のユニバーサルデザイン 体育』一般社団法人日本授業UD学会

参考書・参考資料等

『小学校体育 写真でわかる運動と指導のポイント（陸上，ボール，マット，とび箱，鉄棒，体づくり，なわとび，水泳）』大修館書店

学生に対する評価

毎回のふりかえりと3つの課題で評価を行う。

出席回数が3分の2に満たない場合には、本学の規定に基づき単位認定しない。

毎回の振り返り（20%）・・・到達目標1

課題1 学習指導案の作成および修正指導案の作成（20%）・・・到達目標1、3

課題2 模擬授業による実践的力量形成（40%）・・・到達目標1、2

課題3 模擬授業を観察・分析し、客観的に評価するレポート（20%）・・・到達目標2、3

授業科目名： 教科指導法（外国語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥村耕一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) 外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
自律的に課題に取り組む学習習慣を確立し、教員として必要な資質・能力を身につけるとともに、自らの学びを実践的な知識・技能に結び付くようになることが最終的な目標である。 小学校における活動、学習、指導、評価に関する基本的な理解や指導技術を身につける。			
授業の概要			
2020年度より実施の学習指導要領から、小学校中学年で外国語活動、高学年で教科として外国語が必修となっている。高学年では検定教科書を使用し、数値による学習評価が課せられている。授業は、担任が自ら計画を立て、実行し、改善することが求められているので、これまで学んできた教授法理論を基に、学習指導案の作成方法・実践的な指導方法・評価方法・授業改善方法を習得することをねらいとする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、模擬授業予定の確認、授業観察の方法、模範授業映像の視聴、グループディスカッション、模擬授業の担当グループの決定、学習指導要領を踏まえた目標・内容及び役割の理解			
第2回：国語教育との連携を含め、題材の選定・教材開発の方法、学習指導案の書き方と留意点、検定教科書の紹介、指導環境への対応方法			
第3回：言語習得のプロセスの理解、評価方法、評価規準の書き方と単元計画との関連、学習指導案の作成と修正			
第4回：模擬授業準備と授業シミュレーション			
第5回：外国語活動の模擬授業と授業評価（協議）－単元導入、目当ての提示、練習のあり方－			
第6回：外国語活動の模擬授業と授業評価（協議）－前時の振り返りと言語活動のあり方－			
第7回：外国語活動の模擬授業と授業評価（協議）－練習や言語活動を有機的に関連させる授業－			
第8回：外国語活動の模擬授業と授業評価（協議）－発表や成果物の作成－			
第9回：外国語科の模擬授業と授業評価（協議）－教材研究の仕方、指導計画について－			
第10回：外国語科の模擬授業と授業評価（協議）－ATLとのTTについて－			
第11回：外国語科の模擬授業と授業評価（協議）－ICT機器の効果的な活用について－			
第12回：外国語科の模擬授業と授業評価（協議）－パフォーマンス評価と到達度評価について－			
第13回：模擬授業の振り返りと学習指導案の修正、目標・内容及び教材についての理解、他の学校種との連携や多様な指導環境などを振り返る			

テキスト

Let's Try! 1・2（文部科学省・東京書籍）、We Can! 1・2（文部科学省・東京書籍）

参考書・参考資料等

イラストで見る全単元・全時間の授業のすべて 外国語 小学校5年、6年、外国語活動 小学校3年、4年（直山木綿子著 東洋館出版社）

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動（国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東洋館出版社）

小学校英語教育の基礎知識（村野井仁著 大修館書店）

Blue Sky elementary 5, 6（啓林館）、CROWN Jr. 5, 6（三省堂）、Here We Go! 5, 6（光村図書）、Junior Sunshine 5, 6（開隆堂）、JUNIOR TOTAL ENGLISH 1, 2（学校図書）、NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6, Picture Dictionary（東京書籍）、ONE WORLD Smiles 5, 6（教育出版）

学生に対する評価

授業への貢献（ディスカッションへの参加状況、発表の状況） 40%、模擬授業への取り組み状況（学習指導案の作成状況を含む） 30%、毎回の授業後のレポート 30%

授業科目名： 器械運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 後藤洋一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 以下の種目の基本的な技を習得する 1 マット運動：前転や後転等の接点技群、 倒立回転等のほん転技群の回転系の技、 倒立などの巧技系の技 2 跳び箱運動：切り返し系と回転系の跳躍技 3 鉄棒運動：前方と後方の回転技群から上がり技、支持回転技、 下り技 上記の運動のコツやポイントを理解する			
授業の概要 器械運動は、マット、鉄棒、跳び箱などの器械・器具を使った運動種目でそれぞれの器械・器具の特性をいかした「技」によって構成されている。学習指導要領ではこれらの技に挑戦し出来る喜びを味わい、自己の能力に応じて習得し円滑に実践・演技することが目標とされている。 本授業においては、マット、鉄棒、跳び箱の基本的な技の習得とともに教員採用試験で実施される実技試験に対応できることをねらいとする。さらに技の習得の過程で自己の身体の動かし方、練習方法の工夫、技の発表から課題を解決していくことを実践する。			
授業計画 第 1 回：ガイダンス 授業を受けるうえでの諸注意 器械運動の目的 第 2 回：マット運動(1) 回転系 接点技群の基本技：前転、後転 など ほん転技群の技：側方倒立回転 第 3 回：マット運動(2) 回転系 接点技群の発展技：伸膝後転 など 巧技系の技：倒立 など 第 4 回：マット運動(3) 回転系 接点技群の発展技：伸膝前転 など 巧技系の技：倒立、倒立前転 など			

第 5 回：マット運動(4) 習得した技を連続する

第 6 回：マット運動(5) マット運動のまとめ、実技試験

第 7 回：跳び箱運動(1)

切り返し系の技：開脚跳び、かかえ込み跳び 回転系の技：台上前転

第 8 回：跳び箱運動(2)

跳び箱運動の総合練習、実技試験

第 9 回：鉄棒運動(1)

後方支持回転技群 後転グループの技：逆上がり、後方支持回転

第 10 回：鉄棒運動(2)

前方支持回転技群 前転グループの技：前方支持回転、膝掛け振り上がり、
膝掛け前方支持回転

第 11 回：鉄棒運動(3)

下り技 踏み越し下り 転向下り など

第 12 回：鉄棒運動の総合練習鉄棒運動(4)

鉄棒運動のまとめ、実技試験

第 13 回：マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動の振り返り、まとめ

テキスト

必要に応じ資料を配付

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説 保健体育編

中学校学習指導要領解説 保健体育編

学校体育実技指導資料第 10 集 器械運動指導の手引 文部科学省

学生に対する評価

実技試験：60%(マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動)

平常点：30%(授業への参加度、授業への取り組み)

レポート：10%(毎回の授業内容をまとめる、点検後返却する)

授業科目名： 水泳	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井口 成明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
本講座は、個人種目、競争的及び克服型スポーツとしての水泳を通して、基礎的運動能力（平衡性、巧緻性及び全身持久力性）を養い、心身の不調（ストレス）に対応できる能力を養うことを目的とする。同時に、水泳によって心身の調和的な発達を図り、生涯にわたるスポーツ習慣を形成・定着させる機会とする。			
授業の概要			
水泳にはタイムを競う「競泳」、ボールゲーム的要素の「水球」、芸術性を競う「アーティスティックスイミング」他、「飛込み」や「オープンウォーター」等があることや、水の事故を防ぐために必要なことを知識として身に付け、各種泳法の習得によって、走・跳・投と並び必要な体力要素である泳力を向上させ、運動原理の理解を深めるようにアプローチする。			
授業計画			
第1回：・ガイダンス ・競泳競技規則と審判法 ・プール使用上の諸注意 ・水泳の意義と特性 ・バディを組む・ボビング ・水中歩行			
第2回：・水泳の基本 ・水泳の管理と安全対策 ・浮く ・沈む ・進む ・クラゲ浮き ・ダルマ浮き ・伏し浮き ・背浮き ・肺は大きな浮きぶくろ ・浮く理由を考える			
第3回：・泳力テスト ・動作の方法 ・クロールの基本技術の方法 ・フォーム完成のポイント ・キック動作 ・腰かけキック ・壁キック ・板キック ・面かぶりキック ・アップキックとダウンキックのバランスを考える ・沈む理由を考える			
第4回：・クロールの基本技術 ・プル動作 ・正しい軌跡 ・入門型のプロセス ・目標型のプロセス ・ストリームライン保持 ・形の理想は流線形 ・スカーリング ・その場ストローク ・片腕ストローク ・泳ぎの速さ＝推進力-抵抗			
第5回：・クロールの基本技術 ・コンビネーション動作 ・腕と呼吸と脚の調和・腕・呼吸・脚の調和 ・片腕ストローク・その場ストローク＋呼吸 ・水を飲まないために水面上で水を吐き続ける ・お風呂の中で渦巻きを作る（揚力）			
第6回：・クロールの総合練習 ・ターンを含めた反復動作 ・ステップアップ練習法 ・キャッチアップクロール ・アームプル ・水平ターン ・クイック・ターン ・呼吸の際に顔を前に上げずに横に傾ける ・呼吸の役割			

第7回：・クロールの実技テスト ・25mのタイム計測 ・ニチレイ泳力検定4級が目標 ・テンポアップ

第8回：・泳力テスト ・背泳ぎの基本技術 ・キック動作 ・動作の方法 ・フォーム完成のポイント ・腰かけキック ・ビート板かかえキック・両腕体側キック ・両腕伸ばしキック ・膝を伸ばして（曲げすぎない）キックする

第9回：・背泳ぎの基本技術 ・プル動作 ・入門型のプロセス ・目標型のプロセス ・動作の方法 ・正しい軌跡 ・片腕ストローク ・両腕ストローク ・板挟み背泳ぎ ・両腕同時背泳ぎ ・両耳とアゴを水面につけ、視線を安定させる。

第10回：・背泳ぎの基本技術 ・コンビネーション動作 ・腕と呼吸と脚の調和・腕と呼吸と脚の調和 ・片腕背泳ぎ+呼吸 ・ワンタッチリカバリー背泳ぎ・入水に合わせたリズムで呼吸する

第11回：・背泳ぎの総合練習 ・ターンを含めた反復動作 ・ステップアップ練習法 ・コースロープを使った背泳ぎ ・水平ターン ・クイックターン ・身体が左右に曲がる原因であるオーバーリーチを意識する ・外過ぎ、内過ぎの入水に注意

第12回：・背泳ぎの実技テスト ・25mのタイム計測 ・ニチレイ泳力検定4級が目標 ・テンポアップ

第13回：・クロール・背泳ぎの実技テスト ・50m以上のタイム計測 ・ニチレイ泳力検定3級が目標 ・リズムを崩さず後半の泳速をキープ ・平泳ぎ・バタフライの紹介 ・上級者のは個人メドレーの紹介 ・横泳ぎ（古式泳法）を含めた総合的な競泳の泳法の習熟 ・長距離（長時間）を泳ぐための効率的な泳ぎの意識 ・キックをコントロールする方法を習得する ・高齢者や障がい者への水中運動、水中ウォーキング、注意点

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

新水泳指導教本（大修館書店）、基礎からマスター水泳（ナツメ社・柴田義晴著）他、適宜紹介。

学生に対する評価

毎時の取り組み、実技と理論の習熟度から総合的に評価する。

提出されたレポートは、いくつか抜粋し授業内で紹介して講評しフィードバックとする。

尚、成績評価は出席率及び授業態度等が40%、クロール20%、背泳ぎ20%、レポート20%とする。

授業科目名：ダンス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 林田はるみ
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
ダンス表現の基礎を身につけながら、自らの表現力やコミュニケーション能力とともに身体機能を向上させ、最終的には他者に教示できるようになることが目標である。			
具体的には、次の3つの事柄を科目の到達目標とする。			
1. ダンスの特性を理解し、学校教育及び保健体育科においてダンス領域を学ばせる意義について説明できる			
2. ダンス領域の内容（創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンス）の基礎的な知識と技能をICTなども用いながら、主体的で対話的な深い学びを通して習得する			
3. ダンスの楽しさを伝える力を身に付け、指導者としての自信を持つ			
授業の概要			
ダンス領域の内容（創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンス）について講義と実技を通して学習を進める。なぜダンス領域を学校体育において学ぶのかについて考究していく。実技では、3つのダンス（創作ダンス、リズム系のダンス、フォークダンス）の基礎的知識と技能を身につけるとともに、ダンス作品を創作し発表する。			
授業計画			
第1回：授業の概要を説明：学習指導要領「ダンス」の内容と3つのダンスについて。からだのワーク：自己の姿勢や関節の可動域を広げ、スポーツとは違う身体の使い方や動きのバリエーションを知る。			
第2回：現代的なリズムのダンス：基本のステップを習得する①（見てすぐにできるレベル）			
第3回：現代的なリズムのダンス：基本のステップを習得する②（少し練習すればできるレベル）			
第4回：現代的なリズムのダンス：基本のステップを習得する③（仲間と練習が必要なレベル）			
第5回：現代的なリズムのダンス：リズムの特徴をとらえたダンスを作る			
第6回：現代的なリズムのダンス：作ったダンス作品を発表する			
第7回：フォークダンス			
第8回：創作ダンス：身近な日常動作を手がかりにした即興表現			
第9回：創作ダンス：対局の動きを連続させた即興表現			
第10回：創作ダンス：多様な感じの即興表現			
第11回：創作ダンス：集団による表現方法			

第12回：創作ダンス：グループで作品を創作し発表する

第13回：ダンス授業まとめ：学校体育で行われる3つのダンス(創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンス)の基礎的技術と知識、ICTの活用、指導法についてディスカッションを行う。

定期試験は実施しない。

テキスト

・文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年』東山書房 2017年

※以下のURL参照（ダウンロード可能）

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_008.pdf

参考書・参考資料等

・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 平成30年』東山書房 2018年※以下のURL参照（ダウンロード可能）

https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf

学生に対する評価

毎回の授業貢献度と2つの領域のダンスの実技試験で評価を行う。

実技試験（80％）：現代的なリズムのダンス（学期の中間）と創作ダンス（学期末）の出来栄を評価する。

授業貢献度（20％）：毎回の授業へ取り組む姿勢、貢献度、学びに向かう態度、レポート課題の提出状況などを合わせて評価する。

授業科目名: 陸上競技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名: 櫻井 智野風
			担当形態: 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事 項体育実技、体育		
授業のテーマ及び到達目標			
陸上競技のルール・種目特性について理解するとともに、技能習得、技術改善すること。			
授業の概要			
走る、飛ぶ、投げることは、人間の基礎的な運動能力であり、その構造も比較的単調なものである。しかし、これが陸上競技となり、早く走る、高く遠くに飛ぶ、遠くに投げることを求めると、洗練された技術や専門的な体力が求められる、その過程において、練習や指導上の安全確保について理解し、実践する方法を学ぶ。			
授業計画			
第1回:授業ガイダンス			
第2回:短距離(ウォーキング、動きづくり、ドリル、バウンディング)短距離走に必要な基本的な姿勢保持やドリルを行う。力を生み、地面反力に負けない姿勢作りを行う。股関節とその周辺の筋肉を用いるタイミングのよい接地のための動きづくりを行う。			
第3回:短距離(ウォーキング、スターティングブロック、スタート、加速)スターティングブロックを用いたスタートを学習する。50m走計測時にブロックを使用した一連のセットアップができるようにする。			
第4回:リレー(バトンパス、加速)走速度をおとさずスムーズにバトンパスができるようにする。			
第5回:ジョギング、短距離(計測)50m走をスターティングブロックを用いるものと10mの加速を用いる計2本測定する。			
第6回:ハードル走(ドリル、ハードリング)全力疾走中に障害を跳び越す複合的な運動の習得やリズムカルな運動の爽快感を味わえること。障害に対する恐怖感や能力の差異が生まれ易いことを理解し、安全に実施するための留意点を十分に確認する。			
第7回:投擲(砲丸投げ:安全管理、保持、突き出し、立ち投げ、サイドステップ、グライド、回転投法)周りに気を配り安全に気をつけ投擲練習ができるようにする。重量物を扱える動作を身に付ける。			
第8回:投擲(円盤投げ:安全管理、保持、円盤の姿勢制御、立ち投げ)周囲に気を配り安全に気を付けて投擲練習ができるようにする。普段行うことのない回転動作に触れる。また、円盤の形状から、空気抵抗が記録に影響するのできれいに円盤を滑空させる。			
第9回:投擲(ハンマー投げ:安全管理、保持、スウィング、スウィング投げ、一回転投、ターン動作)周囲の安全確認を行う。ハンマーとバランスを取りながら投擲する。普段行うことのない回転動作に触れる。			

第10回:投擲(ジャベリックスロー:姿勢制御、立ち投げ、クロスステップ、助走)周囲の安全に気を配り練習する。ジャベリックスローを用いるが、その形状から空気抵抗が記録に作用するので、投擲物をきれいに投げる。

第11回:跳躍(走高跳)高く跳ぶための助走・踏切・バーを跳び越すためのクリアランス動作の習得。安全に実施するための留意点を十分に確認する。

第12回:跳躍(走幅跳)遠くへ跳ぶための助走・踏切・効率の良い着地動作が習得できるための工夫。安全に実施するための留意点を十分に確認する。

第13回:まとめ

テキスト

日本陸上競技連盟編:『陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身に付く陸上競技 初級編』大修館書店、2013.4

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

出席を中心として、授業態度および試験(測定)をもって総合的に判断する。参加度(50%)、授業態度(30%)、試験(20%)とする。

陸上競技のルール・種目特性について理解するとともに、技能習得する。

授業科目名： ボディワーク2（体操：体づくり運動、集団行動）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：沖田祐蔵 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技、体育		
授業のテーマ及び到達目標			
・受講者自身が、自己の体力・運動能力に合った体操やトレーニング、レクリエーションの実践方法と効果を理解し、生涯にわたり自ら工夫して実践できるようになること ・さまざまな体操やトレーニング、レクリエーションの実践方法と効果を他者にも伝えられるようになること ・仲間との関わり合いを積極的に行えるようになること			
授業の概要			
生涯にわたり健康的な生活を営むためには、個人の体力を考慮しながら、さまざまな運動を実践していく必要がある。そのためには楽しみながらからだを動かすことのできる、さまざまな「ボディワーク（体操）」を経験しておくことが重要である。「ボディワーク」とは身体運動全般のことで、メジャーなスポーツやトレーニング以外にも、さまざまなツールを用いたトレーニングやレクリエーションを行うことを指し、それらを学ぶことによってこれまで経験したことのない新しい技能を習得できたり、からだを動かす楽しみ方をさらに広げたりするのに役立つ。			
そこで本授業では、生涯にわたる健康的なライフスタイルを獲得するための理論と実践方法を習得し、学校体育の授業教材や、競技アスリートの為のトレーニング方法、さらには子どもから高齢者までを対象とした生涯スポーツに活かせる理論と実践能力を身につけ、健康・体力面だけでなく、仲間とともにからだを動かすことによる、「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」をねらいとして、フライングディスクや鬼ごっこなどのレクリエーションや、バランスボールなどのツールを用いたトレーニングを実践することで、受講者が楽しみながらかつ健康づくりに役立つ運動に触れていくことを目指す。			
授業計画			
第1回：ボディワーク2（体操：体づくり運動・集団行動）についてのガイダンス、手軽にできるボディワーク（アイスブレイクのための体操）の紹介			
第2回：体操（体ほぐしの運動1）：緊張を和らげる活動（アイスブレイク）、気付き、仲間との交流（ペアワーク、グループワーク、集団での運動遊び）			
第3回：体操（体ほぐしの運動2）：緊張を和らげる活動（アイスブレイク）、気付き、仲間との交流（ペアワーク、グループワーク、集団での運動遊び）			

第4回：体操（多様な動きをつくる運動1）：Gボールを使った運動 バランスをとる・移動する・用具を操作する・力試し 第5回：体操（多様な動きをつくる運動2）：Gボールを使った運動 バランスをとる・移動する・用具を操作する・力試し 第6回：体操（体の動きを高める運動1）：体の柔らかさを高める運動 静的な柔軟性（スタティックストレッチング）と動的な柔軟性（リズム体操、ラジオ体操） 第7回：体操（体の動きを高める運動2）：巧みな動きを高める運動 コーディネーショントレーニング 第8回：体操（体の動きを高める運動3）：力強い動きを高める運動 自体重やパートナーの体重を用いた動き、用具を使った動き（Gボール） 第9回：体操（体の動きを高める運動4）：動きを持続する能力を高める シグナル体操（ステップやジャンプ）、短なわや長なわの動きのバリエーション 第10回：体操（体の動きを高める運動5）：動きを組み合わせる 効率の良い組み合わせ、バランスの良い組み合わせ 第11回：レクリエーションの実践1：さまざまな鬼ごっこ 第12回：レクリエーションの実践2：フライングディスクを使った運動（ドッジビー・アルティメット・ガッツ） 第13回：まとめ：ボディワーク2（体操：体づくり運動・集団行動）の理解および実技試験、実生活に生かす運動の計画づくり 定期試験
テキスト オリジナル資料（授業時に配布）
参考書・参考資料等 阿部良仁／Gボールスポーツコンディショニング／スキージャーナル 文部科学省／学校体育実技指導資料第7集体づくり運動／東洋館出版社 文部科学省／高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編／東山書房 文部科学省／中学校学習指導要領解説 保健体育編／東山書房 文部科学省／小学校学習指導要領解説 体育編／東洋館出版社
学生に対する評価 レポート評価：30% 1）「体操：体づくり運動・集団行動」の実践方法および効果の理解 10% 2）「運動の組み合わせ」の実践方法および効果の理解 10% 3）「実生活に生かす運動の計画」の実践方法および効果の理解 10% 授業点評価：70% 1）授業に出席した上での取り組み状況 30%

2) 毎回のミニレポート・ミニテスト 30%

3) 実技試験 10%

上記について総合的に評価する

※「欠席確認届」を提出してもレポート・課題での代替措置ができない場合もある

授業科目名： サッカー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大槻 茂久
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
サッカーに関する知識と技能を理解し、実践することができる。			
個人技能および集団技能の習得に向けた取り組みが成されている。			
個人の基礎技能および集団技能の発揮に向けて意欲的に取り組んでいる。			
授業の概要			
本科目はサッカー競技のゲーム実践に求められる技術、状況判断能力、コミュニケーション能力、さらに円滑なゲーム運営に関する審判法の習得を念頭に置き授業を展開する。			
サッカー競技の特性を理解しながら競技の楽しさに触れる機会とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：サッカーのW-up			
第3回：コミュニケーション			
第4回：テクニック①（キック・コントロール）			
第5回：テクニック②（ドリブル）			
第6回：テクニック③（守備）			
第7回：個人戦術①（攻撃）			
第8回：個人戦術②（守備）			
第9回：個人戦術③（数的状況）			
第10回：グループ戦術①（攻撃）			
第11回：グループ戦術②（守備）			
第12回：グループ戦術③（攻守の切り替え）			
第13回：チーム戦術			
定期試験			
テキスト			
サッカー指導の教科書、サッカー競技規則2021/2022			
参考書・参考資料等			
適宜配布する。			

学生に対する評価

実技試験（60%）、授業への取り組み（25%）、レポートを総合的に評価（15%）

授業科目名： バスケットボール		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 木村 和宏
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標				
①バスケットボールの競技特性について学習する。				
②バスケットボールの個人技能（特にシュート）を高めて、ゲームに活かせる基本戦術を学習する。				
③ゲーム運営に関する審判法について学習する。				
授業の概要				
バスケットボールは、数ある球技種目の中でも「走・跳・投」をバランスよく使われるスポーツである。特に中学や高校の競技人口は48万人を超え人気スポーツとなっている。また、世界的にもポピュラーであり、4億5千万人の競技者を持つなど最も盛んに学校教育で行われている。授業では、毎回バスケットボールを構成する各技術や戦術を個別に取り上げ、それぞれにおける基礎的な個人技能を高め、ゲームに活かせるように基本戦術を学ぶことに重点を置く。また、その個人スキルや戦術を駆使して、ゲームに活用できるように体験させる。				
授業計画				
第1回：ガイダンス バスケットボール概論（歴史、競技特性）				
第2回：コーディネーション ハンドリング				
第3回：オフェンスファンダメンタル① 基本姿勢、構え、フットワーク、ハンドワーク				
第4回：オフェンスファンダメンタル② シューティング				
第5回：オフェンスファンダメンタル③ ドリブル、パス、ピボット、ターン				
第6回：個人技術（1対1）と戦術 フェイク、リズムチェンジ等				
第7回：コンビネーションプレイの技術と戦術 ギブ&ゴー、オンボールプレイ、オフボールプレイ （2対2、3対3）				
第8回：ファーストブレイクの技術と戦術 数的優位局面でのオフェンスとディフェンス（2対1、3対2）				
第9回：チームオフェンスの技術と戦術 同数局面でのオフェンス				
第10回：チームディフェンスの技術と戦術 同数局面でのディフェンス				
第11回：戦術を駆使したゲーム① リーグ戦方式				
第12回：戦術を駆使したゲーム② トーナメント方式				

第13回：スキルテスト、まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

バスケットボール指導教本（上巻・下巻）日本バスケットボール協会編

参考書・参考資料等

バスケットボール指導教本（上巻・下巻）日本バスケットボール協会編

学生に対する評価

授業での取り組み、姿勢、スキルテストなど総合して評価する。

授業科目名： ハンドボール	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岡本 大
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 ①ハンドボールの基本的技術を習得する。②ハンドボールの基礎戦術を理解実践する。③ハンドボールゲームのルールの理解と展開をできるようにする。④他者とコミュニケーションし、協力できる力を養う。			
授業の概要 ハンドボールの基本的個人技術、チーム戦術及びルール等を学習し、ゴール型ボールゲームに必要な判断力と行動力を高めると同時に、ボールハンドリングやボディコントロールのコーディネーション能力を獲得する。またチームスポーツに必要な他者とのコミュニケーションを通し協力、協調していくことを学ぶ。さらにはハンドボールの特性とその指導方法の実際を学習し理解する。			
授業計画 第1回：授業説明、ルールの学習、ハンドボールの基本構造学習 第2回：ハンドボールハンドリング、ハンドボールの基本的動作のコーディネーショントレーニング 第3回：基礎技術（パス・キャッチ） 第4回：基礎技術（ドリブル・シュート） 第5回：基礎技術（DF） 第6回：基本戦術（OF 2対2） 第7回：基本戦術（3対3）スペースの使い方（映像を用いた動画説明） 第8回：基本戦術（DF総合） 第9回：基本戦術（4対4）、応用戦術（6対6）（映像を用いた動画説明） 第10回：総合戦略（7対7）、速攻について（映像を用いた動画説明） 第11回：ゲームトレーニング 第12回：ゲームトレーニング 第13回：ゲームトレーニング、まとめ、課題の発表・提出など 定期試験は実施しない。			
テキスト			
参考書・参考資料等 「知ってる？ハンドボール」ベースボール・マガジン社			
学生に対する評価 ①ハンドボールの基本的技術の習得度20%②ハンドボールの基礎戦術の理解実践力20%			

③ハンドボールゲームのルールを理解度と展開度30%

④他者とコミュニケーションし、取り組む姿勢（積極性）や協調性などの授業態度30%。

授業科目名： ラグビー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 米地 徹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 ラグビーのルールを理解したうえで、ラグビーの基本的な技術（パス、キャッチ、キック、タックル、スクラム、ラインアウト、ライン攻撃）を修得し、ゲームを安全に行うことを目標とする。			
授業の概要 ラグビーの特徴については、ボールを前にパスできないことと、試合後のノーサイドの精神にある。ルールを理解するとともに、パスやキャッチ、キックなどの基本技術を習得する。また、15人対15人で行うことから、チームの連携が必要である。それに加え身体との接触が多いスポーツであることから、ゲームにおける正確なパス、タックルの他、状況判断力の養成を行うことが必要である。その過程において、試合終了のホイッスルでノーサイドとする精神について理解を深める。			
授業計画 第1回：・・・・・・授業計画と基本的な注意事項の説明 第2回：・・・・・・基本的な技術の実践（ハンドリング1） 第3回：・・・・・・基本的な技術の実践（ハンドリング2） 第4回：・・・・・・基本的な技術の実践（キック1） 第5回：・・・・・・基本的な技術の実践（キック2） 第6回：・・・・・・簡易的なゲームの実施（タグラグビー等身体接触を伴わないゲーム） 第7回：・・・・・・コンタクトプレーの実践（タックル等） 第8回：・・・・・・基本的な技術の実践（フォワードプレー） 第9回：・・・・・・基本的な技術の実践（バックスプレー） 第10回：・・・・・・狭いスペースでのゲームの実施（ルールの説明と実践） 第11回：・・・・・・広いスペースでのゲームの実施（ルールの説明と実践） 第12回：・・・・・・ラグビーの歴史・文化・価値 第13回：・・・・・・実技テスト 定期試験は実施しない。			
テキスト			

授業時に資料を配布する。
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 実技試験、出席状況、積極性、授業中の態度を総合的に判断し、評価とする。

授業科目名： バレーボール	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤 国正
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
バレーボールのゲーム実践に求められる個人および集団の基礎技術や技能、さらには審判法について学習し、実践できるようにする。			
授業の概要			
本科目は、バレーボール競技のゲーム実践に求められ得る個人の基礎技能の習得および仲間との協力関係における集団技能の習得、さらに円滑なゲーム運営に関する審判法の習得を念頭に置き授業を展開する。			
バレーボール競技の特性を理解しながら競技の楽しさに触れる機会とする。			
授業計画			
第1回：バレーボールの競技特性、バレーボールの歴史と発展、映像			
第2回：パス技術の習得（映像を用いた動画説明）			
パスを用いたミニゲーム			
第3回：レセプションとディグの習得（映像を用いた動画説明）			
レセプションとディグを用いたミニゲーム			
第4回：セットとアタックの習得（映像を用いた動画説明）			
3段攻撃を用いたミニゲーム			
第5回：サーブとブロックの習得（映像を用いた動画説明）			
3段攻撃を用いたミニゲーム			
第6回：フォーメーションの習得①（W型とM型）、チーム戦術習得（映像を用いた組織的な攻撃の説明）			
ゲーム①（6vs6）ランダムチーム構成、審判法			
第7回：フォーメーションの習得②（W型とM型）、チーム戦術習得（映像を用いた組織的な守備の説明）			
ゲーム②（6vs6）ランダムチーム構成、審判法			
第8回：フォーメーションの習得③（W型とM型）、連携プレーの習得（パワーポイントでの資料提供）			
ゲーム③（6vs6）ランダムチーム構成、審判法			

第9回：フォーメーションの習得④（W型とM型）、連携プレーの習得（パワーポイントでの資料提供）

ゲーム④（6vs6）ランダムチーム構成、審判法

第10回：フォーメーションの習得⑤（W型とM型）、総合的なゲーム運営の実践

ゲーム⑤（6vs6）ランダムチーム構成、審判法

第11回：フォーメーションの習得⑥（W型とM型）、総合的なゲーム運営の実践

ゲーム⑥（6vs6）ランダムチーム構成、審判法

第12回：ゲーム分析（トータルディフェンス）

第13回：バレーボールの授業のまとめ、知識・技能に関する試験（試験終了後に試験解説を実施）

定期試験は実施しない。

テキスト

別途指示する

参考書・参考資料等

公益財団法人日本バレーボール協会編、コーチングバレーボール基礎編、大修館書店、2017

学生に対する評価

授業への参加状況15%、授業内レポート15%、実技テスト70%

授業科目名： ソフトボール・野球		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 伊藤 栄治
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標				
ベースボール型球技に必要とされる知識・技術・技能を習得して、円滑にゲーム運営を行うとともに、競技を楽しむための素養を身に付けることを目標とする。				
具体的には、以下に示す4点を本科目の到達目標とする。				
1. ベースボール型球技の競技特性や基本的なルールを理解すること				
2. ベースボール型球技を楽しむための基礎的な技術を身に付けること				
3. 主体的に競技に参加し、自身や仲間の長所や課題を把握すること				
4. 仲間と連携し、ゲームを楽しんだり勝つために、積極的なコミュニケーションが取れること				
と				
授業の概要				
ベースボール型球技の競技特性を理解し、それらの基本技術である投球・捕球・打撃・走塁の理論と技能を習得してゆく。また、「する」「みる」などさまざまな観点から競技に親しめるようルールを理解し、戦術についての理解を深めるほか、団体競技として必要とされるコミュニケーション能力や協調性、リーダーシップを身に付けていくことを本科目のねらいとする。				
授業計画				
第1回：ガイダンス（受講上の注意点、成績評価の方法など）				
第2回：基礎技術①キャッチボール				
第3回：基礎技術②キャッチボール（応用）				
第4回：守備①ゴロ捕球、フライ捕球、送球、投球				
第5回：守備②ゴロ捕球、フライ捕球、送球、投球（応用）				
第6回：攻撃①バッティング、走塁				
第7回：攻撃②バッティング、走塁（応用）				
第8回：戦術①守備戦術				
第9回：戦術②攻撃戦術				
第10回：ゲーム①				
第11回：ゲーム②				
第12回：ゲーム③				

第13回：まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

授業内で適宜紹介する。

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

授業参加度50%（到達目標 1， 2， 3， 4）

レポート20%（到達目標 1， 2）

実技試験30%（到達目標 1， 2）

以上から総合的に成績評価を行う。

なお、出席回数が2/3に満たない場合は、本学の規定に基づき単位を認定しない。

「課題(試験やレポート)に対するフィードバック」講義形式で授業を行う際にこれまでの実技を振り返り、フィードバックの時間を設ける。また、講義形式のリアクションペーパーの質問や意見を次回授業時に紹介するほか、最終回の授業時にもフィードバックの時間を設ける。

授業科目名： バドミントン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 古川 暁也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
・ テーマ 本科目では、体育館での基礎打ちとミニゲームをベースとしてバドミントンの実践を行い、テーマ毎に焦点を絞り、バドミントン活動に必要な知識・態度・技能の基礎を体得することを目的としている。 ・ 到達目標 ①バドミントンに関する基礎的な知識・技能を理解して、実演することができること。基礎打ちとゲームがスムーズにできること。正確なショットが打てること。 ②個人のパフォーマンスおよび集団全体パフォーマンスの形成に向けた取り組みがなされていること。 ③個人のベストパフォーマンスおよび集団の自律的なパフォーマンスの実現に向けて意欲的に取り組むことができること。			
授業の概要			
ラケットの操作では、サービス、ドロップ、ロブ、クリアー、ヘアピン、スマッシュ、ドライブなどの基本的なショット技能を用いて、シャトルのフライトをコントロールしたり、相手のショットのフライトを予測し、確実に返球したり、相手の隙をついたりして攻防を展開する技能を、ラケット操作の直後の動きでは、相手が打ったシャトルを追いかけて、体勢を整えたり、空間を埋めたりカバーしたりする動きによって、攻防を展開する技能を身に付ける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション （バドミントン競技の特性、学校体育におけるバドミントンの扱い方、授業の進め方、成績評価の方法と基準、実習中の注意事項、実習施設・用具の確認）			
第2回：打ち合いができるようになるためには （ラケットの握り方、基本的な打ち方、スイングに慣れる素振り練習、シャトル操作に慣れる練習、基礎打ち、試合のコート、サービスとサービスレシーブ、サービス権、サービス以降の打ち合い、ラリー勝敗の決め方、得点）			
第3回：サービスショットが確実に打てるためには （サービスショットとは、サービスショットを打てるためのポイント、サービスショットの応用、サービングコート&レシービングコート、サービス時の立ち位置、サーバーとレシーバーの決め方、サービス権の移動）			

第4回：ドロップ&ロブが確実に打てるために（ドロップショットとは、ロブショットとは、ドロップ&ロブショットを打てるためのポイント、ドロップ&ロブショットの応用、サービスコート間違いの対処）

第5回：クリアーショットが確実に打てるためには（クリアーショットとは、クリアーショットを打てるためのポイント、クリアーショットの応用、フォルトⅠ）

第6回：ヘアピンショットが確実に打てるためには（ヘアピンショットとは、ヘアピンショットを打てるためのポイント、ヘアピンショットの応用、フォルトⅡ）

第7回：シングルスゲームがうまくなるためには（シングルスがうまくなるためのポイント、シングルスゲームのルール）

第8回：コンビネーションショットがうまくなるためには（コンビネーションショットとは、スマッシュ⇄ヘアピンのパターン練習、ダブルスのフォーメーションとポジショニング、公式試合の進め方）

第9回：ドライブショットが確実に打てるためには（ドライブショットとは、ドライブショットを打てるためのポイント、ドライブショットの応用、審判の仕方）

第10回：プッシュショットが確実に打てるためには（プッシュショットとは、プッシュショットを打てるためのポイント、プッシュショットの応用、怪我の予防）

第11回：スキルアップと達成度評価（目標達成練習とは、有効ショットの判定基準、評価項目と評価基準）

第12回：実技テストとその解説Ⅰ（「ハイクリアー連続打ち合い」実技テスト、注意すべきポイント）

第13回：実技テストとその解説Ⅱ（「ロングハイサービス」実技テスト、注意すべきポイント）

定期試験

テキスト

毎回の授業時に授業資料を配布する

参考書・参考資料等

日本バドミントン協会『バドミントン競技規則 2022-2023』<http://www.badminton.or.jp/rule/>

学生に対する評価

成績評価は、授業での学習状況と技能テストおよび期末課題レポートの結果から総合的に判定する。

授業科目名： 剣道	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高瀬 武志
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 武道の歴史と礼法を理解し、対人技術を習得しながら日本文化と他者との相互理解を深める。			
授業の概要 剣道における礼法や道具の扱い、基本的技術から応用的技術の習得までを学習する。			
授業計画 第1回：剣道の歴史・道具の変遷と名称・剣道のルールを理解する 第2回：構え方・足捌き・体捌きを理解する 第3回：素振り・空間打突・打ち込みを習得する 第4回：総合的練習法である「切り返し」を習得する 第5回：仕掛け技の習得1、仕掛け技の習得2 第6回：応じ技の習得1、応じ技の習得2 第7回：技の活用1（打ち込み稽古・追い込み稽古） 第8回：技の活用2（掛かり稽古・相懸かり稽古） 第9回：様々な構えの理解（上段の構え・平青眼の構え・霞の構え）と技の習得 第10回：対人技術の探究（地稽古）・試合審判法の理解 第11回：対人技術の探究（個人試合） 第12回：対人技術の探究（団体試合） 第13回：総括として授業全体の振り返り・剣道の国際化について理解する 定期試験は実施しない。			
テキスト 高瀬武志著『AL型体育実技 剣道』三恵社			
参考書・参考資料等 授業内で適時紹介する			
学生に対する評価 授業への積極的な姿勢・ALの取り組み・技術や知識の理解度や習得度を総合的に評価する。			

授業科目名： 柔道	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 吉鷹 幸春
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
【到達目標】			
① 柔道の特性および柔道に附随する傷害、事故発生時の対処法を説明することができる。			
② 自らの体力について知り、個々の能力を十二分に発揮することができる。			
③ 柔道の基本的な技術を習得し、その説明をすることができる。			
④ 技の理合いを体得し、安全で楽しい柔道の攻防（乱取）を行うことができる。			
授業の概要			
本授業では、まず健康を考えながら、体力の向上を目指し、日本の伝統文化ともいえる武道を実施しその経験と知識を身に付けることである。また、中学校指導要領の武道必修化にともない、中学高校保健体育教員免許取得を目指す人にも、指導者として必要な知識や技能を身に付けることを併せて目的とする。内容としては、前回り受身と、基本的な投技である足技・手技・腰技、各 3 種類（合計 9～12種類）及び、固技 5 種類をマスターすることを目標とする。			
① 日本文化としての柔道を正しく理解して行動できるようになる。			
② 基本的な技術を習得し、攻防および乱取を行い、その合理性を体得する。			
③ 柔道を通じて体力を養い、他のスポーツにも応用できるバランス感覚や巧緻性なども習得する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：1. 柔道の歴史について 2. 柔道の作法、マナーなどについて 3. 受身（前・後ろ・横）を習得する ※強く投げられても頭を打たないようにする（映像は活用する。）			
第3回：1. 前まわり受身を習得する 2. 投技の膝車の基本技能を習得 3. 抑技（袈裟固、上四方固）の基本を習得（映像を活用する。）			
第4回：1. 大外刈の習得 2. 体落の基本を習得 3. 抑技（横四方固、縦四方固）の基本を習得（映像を活用する。）			
第5回：1. 大腰の基本を習得。 2. 寝技を中心とした乱取練習			
第6回：1. 足払（送足払・出足払） 2. 背負投（一本背負投）の基本を習得 3. 立技の乱取練習（映像を活用する。）			

第7回：1．小内刈の基本を習得 2．立技、寝技の乱取り練習

第8回：教室柔道の歴史についてビデオを観る（映像を活用した授業展開）

第9回：投の形の練習

第10回：複数の投技を修得し、連絡技に応用できるようになる

第11回：投技（得意技）から寝技（抑え技）への連絡ができるようになる

第12回：立技の乱取練習（自由練習）

第13回：寝技の乱取練習（自由練習）

テキスト

教科書は特に使用しないが、必要に応じて資料を配付する

参考書・参考資料等

Web上の柔道動画（多数）を準備学習として視聴を薦める

学生に対する評価

到達目標（①～④）に照らして総合的に評価する。

- 1．②知識・技能：実技テスト・筆記テストを含む評価40%
- 2．③④思考・判断・表現：実技能力含む評価30%
- 3．①主体的学び：課題レポート等を含む評価30%

授業科目名： スポーツ哲学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤国正
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学		
授業のテーマ及び到達目標			
「スポーツとは何か」という根本的な問いを背景に、体育・スポーツに関わる様々な事柄と関連付け、現代社会におけるスポーツの意義について他者に説明できるようになることが最終的な目標である。具体的には、次の3つの事柄を科目の到達目標とする。 1）スポーツの基本的な概念を理解し、「スポーツとは何か」の観点から論理的に考察することができる。 2）国内外のスポーツに関連する事象に対して知識を深め、自己の考えや認識を原理的・哲学的手法によって説明することができる。 3）現代社会にとってのスポーツのあり方を探究し、自分の意見を説明することができる。			
授業の概要			
本科目は、「スポーツとは何か」を主題に、哲学の立場から現代スポーツのあるべき姿を考察する。今やスポーツは単なる娯楽やレクリエーションではなく、社会が豊かになるための重要な構成要素の一つとなっている。しかし、スポーツにまつわる不祥事が後を絶たず、スポーツの社会的な存在価値を前提としたスポーツのあり方を問い直す必要がある。豊かな社会を構築するために、私たちはスポーツとどのように向き合えばよいのか、スポーツが社会でどのような役割を果たしているのか、など多様な社会的意義を確認しながら広い視野で説明できることを目的とする。このスポーツの機能や役割を問うことは、学校教員のみならず、スポーツ関連の仕事においても必要な態度である。			
授業計画			
第1回：ガイダンス「スポーツ哲学」とはどのような学問か、授業計画、成績評価法の説明。			
第2回：体育・スポーツの現代的問題について。			
第3回：体育とスポーツの違いについて。スポーツの概念について。			
第4回：フェアプレイの哲学（1）フェアプレイ・スポーツマンシップとは何か。			
第5回：フェアプレイの哲学（2）フェアプレイとはどのような行為を示すのか。			
第6回：スポーツと暴力の哲学について。			
第7回：スポーツと勝利の哲学について。			
第8回：体育教師・スポーツ指導者の哲学（1）運動部活動の指導とは何か。			
第9回：体育教師・スポーツ指導者の哲学（2）指導者の役割とは何か。			

第10回：体育教師・スポーツ指導者の哲学（3）指導者に必要な指導哲学とは何か。

第11回：ルールの哲学（1）スポーツのルールとは何か。

第12回：ルールの哲学（2）スポーツにおける公平性とは何か。

第13回：オリンピックの哲学について。

定期試験は実施しない。

テキスト

- ・『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』高橋徹・野上玲子ほか、株式会社みらい、2018年
- ・『教養としての体育原理－現代の体育・スポーツを考えるために』友添秀則・岡出美則（編）大修館書店、2016年

参考書・参考資料等

必要に応じて授業の中で資料を紹介および配布する。

学生に対する評価

- ・授業の理解度を問う授業後のレポート：60%
- ・最終期末レポート：40%

出席回数が3分の2に満たない場合には、本学の規定に基づき単位を認定しない。

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澁倉 崇行
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学		
授業のテーマ及び到達目標			
運動行動やスポーツ活動に影響を及ぼす心理的要因を説明できることが狙いである．具体的には以下を目標とする． 1）運動行動やスポーツ活動に影響を及ぼす心理的要因，および運動やスポーツ活動が個人の心理的成長やメンタルヘルスに及ぼす影響を理解する． 2）「からだ」と「科学」を突き詰めて新しい可能性を導くことに必要な知識を習得する．			
授業の概要			
運動やスポーツ競技に我々の心理が影響していることは知られている．同時に，スポーツ活動を行うことが我々の心理面の健康に効果があることも知られている．本講座では，運動行動やスポーツ活動に影響を及ぼす心理的要因，および運動やスポーツ活動が個人の心理的成長やメンタルヘルスに及ぼす影響を検討していく．すなわち，スポーツ心理学の考え方を基盤として，①運動，スポーツ活動への参加を説明する諸理論，②個人や集団の生産性（パフォーマンス）に影響を及ぼす心理的，社会的要因，そして③個人や集団の生産性（パフォーマンス）を高める方法を理解する．			
授業計画			
第1回：スポーツ心理学とは：ガイダンス			
第2回：運動，スポーツと動機づけ（1）：内発的動機づけと外発的動機づけ			
第3回：運動，スポーツと動機づけ（2）：自己決定理論			
第4回：運動，スポーツと動機づけ（3）：活動意欲を高める			
第5回：スポーツの社会心理（1）：集団規範			
第6回：スポーツの社会心理（2）：リーダーシップ			
第7回：スポーツの社会心理（3）：チーム・ビルディングの実際			
第8回：競技者の心理（1）：心理的競技スキル			
第9回：競技者の心理（2）：メンタルトレーニングの技法			
第10回：コーチングの心理（1）：コミュニケーションスキル			
第11回：コーチングの心理（2）：コーチングの技法			
第12回：運動，スポーツの心理的効果（1）：心理社会的健康，ライフスキルの獲得			
第13回：運動，スポーツの心理的効果（2）：まとめ			

定期試験
テキスト
第1時間目に指示する.
参考書・参考資料等
よくわかるスポーツ心理学（中込四郎他，ミネルヴァ書房）.
学生に対する評価 以下の到達目標の観点から試験60%，レポート40%により総合的に評価する. 1）運動行動やスポーツ活動に影響を及ぼす心理的要因，および運動やスポーツ活動が個人の心理的成長やメンタルヘルスに及ぼす影響を理解する. 2）「からだ」と「科学」を突き詰めて新しい可能性を導くことに必要な知識を習得する. なお，欠席1回につき5点，遅刻・早退1回につき2点，それぞれ減点する．また，授業の進行に貢献する発表については2点の加点を，逆に，受講態度に問題があると判断される行為（居眠り，私語，スマートホンの使用等）については，2点から10点の範囲で減点を，それぞれ行う．

テキスト

第1時間目に指示する.

参考書・参考資料等

よくわかるスポーツ心理学（中込四郎他，ミネルヴァ書房）.

学生に対する評価

以下の到達目標の観点から試験60%，レポート40%により総合的に評価する.

1）運動行動やスポーツ活動に影響を及ぼす心理的要因，および運動やスポーツ活動が個人の心理的成長やメンタルヘルスに及ぼす影響を理解する.

2）「からだ」と「科学」を突き詰めて新しい可能性を導くことに必要な知識を習得する.

なお，欠席1回につき5点，遅刻・早退1回につき2点，それぞれ減点する．また，授業の進行に貢献する発表については2点の加点を，逆に，受講態度に問題があると判断される行為（居眠り，私語，スマートホンの使用等）については，2点から10点の範囲で減点を，それぞれ行う．

授業科目名： スポーツマーケティング論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齋藤 れい 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学		
授業のテーマ及び到達目標：スポーツマーケティングには、「スポーツそのもののマーケティング (marketing of sport)」と「スポーツを利用したマーケティング (marketing through sport)」がある。主にスポーツビジネス全般を概説し、スポーツ消費者行動理論を交えながら解説を行う。到達目標は以下4点である。①マーケティングの理念、仕組みおよび技法等の基本を理解する。②「スポーツのマーケティング (marketing of sport)」について事例を用いて説明することができるようになる。③「スポーツを利用したマーケティング (marketing through sport)」について事例を用いて説明することができるようになる。④グループワークに積極的に関わって、スポーツマーケティングに関わる企画・立案ができるようになることである。			
授業の概要：本講義では、特にスポーツビジネスに着目する。スポーツビジネスはサービス財であることから、サービス財としてのサービス基礎特性とその品質理論を踏まえつつ、スポーツビジネスにおける経験価値についても理解を深める。授業内では、随時ランダムに振り分けたグループで課題を行い、小レポートを提出するほか、発表を行う予定。			
授業計画			
第1回：ガイダンス： スポーツマーケティングとは/スポーツビジネスとは（横浜DeNAの事例）			
第2回：スポーツサービスの特性、サービスドミナントロジックとは			
第3回：スポーツスポンサーシップとは。スポーツマーケティングの対象①：スポンサーに行うべきサービス、スポーツマーケティングの対象②：ファンに行うべきサービス（浦和レッズの事例）			
第4回：スポーツマーケティング・プラン①：環境分析、スポーツマーケティング・プラン②：セグメンテーション			
第5回：スポーツマーケティング・プラン③： マーケティング・ミックスとプロモーション・ミックス、スポーツ消費者行動（広島東洋カープと「カープ女子」の事例）			
第6回：スポーツビジネスにおけるプロモーション（ナイキの事例）、海外クラブの多角化経営とブランド戦略（マンチェスターユナイテッドの事例）			
第7回：スポーツマーケティングと成果： 経済的価値と心理的価値（経験価値）			
第8回：スポーツブランドとライセンス			
第9回：スポーツ関連小売業とインスタ・マーチャンダイジング			
第10回：アスリートによるエンドースメント			
第11回：ファンエンゲージメント			

第12回：スポーツマーケティング・リサーチ（ワールドトライアスロンその他を事例に）

第13回：振り返り、スポーツマーケティングの可能性とまとめ

定期試験

テキスト

スポーツ産業論第7版（原田宗彦編著、杏林書院）

参考書・参考資料等

スポーツビジネス論-理論と実態-（大野貴司・齋藤れい編、三恵社）

スポーツマネジメント（原田宗彦・小笠原悦子編著、大修館書店）

学生に対する評価

授業への参加状況 50%（グループワーク・発表含む） 試験 50%（小テスト含む）

授業科目名： スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福浦 一男
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学		
授業のテーマ及び到達目標			
〈テーマ〉：本授業では、現代の国際社会や日本社会とスポーツの関係を多面的に俯瞰しながら、現代社会におけるスポーツの文化・社会的意義について考える。本授業は、本学部とのカリキュラムポリシーとの関連では、「スポーツ」に関する「専門的な知識」はもとより「社会人として各界で活躍する際に必要な幅広い知識や教養を身につける」ための一環となるものである。ディプロマポリシーとの関連では「現代社会が抱える課題に対応できる人材を育成する」基礎として、社会とスポーツの多元的な関係に関する理解を推し進めていくものである。（S S 5 E 0 5 I） 〈到達目標〉 ・社会とスポーツの関係を多元的に理解する。 ・スポーツをめぐる諸問題を理解し、解決策を提示できる。			
授業の概要			
国際社会や日本社会のなかでスポーツが果たす役割はどのようなものなのか、世界規模での社会変動とスポーツはどのような結びつきをもっているのか、宗教や民族問題とスポーツはどう結びつくのかなど、広い視野からスポーツをとらえなおす。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：世界のスポーツを概観する（1/2）			
第3回：世界のスポーツを概観する（2/2）			
第4回：スポーツと消費社会			
第5回：スポーツとメディア			
第6回：スポーツと政治			
第7回：スポーツとナショナリズム			
第8回：スポーツと人種・エスニシティ			
第9回：スポーツとジェンダー			
第10回：スポーツをめぐる社会問題			
第11回：スポーツと地域社会			
第12回：スポーツと芸術			

第13回：振り返りと展開

定期試験

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

授業時間内に適宜紹介する。

学生に対する評価

社会とスポーツの様々な関係、スポーツをめぐる諸問題に関する理解度に基づき成績評価を行う。

小テスト 50%／定期試験 50%

授業科目名： スポーツバイオメカニクス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小山 桂史 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学		
授業のテーマ及び到達目標 ①ヒトの身体運動を生理学，解剖学のおよび力学的見地から評価できる視点を培う。 ②身体動作中に発揮するもしくは作用する力の推定・定量・評価を行う方法に関する知識を養う。 ③様々な身体運動についてスポーツバイオメカニクスの知識を活かして評価し、言葉で記述する事が出来る。			
授業の概要 日常生活レベルからスポーツ競技レベルにおける身体動作を、生理学，解剖学のおよび力学的見地から理解することを目的とする。ヒトの身体動作中に発揮するもしくは作用する力の推定・定量・評価を行う方法を知ること、動きのメカニズムや制限因子を検討することが可能となる。本授業ではそれらの方法を学び、身体動作を科学的に考え、基本的な身体動作に関する仕組みを理解する。また本授業で学んだ内容を知識として蓄えただけでなく、健康の維持・増進から競技能力の向上という幅広い範囲で活用もしくは実践できるような能力を養うことが出来るようにする。具体的な本授業の進め方は、105 分間の授業を 1 回として半期にわたり 13 回行う中で、身体を構成する関節動作、歩く，走る，跳ぶ，投げるなどのヒトの代表的な運動動作、さらにはスポーツ競技で行われる運動動作について力学的観点から説明する。1 回の授業における説明は、パワーポイントを使用した講義形式で行う。そのパワーポイントで示された文章や図，表などについては、自分専用のノートにしっかりと記述して写すようにする。なお、授業の開始時には前回の講義の復習として、複数の練習問題を解くようにする。練習問題から定期試験の問題を出題する。			
授業計画 第 1 回： ・授業の進行方法や評価方法の説明 ・スポーツバイオメカニクスの内容の紹介 本授業はスライドで授業展開し、授業開始時もしくは授業終了前に練習問題を毎回、実施する予定である。毎回の練習問題から複数が試験に出題されるため、毎回の授業の復習が重要となる。本授業の単位は試験 60 点以上で認められ、この様な進行方法と評価であることを明示する。その後、スポーツバイオメカニクスの紹介を実施する。 第 2 回： キネティクスとキネマティクス 身体運動を評価する方法は主にキネティクス手法とキネマティクス手法に区別され、その手法の違いについて学ぶ。その手法にはスポーツバイオメカニクスにおける特殊な実験器機を使用するため、同時に、これらの実験器機についても紹介する。 第 3 回： 並進運動，回転運動 ヒトの身体は複数の関節から構成され、それらの関節が回転と並進することによって、身体の並進と回転が伴う。そのため、身体の運動を知るためには機能解剖学的知識(関節，筋，腱など)が必要となるため、その知識を確認して、並進運動と回転運動について説明する。			

第4回：**並進運動と回転運動の定量方法と定性方法**

身体運動を評価する方法は主にキネティクス手法とキネマティクス手法によって、具体的に並進運動と回転運動を定量する方法について学び、その定量された数値から定性する方法についても学ぶ。

第5回：**陸上競技の100mを例にしたスポーツバイオメカニクスの手法**

定量する方法を、一般的な「走」動作に着目して実施し、速度、加速度の違いについても学ぶ。そして、100mの速度の曲線等の特徴から、自身が教育現場等において、生徒・学生に教えることになった場合の活用方法についても紹介する。

第6回：**キネティクス因子およびキネマティクス因子とパフォーマンスとの関係**

キネティクス手法とキネマティクス手法を使用して算出される因子は走動作のパフォーマンスのみならず、他の運動にもどのように影響するかについて紹介して、これらの因子が我々の身体運動にどのように関係しているのかについて説明する。

第7回：

- ・身体重心とは. . .
- ・運動と力学の法則

身体運動を評価するためには身体重心の概念が重要となる。また高いパフォーマンスを発揮するためには、力学の法則も知る必要がある。身体重心の概念と力学の法則について学ぶ。

第8回：**様々なエネルギーと力学的エネルギーについて**

運動エネルギーと位置エネルギーの違いを学び、これらのエネルギーに関係する因子を知り、エネルギーとパフォーマンスとの関係について考える。

第9回：**ダイエットの観点から考えたエネルギーとは. . .**

我々は身体運動時にエネルギーを消費して、その消費分を食物から摂取する。その消費と摂取との関係について考え、運動強度や運動時間という概念からエネルギーの摂取と消費について考える。

第10回：**骨格筋の構造と特性**

外部に出力される力について学び、力に関係する力学的パラメータについても学んできたが、力を発揮する源である筋の役割について知り、特に骨格筋の構造特性について学ぶ。

第11回：**身体運動における骨格筋の役割**

骨格筋の構造特性を理解した上で、身体運動における筋の収縮様式や筋のトレーニング方法について学ぶ。

第12回：**スポーツパフォーマンスにおける筋腱複合体の役割**

筋に付着する腱組織の役割についても理解し、筋腱の相互作用について学び、実際の身体運動中の筋腱複合体の動態や、その動態の利点についても学ぶ。

第13回：

スポーツ用品に関するバイオメカニクス

我々が日常から使用するシューズに着目して、シューズの機能性が歩行や走行時にどのような効果をもたらすのかについて、バイオメカニクス分野から考える。

定期試験

テキスト

- ・授業で使用する教科書は無い。
- ・スライドで本授業の説明を実施する。
- ・本授業のスライドは参考文献を基に構成されている。

参考書・参考資料等

- ・「バイオメカニクス」 金子公宥・福永哲夫編 株式会社杏林書院
- ・「スポーツバイオメカニクス 20 講」 阿江通良・藤井範久 朝倉書店
- ・「トレーニング科学」 安倍孝 講談社

学生に対する評価

定期試験(100%)。

【フィードバック】

授業前に前回の授業の内容を振り返る練習問題を実施する。受講者の練習問題の取り組み状況を見ながら、解説を実施して、質問等があれば随時、対応する。

授業科目名： 機能解剖学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 成田 崇矢
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学 体育社会学、体育史」・運動学		
授業のテーマ及び到達目標 1．身体の基本的な解剖（骨、筋、関節）を理解する。 2．筋の働きと実際の動作を理解する。 3．スポーツにおける実際の体の動きを解剖学的知識を持って説明できること。			
授業の概要 機能解剖学とは、ある運動を行った際にどの筋肉がどのように骨格に力を加えて関節を動かし、その運動が生じたかを科学的に解析する学問である。毎週の授業は、身体の機能解剖について解説する。ディスカッションや学んできたことを発表することにより、知識の習得をめていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（機能解剖学を学ぶ重要性について学習する。） 第2回：人の構成組織とその機能について学習する。 第3回：骨・関節の基本構造と機能について学習する。 第4回：脊椎の構造、機能について学習する。 第5回：頸部の構造、機能について学習する。 第6回：胸部の構造、機能について学習する。 第7回：腰部の構造、機能について学習する。 第8回：体幹筋の構造、機能について学習する。 第9回：骨盤、仙腸関節の構造、機能について学習する。 第10回：股関節の構造、機能について学習する。 第11回：股関節の筋の構造、機能について学習する。 第12回：膝関節、足部、足関節の構造、機能について学習する。 第13回：肩関節、肘関節の構造、機能について学習する。 定期試験を実施する			
テキスト 特に指定しない。参考文献から自分の学習しやすいものを所有すること。			
参考書・参考資料等 目でみる動きの解剖学(大修館書店)、キネティック解剖学（医道の日本社）グラント解剖学図			

譜 医学書院、目でみる筋力トレーニングの解剖学(大修館書店) 身体運動の機能解剖改訂版(医道の日本社)、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー教本

学生に対する評価

授業ごとのふりかえりの提出を出席の代わりとする。提出回数が 3 分の 2 に満たない場合には、本学の規定に基づき単位を認定しない。

毎週のふりかえりの内容 (20%)・・・到達目標 1、2、3

期末テスト (80%)・・・到達目標 1、2、3

授業科目名：スポーツ史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今泉 隆裕
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」 ・運動学		
授業のテーマ及び到達目標			
肉体労働を強いられてきた人類にとって、酷使してきた身体を余暇時間に、さらに肉体をもちいる余裕はなかった。また、人類にとって、そもそも余暇の時間は限られ、わずかであったことを想うと、今日のように身体をもちいた「遊び（Play）（sport）」はごくごく近年に多くの人々が楽しめるようになった、と想像できる。 スポーツの各時代における様相は、そのまま時代状況を反映している。たとえば、意外に思うかもしれないが、中世ヨーロッパにおける価値規範であるキリスト教—今日でいうローマ・カトリック—の教説においては体を鍛える行為や、現代のわれわれからみればスポーツとおぼしき行為は野蛮な行為とみなされ、悪徳とされていた。そこでは当然、身体活動は広く展開することはなかった。また、おおよそ 100 年前、アメリカではプロ野球リーグができて日曜日にゲームを開催することは許されていなかった（サンデー・ベースボール問題）。ここにはアメリカにおけるキリスト教プロテスタント、なかでもピューリタンの考え方が色濃く反映されていたのである。 所変われば、あるいは時代状況が変われば、スポーツに対する見方も変わる。こうした歴史の一端を垣間見ることで、今日の状況が人類史のなかでは、ごくごく短い期間の状況にすぎないこと、普遍的なものではないことを学び、現代に生きるわれわれ自身を相対化する手掛かりとして欲しい。 とはいえ、スポーツ史という科目は歴史学の内容ということになる。歴史学からみたスポーツ、それがスポーツ史である。そう考えるなら歴史学の内容を踏まえることになるのはいうまでもない。			
授業の概要			
スポーツの歴史を垣間見ることで、今日の状況が人類史のなかでは、ごくごく短い期間の状況にすぎないこと、普遍的なものではないことを学び、現代に生きるわれわれ自身を相対化することができるようになることを目標としたい。また、本科目は教職科目でもある。体育・スポーツの歴史を学ぶことで、保健体育科の教員や、生涯・競技スポーツの指導者に必要な歴史的知識を習得して欲しい。			

またスポーツ健康政策学部では幅広い知識や教養を身につけることが基本方針となっている（カリキュラムポリシー）。スポーツに関わる基本知識を幅広く身につける。そのための重要分野として「スポーツ史」も開講された。スポーツの史的展開を把握しておくことは、「スポーツ文化の担い手」を目指す本学本学部生にとって重要な事柄であろう。

授業計画

第1回：学習内容の説明、および「体育」「スポーツ（sports）」「スポーツ（sport）」ほか語源説について、これまでの研究誌を紹介する。

第2回：スポーツ史の対象と領域を「体育」「スポーツ（sports）」「スポーツ（sport）」ほか語源説から考える。

第3回：歴史学の方法について考える

第4回：時間認識の変容とスポーツのかかわりについて、「競泳」ほか「競（くらべる）」対象の変容を事例に考える。

第5回：空間認識の変容とスポーツのかかわりについて、海水浴を例にして考える。

第6回：身体観の変容とスポーツのかかわりについて、靴を例にして考える。

第7回：ヘレニズム世界／ヘブライズムの世界の身体活動

（古代ギリシア1）おもに古代ギリシアにおける葬祭競技について考える。

第8回：ヘレニズム世界／ヘブライズムの世界の身体活動

（古代ギリシア2）おもにオリンピックを通して考える。

第9回：ヘレニズム世界／ヘブライズムの世界の身体活動

（古代ローマ）おもにキリスト教における身体観の変容とスポーツのかかわりについて考える。

第10回：ヘレニズム世界／ヘブライズムの世界の身体活動3

（中世キリスト教）キリスト教における身余暇観の変容とスポーツのかかわりについて考える。

第11回：ルネサンスと身体活動

ルネサンス期のヨーロッパにおける身体活動について考える。

第12回：宗教改革と身体活動

プロテスタント以降のヨーロッパにおける身体活動の変容について考える。

第13回：総括、及び試験（レポートになる可能性もある）

定期試験は実施しない

テキスト

今泉隆裕・大野哲也編『スポーツをひらく社会学』（嵯峨野書院、2019年）

参考書・参考資料等

『体育の世界史』（ヴァンダーレン／ベネット著、加藤橘夫訳、ベースボールマガジン社）

『入門スポーツ史』（ユリウス・ボフス著、稲垣正浩訳、大修館書店）

学生に対する評価

受講状況（単なる出席ではなく、リアクションペーパーなどを加味した状況）20%、レポート、または試験80%

2／3以上の出席。 レポート提出、または試験（講義の中で指示する）。

授業科目名： 身体の仕組みと働き		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 櫻井 智野風	
						担当形態： 単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 生理学（運動生理学を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
将来、自分にとって必要な身体の情報調べ、活用できるように、身体仕組みや働きを知識として習得するだけでなく、自らの身体がどのように働いているのかを意識することにより身体全体がどのように協働して機能しているのかに興味をもち、他者に説明できることが最終目標である。具体的には、次の5つの事柄を科目の到達目標とする。 1. 生きるための恒常性を保つ働きとしての身体仕組みを理解する 2. 身体各器官系の役割が説明できるようになる 3. 基本的な身体各部の名称を記述することができ、その働きが説明できるようになる 4. 身体各器官系・部位を関連づけ、言葉で説明することができるようになる 5. 自分の身体に関連づけて、身体各器官や器官系の働きを考え、それを他者に表現することができるようになる							
授業の概要							
私たちの身体は生きるために、細胞から器官系、身体全体と様々なレベルで、個別にあるいは協同して働いている。また、身体構造はそれらがうまく機能するために恒常性を保つように作られている。本講義は、自分の身体と関連づけながら各器官の構造と働きを理解することにより、生命を維持すること、身体を調整し、守る働きをとおして、人間にとって重要な健康を維持するための身体働きの基礎について学ぶ。 この科目は、教材動画と資料をもとに課題を作成し、提出することによるオンデマンドでの講義と対面・グループワークの2つの形式によって進める。							
授業計画							
第1回：身体仕組みの基礎 構造（解剖学）の基礎1							
・身体を学ぶための基本的な位置関係を示すことができ、骨格筋系を構成している身体構造等を理解するための用語について理解する							
第2回：身体仕組みの基礎 機能（生理学）の基礎2							
・恒常性とは何かについて理解し、恒常性を維持する機能に関連する、体液、体液バランスと細胞膜による物質移動について学ぶ							

第3回：生きるための基本的な身体のはたらき 循環器系

・循環器系を構成している、心臓、血管の構造や働き、リンパ系の役割について学ぶ。血液循環の役割と血圧や脈拍の関係について理解する。

第4回：生きるための基本的な身体のはたらき 呼吸器系

・呼吸器系を構成している、気道、肺の構造や働きについて学ぶ。呼吸とは何か、外呼吸がどのように行われているのかについて理解する

第5回：生きるための基本的な身体のはたらき 泌尿器系

・泌尿器系を構成している、腎臓、尿管、膀胱の構造と働きについて学ぶ。尿の生成、老廃物除去、排尿と蓄尿のしくみについて理解する。

第6回：生きるための基本的な身体のはたらき 消化器系

・消化器系を構成している、口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、直腸の構造と基本的働きについて学ぶ。消化吸収、老廃物の排泄のしくみを理解する。

第7回：生きるための基本的な身体のはたらき 栄養と代謝

・3大栄養素、5大栄養素と身体の構成や活動との関係、代謝の仕組みについて学ぶ。栄養素がどのように代謝され、使われるのかを理解する。

第8回：各器官・器官系の関係

・これまでの学習をもとに、生きるための基本的な身体のはたらきである各器官系の関係について考える。

第9回：身体を調整し守るはたらき 脳／神経系

・神経系を構成している中枢神経と末梢神経について学ぶ。中枢神経（脳、脊髄）がどのように保護されているか、脳の各部位の主な働きと末梢神経である自律神経系について理解する。

第10回：身体を調整し守るはたらき 内分泌

・内分泌について学ぶ。ホルモンとは何か、また、どのように身体を調整しているのかについて理解する。

第11回：身体を調整し守るはたらき 免疫系

・免疫系について学ぶ。免疫とはなにか、生得的免疫と獲得的免疫のはたらきの違い、免疫系で活動しているリンパ球の種類とはたらきを理解する。

第12回：スポーツに関する医学的知識

・スポーツと健康について学ぶとともに、スポーツ活動中におけるケガや病気とその応急処置について理解する

第13回：まとめ

・授業内で学んだ身体の仕組みが身体運動をどのようにコントロールしているのかについて理解する

定期試験

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

評価は、毎回の授業の課題と定期試験によって評価を行う。出席が、3 分の2に満たない場合には、本学の規定に基づき成績評価の対象としない。

各授業の課題（70％）

定期試験（30％）

授業科目名： 衛生学・公衆衛生学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 穂花
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 衛生学・公衆衛生学		
授業のテーマ及び到達目標				
衛生学（予防医学）と公衆衛生学の意図するところは、人々の疾病を予防し、健康の維持・増進をはかり、延命をもはかる科学である。したがって、疾病や健康障害の要因が如何なる条件下で生体に働きかけるのか、また起しやすい条件にどう対応するのか等について学修し、健康への理解を深める。到達目標は以下の通りである。 ・ 予防医学活動の基本を習得する。 ・ 保健，医療，福祉および介護制度，産業保健，地域保健，医療経済などの公衆衛生学諸領域の現代的課題等を習得する。 ・ 各種衛生・公衆衛生に関する知識を習得する。				
授業の概要				
環境要因から健康を守る原理と制度や環境要因に起因する健康破壊の現状とその予防策について理解し，生活や労働環境がヒトの健康や疾病に及ぼす影響（生活習慣病を含む）とその評価と予防策について学ぶ。 また，予防医学活動の基本や保健，医療，福祉および介護制度の概要について，さらに産業保健，地域保健，医療経済などの公衆衛生学諸領域の現代的課題等，各種の衛生・公衆衛生に関する知識を習得できる。				
授業計画				
第1回：ガイダンス「衛生学・公衆衛生学とは」				
第2回：体力と健康「体力の定義について」				
第3回：生活習慣病の予防「身体活動量と消費エネルギーについて」				
第4回：子どもの体力「規則正しい生活習慣と運動習慣の必要性について」				
第5回：健康の定義「歴史的背景と衛生学・公衆衛生学の変遷について」				
第6回：健康の評価「健康にかかわる保健衛生統計について」				
第7回：疾病の予防①「感染症と感染予防の対策について」				
第8回：疾病の予防②「公衆衛生上の緊急事態と予防接種について」				
第9回：現代の健康問題「ストレスと職業性疾患について」				
第10回：労働衛生①「労働衛生管理体制について」				
第11回：労働衛生②「THP（トータル・ヘルスプロモーション・プラン）について」				

第12回：環境保健①「暑熱環境と熱中症について」

第13回：環境保健②「環境要因による健康への影響について」

定期試験

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

町田和彦，岩井秀明，扇原 淳．21世紀の予防医学・公衆衛生 - 社会・環境と健康 - 第4版．杏林書院．2022．240p

学生に対する評価

授業内を行う小レポート(40%)、および学期末に行う試験(60%)の結果をもって行う。

授業科目名： 学校保健・学校安全		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井口 成明
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
自然災害が毎年のように発生する我が国において、児童・生徒に災害発生の原因、状況、被災時の対応、避難、救助法等を指導する必要性は重大である。また、児童・生徒における日常生活、あそびの変化、核家族化等が原因と思われるコミュニケーション不足から生じる教育的問題は、社会的な課題となっている。更には多発する交通事故においてもその原因を知り、自他の安全を確保させることは、喫緊の課題になっている。これらの問題は、教師を目指す学生にとって避けては通れない問題である。 学校において、保健観察である健康診断と保健指導は、自他の身体を大切に考え、尊重し合える関係を育ませるために、また感染症等によって学校による集団感染を防止させる手段、方法を教師志望の学生には理解させておく必要がある。 この授業では、児童・生徒が安心して通える学校作りのために教師がすべき校務と教育指導について学び、学校安全についての資質を持った教師の育成を目的にする。				
到達目標				
「学校は安全な場所」という概念から脱却し、潜在危険を理解、指導者になった時、常に潜在危険を意識し、改善する資質を習得する。さらに担当する児童、生徒に安全行動を理解、実践させるための指導力を習得する。				
授業の概要				
授業の前半5時間は、学校教育法と学校保健安全法に関わる、学校、教師に対する実施義務の内容（指導）と管理について講義し、6時間目以降グループワークによって学校保健年間計画表、学校安全計画表の立案、作成、学校保健・安全指導の指導案作成、模擬授業を実施する。				
授業計画				
第1回：学校安全の意義と安全文化の創造中学生、高校生をめぐる健康課題 家庭での学習習慣・生活習慣に課題 自身の欠如や将来への不安、体力の低下 都市化、情報化など社会環境や生活様式の変化、自然環境の変化、少子化などが子供の身体的活動、遊びの減少、食生活の変化、精神的負担の増大、人間関係の希薄化などが課題となり、学校保健・安全の指導、管理が重要となることを指導 第2回：学校安全とは、その構造と領域 安全教育、安全管理、組織活動の概要 学校保健とは、その構造と領域保健教育、保健管理、組織活動の概要				

第3回：教育課程における安全教育 小・中・高等学校における安全学習と安全指導

保健教育とは『生きる力をはぐくむ中学校保健教育の手引き』保健学習と保健指導の違い、保健教育の内容

第4回：学校事故の態様、体育・スポーツ活動中の事故とその原因 学校管理下の事故分析

学校保健計画とは学校保健安全法、学校保健計画の実際、作成の手順

第5回：中学校における保健指導学級活動における保健指導、学校行事における保健指導指導案の作成、発表

第6回：安全能力と潜在危険 安全能力の4つの条件、潜在危険とは、そのチェック・ポイント

学校安全計画と作成上の留意点 法的根拠、様式

第7回：安全学習の展開法 小・中・高等学校における安全学習のねらい、目的、内容、方法等を理解し生活安全、交通安全、災害安全の3つの観点から計画、指導案作成、授業実践ができるようにする。

第8回：安全能力と潜在危険 安全能力の4つの条件、潜在危険とは、そのチェック・ポイント

学校安全計画と作成上の留意点 法的根拠、様式。

第9回：中学校、高等学校における保健指導ホームルーム活動における保健指導、学校行事における保健指導中学校を想定したものを参考に、50分間の学級活動における保健指導の模擬授業

第10回：発育・発達/学校における感染症の予防と対策

第11回：学校環境衛生について 学校環境衛生活動の実践

第12回：心の健康問題 子どもに起こるこころの健康問題 こころの問題における教職員の対応について 思春期の児童生徒への対応

第13回：特別支援教育と学校保健・学校安全 発達障害について

定期試験を実施する

テキスト

学校安全講義資料 毎回、資料を配布する。

参考書・参考資料等

学校管理下における災害 日本スポーツ振興センター編集

学校保健ハンドブック教員養成系大学保健協議会編集 ぎょうせい

学生に対する評価

知識・技能 50% テスト評価 学びに向かう力 30% 学習カード評価

思考・判断・表現 20% レポート、学習指導計画案 「フィードバック」 年間学習指導計画、授業指導案等を、提出しアドバイスを含め返却し理解を深める。

授業科目名： 保健体育授業演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 豊
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 保健体育授業の実践的指導力の育成を目的として、「保健体育授業演習Ⅰ」（２年後期）、 「保健体育授業演習Ⅱ」（３年前期）、「体育科教育学演習Ⅲ」（３年後期）が設置されている。 Ⅰにおいては保健体育の知識の強化や保健体育における授業展開の実践例の紹介、授業分析の方法（期間記録法、相互作用観察法等の組織的観察法、形成的授業評価表などの授業評価法）など、模擬授業の基礎的知識を提供する。			
授業計画 第１回：ガイダンス・・・実践的指導力とは？ 第２回：体育・スポーツに関する専門知識① 保健体育教師として必要な専門的教養を身につけるための学習方法。体育の授業に必要な基礎的教養。保健の授業に必要な基礎的教養。自分ノートの作り方。 第３回：体育・スポーツに関する専門知識② 体育に関する専門的教養の高め方。学習指導要領に示された各運動種目のルール、つまりきに対する手立て、および体育理論で求められる専門的知識とそれらの高め方。 第４回：体育・スポーツに関する専門知識③ 保健に関する専門的教養の高め方。中学校及び高等学校の保健教科書に出てくる専門用語とそれらに対する理解の程度を評価問題を用いて確認する。 第５回：体育・スポーツに関する専門知識④+理解度テスト 保健体育教師として必要な専門的教養が現時点でどの程度身につけているのかを総合的に自己評価してみる。 第６回：「よい体育授業」とは 「よい体育授業」について、授業の基礎的条件と内容的条件について解説する 第７回：体育指導場面における組織的観察法 体育指導場面における組織的観察法（期間記録法、相互作用観察法等の組織的観察法、形成的授業評価表などの授業評価法）について解説する 第８回：実際の体育授業を観察・評価するⅠ グループごと、①期間記録、②相互作用、③指導案作成、④授業の基礎的条件、⑤授業の内容的条件の５つの観察・評価担当を設け、それぞれの担当ごと観察・評価する → 終了後、担当ごとに集合し、結果の見直しや観察法で不明な点を確認する 第９回：実際の体育授業を観察・評価するⅡ Ⅰで確認された反省点をもとに、Ⅱではあらためてグループごと①期間記録、②相互作用、③指導案作成、④授業の基礎的条件、⑤授業の内容的条件の５つの観察・評価担当を設け、それぞれの担当ごと観察・評価する 第１０回：単元構造図とは①単元構造図の作成方法の解説、目標に準拠した評価、指導と評価の一体化			

第11回：単元構造図の作成 指定領域で簡易な単元構造図および指導案を作成する 第12回：単元構造図の作成② 指定領域で簡易な単元構造図および指導案を作成する 第13回：指定領域で作成した単元構造図を発表し相互評価を行う。 定期試験
テキスト 平成29年小学校学習指導要領解説(体育) 文部科学省 平成29年中学校学習指導要領解説(保健体育) 文部科学省 平成30年高等学校学習指導要領解説(保健体育・体育編) 文部科学省
参考書・参考資料等 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校保健体育) 平成29年度版 中学校新学習指導要領の展開 保健体育編(明治図書) 中学校保健体育新3観点の学習評価完全ガイドブック(明治図書 令和3年)
学生に対する評価 知識・技能40%、思考力・判断力・表現力等30%、情意的領域評価30%

授業科目名： 保健体育授業演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 豊
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 本授業は保健体育科教員としての力量形成(実践的指導力)を図ることを目的に、保健授業および体育授業の模擬授業を、マイクロティーチング法を用いて実施する。具体的には、各自に保健および体育の授業を資質・能力、主体的対話的で深い学び、ICT活用等を取り入れた授業設計及び指導実践、それらの授業を振り返ることによって、授業設計力、実践力、省察力の視点から改善点を明らかにしていく。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業のねらいの説明、日程・内容（予定）の提示 cf. 介護等欠席日確認、保健・体育理論の授業および体育授業の学習指導案作成の要点の解説、学習指導案例の紹介、保健体育授業の観察・評価法の解説、事前自己評価 第2回：授業設計力① 保健模擬授業担当決定→単元計画・学習指導案の作成と教材準備（班ごと） 第3回：授業設計力② 体育模擬授業担当決定→単元計画・学習指導案の作成と教材準備（班ごと） 第4回：保健の模擬授業1 前時リフレクションシートの結果とコメント・本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認 第5回：保健の模擬授業1 小学校保健領域 前時リフレクションシートの結果とコメント・本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認 第6回：保健・体育理論の模擬授業2 中学校保健分野 前時リフレクションシートの結果とコメント・本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認 第7回：保健・体育理論の模擬授業3 高等学校保健分野 前時リフレクションシートの結果とコメント・本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認 第8回：模擬授業（保健・体育理論）の振り返り 生徒役・分析者・教師役の視点から） → 教員コメント（保健模擬授業の総括、体育模擬授業につなげることの提示） 第9回：体育の模擬授業1 知識・技能(クローズドスキル系) 本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認 第10回：体育の模擬授業2 思考力・判断力・表現力等(主に技能) 前時リフレクションシートの結果とコメント・本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授			

業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認
第11回：体育の模擬授業3 学びに向かう力・人間性等 前時リフレクションシートの結果とコメント・本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認 第12回：体育の模擬授業4 知識・技能(オープンスキル系) 前時リフレクションシートの結果とコメント・本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認 第13回：模擬授業全体総括 生徒役・分析者・教師役の視点から → 教員コメント（体育模擬授業の総括、模擬授業体験から見える自身の解決すべき課題についての振り返り、事後自己評価を行い、課題を明確にする。
テキスト 平成29年小学校学習指導要領解説(体育) 文部科学省 平成29年中学校学習指導要領解説(保健体育) 文部科学省 平成30年高等学校学習指導要領解説(保健体育・体育編) 文部科学省
参考書・参考資料等 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校保健体育) 平成29年度版 中学校新学習指導要領の展開 保健体育編(明治図書) 中学校保健体育新3観点の学習評価完全ガイドブック(明治図書 令和3年)
学生に対する評価 知識・技能40%、思考力・判断力・表現力等30%、情意的領域評価30%

授業科目名： 保健体育授業演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 豊
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標			
当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要			
本授業は保健体育科教員としての力量形成(実践的指導力)を図ることを目的に、保健体育授業演習Ⅱで学んだ成果を生かし、近隣の授業協力校において実施する。具体的には、協力校において求められる領域において、資質・能力、主体的対話的で深い学び、ICT活用等を取り入れた授業設計及び指導実践、それらの授業を振り返ることによって、授業設計力、実践力、省察力の視点から改善点を明らかにしていく。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
授業のねらいの説明、日程・内容（予定）の提示 cf. 介護等欠席日確認、授業体験校の指導内容の確認とグループ編成及び役割分担			
第2回：授業設計①			
学校ごとの単元計画・学習指導案の作成と教材準備（班ごと）			
第3回：授業設計②			
学校ごとの単元計画・学習指導案の作成と教材準備（班ごと）			
第4回：学内模擬授業			
当該校(小学校)における本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認			
第5回：学内模擬授業②			
当該校(小学校)における本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認			
第6回：学内模擬授業③			
当該校(中学校)における本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認			
第7回：学内模擬授業④			
当該校(高等学校)における本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認			
第8回：学内模擬授業の振り返りと実践に向けた修正			
生徒役・分析者・教師役の視点から） → 教員コメント（体験授業につなげることの提示）			
第9回：小学校授業体験1			
本時の進め方・役割分担の確認 → 模擬授業 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認			
第10回：小学校授業体験2			
本時の進め方・役割分担の確認 → 授業実践 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認			

第11回：中学校授業体験

本時の進め方・役割分担の確認 → 授業実践 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認

第12回：高等学校体験授業1

本時の進め方・役割分担の確認 → 授業実践 → 学生（生徒役、分析者、教師役）コメント → 教員コメント・次週の確認

第13回：模擬授業全体総括

分析者・教師役の視点から → 教員コメント（体育模擬授業の総括、模擬授業体験から見える自身の解決すべき課題についての振り返り、事後自己評価を行い、課題を明確にする。

テキスト

平成29年小学校学習指導要領解説(体育) 文部科学省

平成29年中学校学習指導要領解説(保健体育) 文部科学省

平成30年高等学校学習指導要領解説(保健体育・体育編) 文部科学省

参考書・参考資料等

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校保健体育)

平成29年度版 中学校新学習指導要領の展開 保健体育編(明治図書)

中学校保健体育新3観点の学習評価完全ガイドブック(明治図書 令和3年)

学生に対する評価

知識・技能 40%、思考力・判断力・表現力等 30%、情意的領域評価 30%

授業科目名： 体育科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清水 由
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 体育科・保健体育科教員としての最低限の知識を獲得する。 具体的には、次の3つの事項を到達目標とする。 1. よい体育・保健体育授業が成立する条件を理解し、実際に行う小グループでの模擬授業と関連づけること。 2. 学習指導要領・目標の変遷、小学校、中学校および高等学校の各領域について理解し、授業づくりに適用すること。 3. 最低限必要な学習指導案の内容を理解しICT機器の活用を含めた自らの理想の授業を指導案上に表現すること。			
授業の概要 体育科・保健体育科教員として、体育授業の意義と目的、育てる資質・能力を深く理解し、よい授業を展開していくための計画（特に、単元計画、学習指導案の作成）、指導方法、評価の方法について理解を深める。			
授業計画 第1回：「オリエンテーション、体育授業の目標と内容」（テキストp4-7） 本授業の目的と進め方、成績評価の方法、受講にあたっての注意事項。 体育は何を教える教科なのか？自身の経験を振り返ることから目標・内容について理解する。 第2回：「体育授業で育てたい力①」（テキストp8-9） 学習指導要領に示されている資質・能力を理解し、育てたい力について話し合いながら考える。 また、これまでの授業づくりの考え方を歴史的な経緯を踏まえ、主観主義的立場と客観主義的立場から理解した上で、自ら目指す授業について考える。 第3回：「体育授業で育てたい力②」 時代背景から育てたい力（目標の変遷）について理解し、体育授業と部活動やスポーツクラブとの違いについて考える。 自らの授業に期待する育てたい力を明確にし、理想の体育授業を考える。 第4回：「体育授業に否定的な児童・生徒の実際」 スポーツ学部にも所属し保健体育科教員を目指す学生にとっては対極に位置する体育授業に否定的な児			

童・生徒について、具体的な例をあげて理解させる。授業は、そのような児童・生徒に対していかに学習成果をあげるかということを第一の課題となる。

第5回：「いろいろな体育授業」

世界で行われている体育授業、日本の体育授業、最先端の機器（ICT）を使った体育授業を視聴し、効果的な活用方法の理解とともに、どんな体育授業が理想なのかを考える。

第6回：「体育授業を観察する」（テキストp94-98）

体育授業はどのように観るとよいのか？少人数での模擬授業をし合い、協議しながらまとめ、過去の研究成果について学ぶ。

第7回：「よい体育授業の条件」（テキストp10-14）

これまでの体育科教育学の研究成果から抽出された「よい体育授業の条件」を理解し、自らのめざす授業について考える。

第8回：「体育授業における教師の役割」（テキストp10-14）

体育の授業を行うときに、教師は何をしているのか？少人数で模擬授業を行うことによって授業前（計画段階）、授業中、授業後の視点から考え、教師の役割をトータルで考える。

第9回：「教材化の重要性とポイント」（テキストp26-85）

体育の授業においては、スポーツという素材を教材化して子どもたちに提示するところに教師の意図や思いが反映されることを理解し、自分の得意とする運動を具体的に教材化することを考える。

第10回：「体育の授業づくりの考え方」（テキストp7-9）

時代の要請とともに変化してきた体育授業の在り方について理解し、自分のめざす授業について考える。また、授業づくりに関わって、ICT機器の効果的な活用の仕方について考え、先進的な活用方法について理解する。具体的に指導案の略案を作成しながら進めることで理解を深める。

第11回：体育授業における評価

評価と評定の違いを理解した上で、評価・評定されてきた経験を踏まえて体育授業でのよりよい評価・評定について考える。

第12回：体育理論の内容の理解

教科書に記載されている体育理論の教材について、小グループでの模擬授業を通して「生徒が興味を抱き、理解を深める教材づくり・授業づくり」について考える。

第13回：「体育授業の学習指導計画作成」（テキストp99-111）

年間計画、単元計画、1単位時間計画を作成するときのそれぞれのポイントを理解し、具体的に学習指導案をつくる。

テキスト

『小学校学習指導要領解説 体育編』

『中学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 保健体育編』

『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』

『テキストブック 授業のユニバーサルデザイン 体育』一般社団法人日本授業UD学会

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

毎回のふりかえりと 3 つの課題で評価を行う。

出席回数が 3 分の 2 に満たない場合には、本学の規定に基づき単位を認定しない。

毎回の振り返り（20%）・・・到達目標 1、2

課題 1 授業内での模擬授業やディスカッションなどによる表現（20%）・・・到達目標 1

課題 2 授業内レポート（30%）・・・到達目標 1、2

課題2 学習指導案の作成（30%）・・・到達目標2、3

授業科目名： 保健科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 井口 成明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本教科のねらい 小学校保健領域、中学校の保健分野、および高等学校の科目保健の意義と目的、目標、内容について理解を深めるとともに、より良い保健の授業を展開していくための計画作成（特に単位時間計画の作成）、（ICT 機器の活用を含む）指導方法、評価の在り方について理解を深めることが本授業の狙いである。なお、本授業は中学校及び高等学校教諭一種普通免許状「保健体育」取得のための必修授業として位置付けられている。			
1 知識・技能 ・学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
2 思考力・判断力・表現力等：保健科教育法で生じやすい課題について、思考し判断したことを表現する			
3 主体的学び：保健科教育法で求められる授業への取り組み、予習・復習に取り組もうとする			
授業の概要			
本授業は、オンデマンド動画、オンライン授業、対面授業を組み合わせ実施する。グーグル・フォームによる毎時のアンケート、小テストを組み合わせ実施する。また、桐蔭ユニバにより、授業課題、予習復習のための資料提示を行う。			
授業計画			
第1回：授業の進め方と留意点 保健科教育法とは何か。保健学習が目指す資質・能力			
第2回：我が国の健康課題と保健教育(保健指導・保健学習)の意義学校におけるカリキュラム・マネジメント、学習内容と学習教材の関係性			
第3回：保健学習の目標及び保健学習の内容と評価 配当時間 単元内容			
第4回：保健学習の指導計画の作成と内容の取扱い			
第5回：単位時間計画作成の要点 単元整理シートの作成等			
第6回：優れた保健学習から学ぶ 小学校・中学校・高等学校の研究授業から学ぶ			
第7回：保健学習の主体的・対話的学びを促すアプローチ①			
第8回：保健学習の主体的・対話的学びを促すアプローチ②（ICT機器の活用を含む）			
第9回：学習指導案作成グループワーク心身の健康に着目した模擬授業制作（教材研究を含む）			
第10回：学習指導案作成グループワーク安全・環境に着目した模擬授業制作（教材研究を含む）			
第11回：学習指導案作成グループワーク安全・環境に着目した模擬授業制作（ICT 機器の活用及び教材研究を含む）			
第12回：簡易模擬授業発表（ICT 機器の活用及び教材研究を含む）			
第13回：保健科教育の現状と課題			
定期試験は実施しない			

テキスト
中学校学習指導要領保健体育(2017)、中学校保健体育指導の展開(明治図書 2017)
参考書・参考資料等
文部科学省 中学校学習指導要領解説(保健体育編) 2017
学生に対する評価
知識・技能 40% テスト評価 主体的学び 30% 学習カード評価 思考・判断・表現 40% レポート、学習指導案(該当教科) 【フィードバック】学習カードの毎時の返却及びレポートの返却及び優秀事例の配布等により、求められるモデルイメージを高められるようにする。

授業科目名： 陸上競技指導法・コーチング論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 櫻井 智野風
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
コーチングの実践を交えながら展開することで、スポーツ指導の実践的な諸問題を明らかにするとともに、それらを解決するための能力を養うことを目的とする。				
授業の概要				
本特論では、陸上競技を対象として、コーチングの理論と方法を科学的観点から追求していく。これまでに行われてきた陸上競技全般を対象とした科学研究を整理し、研究の動向とその成果を理解する。そして、科学的なサポートにより実践活動が向上することを証明していく。また、コーチングの実践を交えながら展開することで、スポーツ指導の実践的な諸問題を明らかにするとともに、それらを解決するための能力を養うことを目的とする。 また、コーチングとして現場へのフィードバックできる力を習得させる。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・シラバスの確認・指導者の役割について				
第2回：陸上競技の特性 陸上競技を指導する理由・陸上競技の種目、種目特性、ルールについて学ぶ（ICTを活用した授業運営）				
第3回：陸上競技の指導に必要な要素 安全面、環境面の点から指導上の留意点と対象者の年齢、性別によって指導する留意点について学ぶ（ICTを活用した授業運営）				
第4回：選手に対するアプローチ グッドコーチとなるための要素を学習する				
第5回：コーチングの実践1 短距離 種目特性と指導のポイントをグループワークにより議論し、実践する				
第6回：コーチングの実践2 ハードル 種目特性と指導のポイントをグループワークにより議論し、実践する				
第7回：コーチングの実践3 中長距離・競歩 種目特性と指導のポイントをグループワークにより議論し、実践する				
第8回：コーチングの実践4 跳躍（走幅跳・走高跳・棒高跳） 種目特性と指導のポイントをグループワークにより議論し、実践する				
第9回：コーチングの実践5 投てき（砲丸・円盤・やり） 種目特性と指導のポイントをグループワークにより議論し、実践する				
第10回：コーチングの実践6 混成競技 これまで学んだコーチングを利用しミニ競技会を開催する				
第11回：コーチングプログラム作成 これまで学んだ知識により、トレーニングプログラムを作成する（ICTを				

活用した授業運営)

第12回:コーチング実践演習1 種目を選択し、指導実践を演習方式で行い、学生間で評価する

第13回:コーチング実践演習2 種目を選択し、指導実践を演習方式で行い、学生間で評価する

テキスト

陸上競技コーチングブック(大修館書店)

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

出席を中心として、授業態度および演習をもって総合的に判断する。参加度(50%)、授業態度(30%)、演習(20%)とする。

陸上競技のルール・種目特性について理解するとともに、技能習得する。

授業科目名： ネット型球技指導法・コーチング論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 国正 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ネット型球技種目に関する知識と技能について模範指導ができる。ネット型球技種目の指導内容を生徒の特性に応じて柔軟に組み立てることができる。指導現場を想定しながら、意欲的に取り組もうとしている。			
授業の概要 本科目は、ネット型球技指導法・コーチングの実践とりわけ学校体育に着目し、単元学習の場を念頭に置き授業を展開する。ネット型球技種目に関する知識と模範実技の習得さらには単元学習計画や指導案を作成する。また、履修者が指導者と学習者となるように構成し、実践型学習を進めていくものとする。			
授業計画 第1回：ネット型球技とは 学習指導要領における球技およびネット型球技の学習目標および学習内容、ネット型球技の研究動向 第2回：子どもの発達段階に応じたネット型球技の授業づくりと学習評価 ネット型球技における「ボール操作の技術」と「ボールを持たない動き」、ネット型球技の学習評価 第3回：基礎動作の習得に向けた指導案作成と模擬指導の実践① 個人技能の習得（パス）に着目して 第4回：基礎動作の習得に向けた指導案作成と模擬指導の実践②（映像を用いた動作説明） 個人技能の習得（サーブ）に着目して 第5回：基礎動作の習得に向けた指導案作成と模擬指導の実践③ ディフェンスに着目して 第6回：基礎動作の習得に向けた指導案作成と模擬指導の実践④ オフェンスに着目して 第7回：チーム戦術習得に向けた指導案作成と模擬指導の実践①（ICTを活用した授業実践） オフェンスとディフェンスの攻防に着目して 第8回：チーム戦術習得に向けた指導案作成と模擬指導の実践②（ICTを活用した授業実践） オフェンスとディフェンスの組織に着目して 第9回：連携プレーの習得に向けた指導案作成と模擬指導の実践①（映像を用いた組織的な守備の説明）			

)

トータルディフェンスに着目して

第10回：連携プレーの習得に向けた指導案作成と模擬指導の実践②（パワーポイントでの資料提供）

トータルオフェンスに着目して

第11回：ゲーム運営を目指した指導案作成と模擬指導の実践①

審判法に着目して

第12回：ネット型球技種目におけるゲーム運営の課題

第13回：ネット型球技種目に関する知識・技能に関する試験（試験終了後に試験解説を実施）

定期試験は実施しない。

テキスト

別途指示する

参考書・参考資料等

公益財団法人日本バレーボール協会編、コーチングバレーボール基礎編、大修館書店、2017

学生に対する評価

授業内での取り組み60%、レポート課題20%、実技テスト10%、学習カード10%

授業科目名： ベースボール型球技 指導法・コーチング論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤栄治 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
ベースボール型球技のコーチングに必要となる知識・技術・技能を習得し、主に学校教育で指導することが出来るようなコーチング技術を習得し、コーチング計画の立案ができるようになることを目標とする。具体的には、以下に示す4点を本科目の到達目標とする。			
1. ベースボール型球技の競技特性や基本的なルールを理解すること			
2. ベースボール型球技を楽しむための基本的な技術を理解し、基礎技術を身に付けること			
3. 主体的に参加するとともに、円滑なゲーム運営を行うために仲間と連携し、積極的なコミュニケーションが取れること			
4. 自身や他者の長所や課題を把握し、コーチング計画の立案に反映させられること			
授業の概要			
ベースボール型球技の競技特性を理解し、それらの基本技術である投球・捕球・打撃の理論と技能を習得し、戦術を理解する。また、ベースボール型球技のコーチングに必要となる知識・技術・技能を習得し、主に学校教育で指導することが出来るようなコーチング技術を習得する。コーチングの対象者の目的や条件を踏まえた指導法および指導者像の確立を目指す。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：基礎技術①キャッチボール（ICTを活用した授業運営）			
第3回：基礎技術②キャッチボール（応用）			
第4回：守備技術①ゴロ捕球、フライ捕球、送球（ICTを活用した授業運営）			
第5回：守備技術②ゴロ捕球、フライ捕球、送球（応用）			
第6回：守備技術③投球（ICTを活用した授業運営）			
第7回：守備技術④投球（応用）			
第8回：攻撃技術①バッティング（ICTを活用した授業運営）			
第9回：攻撃技術②バッティング（応用）			
第10回：守備戦術と攻撃戦術（ICTを活用した授業運営）			
第11回：模擬授業の実施に向けた指導案作成①			
第12回：模擬授業の実施に向けた指導案作成②			

第13回：擬授業の実施に向けた指導案作成③

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

必要に応じて資料を配布するほか、文献を紹介する。

学生に対する評価

授業参加度60%（到達目標 1， 2， 3， 4）

レポート20%（到達目標 1， 2， 4）

実技試験20%（到達目標 1， 2）

以上から総合的に成績評価を行う。

なお、出席回数が2/3に満たない場合は、本学の規定に基づき単位を認定しない。

「課題(試験やレポート)に対するフィードバック」講義形式で授業を行う際にこれまでの実技を振り返り、フィードバックの時間を設ける。また、講義形式のリアクションペーパーの質問や意見を次回授業時に紹介するほか、最終回の授業時にもフィードバックの時間を設ける。

授業科目名： 武道指導法・コーチング論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉鷹幸春 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
武道の歴史とそれを取りまく環境について理解する。また、学校体育における武道種目の指導案を作成することができ、基本的な授業の展開が可能になる。 指導分野では模擬授業を、コーチング分野ではプレゼンテーションとディスカッションを通し実践的指導力の基礎を身につける。 教員あるいは競技指導者は、現状に満足することなく常に学び続ける資質が求められる。そのため、将来これらを目指す者として相応しく、自ら積極的に学んでいく姿勢を身に付ける。			
授業の概要			
本講義では、武道における指導法とコーチングの二つの分野に別け展開していく。指導法分野では、健康を考えながら体力の向上を目指し、日本の伝統文化ともいえる武道（柔道・剣道）を実施し、その経験と知識を身に付けることを目的とする。また、中学校指導要領の武道必修化にともない、中学高校保健体育教員免許取得を目指す人にも、指導者として必要な知識や技能を身に付けることを併せて目的とする。 コーチング分野においては、武道種目の競技力向上のために必要な組織作りや指導法、トレーニング方法など、選手と指導者の関わり方やそれぞれの役割について学習する。様々なコーチングスタイルや海外のコーチングシステムにも触れながら、武道指導者として、また組織やチームを運営する立場として、自ら思考し実践する能力を養うことを目的とする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
武道指導法・コーチング論での学び			
第2回：武道の歴史			
武道を取り巻く環境			
第3回：武道におけるコーチングの意義と指導者の役割			
第4回：武道指導現場における諸問題と安全管理			
第5回：海外の武道事情と様々なコーチングの事例			
第6回：テーマ別ディスカッション			

第7回：基本稽古（基本指導法）（映像を活用した指導方法の実践）

第8回：基本稽古（仕掛け技指導法）（映像を活用した指導方法の実践）

第9回：模擬授業（実技）

第10回：模擬授業（実技）（ICTを活用した授業展開の実践）

第11回：中学・高校生における柔道学習指導の進め方（理論）

第12回：柔道学習指導の基本的事項の学習（理論）

第13回：柔道の実技学習（実技）

定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省が定める学習指導要領を使用する。その他テキスト・教材は、必要に応じ適宜指定する。

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜指定する。

学生に対する評価

上記にある、それぞれの到達目標に照らして総合的に評価する。

1. 知識・技能：実技テスト・筆記テストを含む評価40%
2. 思考・判断・表現：実技能力含む評価30%
3. 主体的学び：課題レポート等を含む評価30%

授業科目名:ダンス指導法・コーチング論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 林田はるみ 担当形態: 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになることが目標である。			
具体的には、次の2つの事柄を科目の到達目標とする。			
1. 体育教員として、ダンスの「表現活動分野」を指導できるようになる			
2. グループワーク(作品の創作)を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、コミュニケーション能力を伸ばす			
授業の概要			
ダンス領域の内容(創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンス)の指導法について講義と演習を通して学修を進める。ダンス指導法(教材作り、単元構成、指導・評価の観点等)について理解を深め、模擬授業を通して指導力の向上を図る。			
授業計画			
第1回:授業の概要を説明:学習指導要領「ダンス」の内容と3つのダンスについて。簡単なリズムからステップを考える。ステップを組み合わせたリズムダンスを作る。(ICTを活用した授業運営)			
第2回:ダンスの典型教材からの学び ①リズム系のダンス (ICTを活用した授業運営)			
第3回:ダンスの既存教材に対する検討 ①リズム系のダンス (グループディスカッション及び発表)			
第4回:ダンスの指導案の作成 ①リズム系のダンス			
第5回:ダンスの指導案の検討と修正 ①リズム系のダンス (グループディスカッション及び発表)			
第6回:ダンスの模擬授業 ①リズム系のダンス			
第7回:ダンスの既存教材に対する検討 ②フォークダンス (グループディスカッション及び発表)			
第8回:ダンスの典型教材からの学び ③創作ダンス (ICTを活用した授業運営)			
第9回:ダンスの既存教材に対する検討 ③創作ダンス (グループディスカッション及び発表)			
第10回:ダンスの指導案の作成 ③創作ダンス			
第11回:ダンスの指導案の検討と修正 ③創作ダンス (グループディスカッション及び発表)			
第12回:ダンスの模擬授業 ③創作ダンス			
第13回:ダンス指導法授業まとめ:学習指導要領「ダンス」の内容と3つのダンス指導法についてディスカッションを行う。			

定期試験は実施しない。

テキスト

・文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年』東山書房 2017年

※以下のURL参照（ダウンロード可能）

:https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_008.pdf

参考書・参考資料等

・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 平成30年』東山書房 2018年※以下のURL参照（ダウンロード可能）

:https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf

学生に対する評価

2つの実技試験（指導実習試験とダンス実技試験）に毎回の授業への取り組みと貢献度を加味して評価を行う。

実技試験（80％）：指導実習試験（学期の中間）とダンス実技試験（学期末）の出来栄を評価する

授業貢献度（20％）：毎回の授業へ取り組む姿勢、貢献度、学びに向かう態度、オンライン課題の提出状況などを合わせて評価する

授業科目名： 体づくり運動指導法		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 増田敬子
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「体づくり運動」のねらいと行い方を理解し、他の運動領域との関連性、心身の発育発達過程、運動の 苦手な学習者に対しての教育的配慮をふまえ、適切かつ効果的な指導法と実践力を習得する。				
授業の概要 「体づくり運動」は、運動による自身の体の変化に気づき、体の調子を整えることや、仲間と交流を図る ことから、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現させるための資質や能 力を学習することである。また、将来教員として、心身の発育発達や健全な成長を促す運動の知識・技 能を、児童・生徒に理解させるための指導法を習得する。さらに、受講者自身の実践的感覚を養うため 模擬授業の機会を設け、実践を通して各種運動・体操の指導技能を高めるとともに、各種課題に応じ た運動教材や内容の検討、体操や運動の構成および創作能力を高める。				
授業計画 第1回：ガイダンス、体づくり運動のねらいと内容、具体的な指導について 第2回：体ほぐしの運動1、体ほぐしの運動を楽しむ(小学1～4年を対象とした運動) 第3回：体ほぐしの運動2、体ほぐしの運動の行い方を知る(小学5～中学2年を対象とした運動) 第4回：体ほぐしの運動3、体ほぐしの運動の組合せと構築(中学3年以降を対象とした運動) 第5回：多様な動きをつくる運動(遊び)1、多様な動きを広げる(小学1～2年を対象とした運動) 第6回：多様な動きをつくる運動(遊び)2、多様な動きを高める(小学3～4年を対象とした運動) 第7回：体力を高める運動1、体力を高める運動の行い方を知る①(小学5～6年を対象とした運動) 第8回：体力を高める運動2、体力を高める運動の行い方を知る②(中学1～2年を対象とした運動) 第9回：体力を高める運動3、運動の計画を立てて取り組む（中学3年以降を対象とした運動） 第10回：模擬授業1 第11回：模擬授業2 第12回：模擬授業3 第13回：模擬授業4 定期試験は実施しない。				
テキスト 体づくり運動－授業の考え方と進め方－(改訂版)（文部科学省：東洋館出版社）				
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。				
学生に対する評価 課題レポート(20%)、出席(40%)、模擬授業の発表内容(40%)				

授業科目名： 器械運動指導法・コー チング論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤洋一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体 育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1.器械運動の知識を深める。 2.器械運動の技の技術や技能の習得の体験を通じて運動特性の理解を深める。 3.実技の実践を通じ、指導方法や補助方法を習得する。			
授業の概要 器械運動は、マット、鉄棒、跳び箱などの器械・器具を使った運動種目でそれぞれの特性を いかした「技」によって構成されている。 本授業では、1 年次に習得した基本的な技の技 能向上を図るとともに応用技への挑戦から指導方法や補助方法を学習する。技の発表や評 価 によって出来映えを競う体操競技に通ずることを理解し、体操競技の知識についても学習す る。			
授業計画 第 1 回:授業ガイダンス 授業を受けるうえでの諸注意 器械運動の特性について 第 2 回:器械運動の導入 準備運動や身体の操作について マット運動の導入 1 年時の復習 回転系 接点技群の基本技:前転、後転 などほん転技群の技:側方倒立回転 第 3 回：マット運動の指導方法 回転系 接点技群の発展技:伸膝前転、伸膝後転 など 巧技系 倒立 など 第 4 回：マット運動の指導方法 段階的練習の理解 発展技の導入 第 5 回：マット運動の指導方法 段階的練習の理解 回転系 ほん転技群の発展技:前方倒立回転跳び、頭はねおき など 第 6 回：マット運動の指導方法 補助方法の理解 回転系 ほん転技群の発展技:前方倒立回転跳び、頭はねおき など			

第 7 回 跳び箱運動の導入方法 段階的練習の理解 1 年次の課題の復習 第 8 回：跳び箱運動の指導方法 段階的練習の理解 1 年次の課題の復習 切り返し系の技 開脚跳び かかえ込み跳び など 第 9 回：跳び箱運動の指導方法 発展技での段階的練習と補助方法の理解 回転系の技 台上前転 前方倒立回転跳び など 第 10 回：鉄棒運動の指導方法 導入の仕方 1 年次の課題の復習、逆上がり など 第 11 回：鉄棒運動の指導方法 段階的練習の理解 1 年次の課題の復習、支持回転技 など 第 12 回：鉄棒運動の指導方法 補助の仕方、補助用具の使い方 上がり技 下り技 第 13 回：授業のまとめ 安全対策について 授業の振り返り	
テキスト 必要に応じ資料として配付	
参考書・参考資料等 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 中学校学習指導要領解説 保健体育編 学校体育実技指導資料第 10 集 器械運動指導の手引 文部科学省	
学生に対する評価 平常点 60% 授業への参加度、授業への取り組み 実技の実践により、指導方法や補助方法を習得度合いなど（到達目標 3） 実技課題及びレポート 40% レポート（到達目標 1）や実技課題（到達目標 2）での評価 レポートに対しては新たな課題としてフィードバックする	

授業科目名： 水泳指導法・コーチング 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井口 成明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本講座は、個人種目、競争的及び克服型スポーツとしての水泳を通して、基礎的運動能力（平衡性、巧緻性及び全身持久力性）を養い、心身の不調（ストレス）に対応できる能力を養うことを目的とする。同時に、水泳によって心身の調和的な発達を図り、生涯にわたるスポーツ習慣を形成・定着させる機会とする。また、正しい技術（フォーム）の習得過程で、自分の身体特性にあった泳ぎに改良し、自身が教える立場に立った際にも「教科書通り」の泳法の押し付けにならない思考回路の構築が卒業認定の際の各々の研究分野にも活かされることを期待する。			
授業の概要			
各種泳法の習得によって、走・跳・投と並び必要な体力要素である泳力を向上させ、運動原理の理解を深めるようアプローチする。			
授業計画			
第1回：・ガイダンス　・競泳競技規則と審判法　・プール使用上の諸注意　・水泳の意義と特性　・バディを組む・ボビング　・水中歩行			
第2回：・水泳の基本　・水泳の管理と安全対策　・浮く　・沈む　・進む　・クラゲ浮き　・ダルマ浮き　・伏し浮き　・背浮き　・肺は大きな浮きぶくろ　・浮く理由を考える （ICTを活用した授業運営）			
第3回：・泳力テスト　・動作の方法　　・平泳ぎの基本技術の方法　・フォーム完成のポイント ・キック動作　・腰かけキック　・壁キック　・板キック　・面かぶりキック　・アップキックとダウンキックのバランスを考える　・沈む理由を考える （ICTを活用した授業運営）			
第4回：・平泳ぎの基本技術　・プル動作　・正しい軌跡　・入門型のプロセス　・目標型のプロセス ・ストリームライン保持　・形の理想は流線形　・スカーリング　・その場ストローク　・片腕ストローク　・泳ぎの速さ＝推進力-抵抗 （ICTを活用した授業運営）			
第5回：・平泳ぎの基本技術　・コンビネーション動作　・腕と呼吸と脚の調和　・2ストローク1ブレス　・その場ストローク+呼吸　・アゴを引き気味に呼吸する　・お風呂の中で渦巻きを作る（			

揚力)

第6回：・平泳ぎの総合練習　・ターンを含めた反復動作　・ステップアップ練習法　・ドルフィンブレスト　・アームプル　・水平ターン　・ひとかきひとけり　・呼吸の役割・ウィップキックとウエッジキックの違い

第7回：・平泳ぎの実技テスト　・25mのタイム計測　・ニチレイ泳力検定4級が目標　・テンポアップ

第8回：・泳力テスト　・バタフライの基本技術　・キック動作　・動作の方法　・フォーム完成のポイント　・腰かけキック　・ドルフィンキック・両腕体側キック　・両腕伸ばしキック　・膝を伸ばして（曲げすぎない）キックする

第9回：・バタフライの基本技術　・プル動作　・入門型のプロセス　・目標型のプロセス　・動作の方法　・正しい軌跡　・片腕ストローク　・両腕ストローク　・第一キックと第二キックの違い。

（ICTを活用した授業運営）

第10回：・バタフライの基本技術　・コンビネーション動作　・腕と呼吸と脚の調和　・入水に合わせたリズムで呼吸する

第11回：・バタフライの総合練習　・ターンを含めた反復動作　・ステップアップ練習法　・水平ターン　・クイックターン　・アンダーウォーター技術　・外過ぎ、内過ぎの入水に注意

（ICTを活用した授業運営）

第12回：・救助法　・着衣泳　・日本泳法

第13回：・高齢者や障がい者への水中運動、水中ウォーキング、注意点

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

新水泳指導教本（大修館書店）、基礎からマスター水泳（ナツメ社・柴田義晴著）他、適宜紹介。

学生に対する評価

成績評価は出席率及び授業態度等が40%、「平泳ぎ」20%、「バタフライ」20%、「レポート」20%とする。但しS評価は100m個人メドレーを制限タイム内で泳いだものに限る。

授業科目名： ゴール型球技指導法 ・ コーチング論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 和宏 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 指導現場で必要な実践的な指導理論や指導方法の確立することが、目標となる。 具体的には、 ①個人技術の指導法の習得 ②グループ戦術の指導法の習得 ③チーム戦術の指導法の習得 ④審判法の習得			
授業の概要 ゴール型球技のボールゲームが持つ特徴を踏まえて、ゲームそのものの仕組みを理解するとともに、個人スキルからチーム戦術に至るまでの指導法等を理論的かつ実践的に学習する。 本授業は、ゴール型球技の中でもバスケットボールとハンドボール競技の2つを取り上げ、球技種目の知識の習得と模擬授業に重点を置く。			
授業計画 第1回：ガイダンス、ゴール型球技種目の紹介 第2回：ゴール型球技の競技特性・歴史など① 第3回：ゴール型球技の競技特性・歴史など② 第4回：個人技能習得に向けた指導案の作成と実践①ーオフェンススキルに着目してー 第5回：個人技能習得に向けた指導案の作成と実践②ーオフェンススキルに着目してー 第6回：グループ・チーム戦術習得に向けた指導案作成と実践①ーオフェンスに着目してー 第7回：グループ・チーム戦術習得に向けた指導案作成と実践②ーオフェンスに着目してー 第8回：チーム戦術習得に向けた指導案作成と実践①ーディフェンスに着目してー 第9回：チーム戦術習得に向けた指導案作成と実践②ーディフェンスに着目してー 第10回：チーム戦術習得に向けた指導案作成と実践① 第11回：チーム戦術習得に向けた指導案作成と実践② 第12回：ゲーム運営を目指した指導案作成と実践① 第13回：ゲーム運営を目指した指導案作成と実践② 定期試験は実施しない。			

テキスト

特に定めない

参考書・参考資料等

日本バスケットボール協会編、バスケットボール指導教本（上巻・下巻）、大修館書店、2016 /

「誰でも教えられる！ハンドボール」梓書院、「知ってる？ハンドボール」ベースボール・マガジン社

学生に対する評価

授業での取り組み、姿勢、課題レポートなど総合して評価する。

授業科目名： 生涯スポーツ論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 綿貫慶徳
				担当形態： 単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
生涯スポーツの基礎的・応用的知識を獲得し、生涯スポーツの実践に役立てる。				
到達目標は以下の通り。				
・人文科学、社会科学的な見地に基づいた、スポーツに関わる基礎知識を理解する。				
・生涯スポーツ論の変遷について、具体的に説明できる。				
・日本における生涯スポーツの現状と課題について、包括的に説明できる。				
授業の概要				
資本主義の膨張を背景として、市場経済が著しく発展した先進諸国の多くは、少子高齢化社会を迎え、医療福祉体制の構造転換や生活価値観の見直しといった様々な課題に直面している。人びとが直面する課題の克服に向けて、「健康」「コミュニティ」といった人間の心身と密接に結びついた言葉が社会的にクローズアップされ、その中で「生涯スポーツ」という概念（スローガン）が広範に知れ渡っている。先進諸国において、「生涯スポーツ」の推進は重要な政策課題の一つに位置づけられているが、そこには国や地域ごとに異なる問題や障害が立ちはだかっている。本講義では、日本の事例を中心とした「生涯スポーツ医の展開過程と今日的諸相」「行政や各種スポーツ関連団体による生涯スポーツ振興の実際」「自己や他者のスポーツライフの創造」を主要テーマにとりあげ、映像資料やディスカッションを織り交ぜつつ、多角的な視点から「生涯スポーツ」にたいする認識を深めていく。				
授業計画				
第1回：「生涯スポーツ」のひろがり、「生涯スポーツ論」の視角				
第2回：スポーツと「生涯スポーツ」の概念（スローガン）				
第3回：スポーツ振興の展開過程：戦後社会～1980年代				
第4回：スポーツ振興の展開過程：1990年代～現在				
第5回：「生涯スポーツ」の今日的諸相　＜「する」スポーツ＞				
第6回：「生涯スポーツ」の今日的諸相　＜「みる」スポーツ＞				
第7回：「生涯スポーツ」の今日的諸相　＜「ささえる」スポーツ＞				
第8回：「生涯スポーツ」の今日的諸相　＜スポーツツーリズム＞				
第9回：「生涯スポーツ」に関わる法令、行政施策、関連諸団体の取り組み				
第10回：「生涯スポーツ」の実践に関わる諸条件の現状と課題　＜スポーツ産業＞				

第11回：「生涯スポーツ」の実践に関わる諸条件の現状と課題 <スポーツ環境>

第12回：「生涯スポーツ」の実践に関わる諸条件の現状と課題 <オリンピック・レガシー>

第13回：ヘルスプロモーション <「健康格差社会」考>

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

参考書：中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則（編）『21世紀スポーツ大事典』大修館書店

参考資料：授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（50%）、中間試験（20%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）

授業科目名： 障害者スポーツ論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日比野 暢子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 障害者に対するスポーツ振興する意義や価値、異なる障害種別それぞれに対する知識を深めつつ、どのような指導法や推進の施策があるのかなどを、競技スポーツ、生涯スポーツ、リハビリテーションスポーツの各視点から理解する。			
2. パラリンピック、スペシャルオリンピックス、デフリンピックス、ソーシャルフットボールなどの国際大会や、国内で開催されている全国障害者スポーツ大会など、それに関わるクラス分けのシステムや実際に開催されている種目などを理解する。			
授業の概要			
本講義は、障害者スポーツを取り巻く社会背景、障害種別や程度に応じた指導法、障害者スポーツの現状と課題について理解することを目的とし開講する。東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催後、パラリンピックに係るスポーツ政策界は、行政、関係団体、選手に対する支援体制、企業、教育機関とのかかわりを含め、大きく様変わりしようとしている。なかでも、2014年4月にスポーツ庁に障害者スポーツが移管され、福祉、医療という視点が中心であったものから、スポーツとしての推進が強調されるようになった。本講義では、障害者のスポーツの現状と課題について理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 講義内容、講義の進め方、成績評価の方法と基準について、説明する。障害者のスポーツの定義や歴史的背景も概観する。			
第2回：障害者の世界大会：パラリンピック選手を招いて パラリンピック選手をお招きし、どのようにしてスポーツに出会い、どのような競技活動への支援が必要であったのかなどを講演を聞き、障害者のスポーツ発展に何が必要なのかを考える。			
第3回：身体障害者とスポーツ1：			
身体障害者とパラリンピックの歴史：身体障害とは何か。障害の種別（肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、内部障害）、程度に違いがあること、その違いにより実際に行なうスポーツも異なる可能性があることについて、ビデオなどを用い説明する。			
第4回：身体障害者とスポーツ2：身体障害の特性と道具の工夫			
障害種別により異なるスポーツ活動への指導法、支援に対する考え方も異なること、それらの特性を理解した上での：指導法の工夫と、スポーツ器具を工夫することでスポーツ活動が実現される基本的な考			

え方についても学ぶ。

第5回：身体障害者とスポーツ3：先天性障害と後天性障害

生まれつきにして障害者である人と、事故や病気などが原因で障害者になる人がいる。成育歴の違いによるスポーツ経験の差はあるのか、また障害者になる（なった）時に障害をどのように受け止めていくのかとの視点で、障害受容を学ぶ。

第6回：身体障害をスポーツ4：クラス分けとは

障害者のスポーツ、特に身体障害者のスポーツ大会には、クラス分け制度を用いる場合が多い。クラス分けとはどのようなものか、必要とされる理由、実際にどのようにして選手にクラスが伝えられるのか等を事例をもって理解する。

第7回：身体障害者とスポーツ5：

重複障害、最小障害、重度障害：障害の程度について、理解するにあたり、重複障害、最小障害、重度障害について理解する。本講義では、脳性麻痺、視覚障害、聴覚障害を例とする。

第8回：全国障害者スポーツ大会の概要と歴史：

わが国における障害者のスポーツの発展には、全国障害者スポーツ大会の開催と、障害者スポーツに関わる資格がある。本講義では、全国障害者スポーツ大会が開催に至った経緯と、歴史、そして現状と課題について理解する。

日本パラスポーツ協会資格認定制度や支援体制について：

障害者のスポーツに関わるために障害者のスポーツ推進に関わる人が取得する資格認定制度や支援体制について、理解する。また近年の事務局体制の整備に関する動向についても、考える。

第9回：知的障害を知る1：

知的障害者の特性と世界大会：知的障害とは何かを学び、障害の特性を学ぶ。また、知的障害者が出場する参加型の世界大会、競技型の世界大会について理解する。また、最小障害の障害程度の選手に対し、国際パラリンピック委員会などが行う支援についても触れる。

第10回：知的障害を知る2：

知的障害者への指導法（履修者数にもよるが、演習を予定） 知的障害のある選手を講義にお招きし、実際に知的障害者に対する指導法を学ぶ。障害者に対するスポーツ指導を経験するだけでなく、障害者に指導される経験も積む。

第11回：精神障害とスポーツ1：

精神障害の特性：精神障害とは何か、障害の特性と精神疾患の関係性について理解する。また、精神障害と身体障害、知的障害との違いは何か。加えて、精神障害者がスポーツ活動を行う上での支援体制はどのようなものかについて理解する。

第12回：精神障害者とスポーツ2：

精神障害者のスポーツと大会 精神障害者のスポーツは、身体障害、知的障害のものと比較し、約60年ほど遅れている。精神障害者の国際大会開催に至った経緯と、現在の精神障害者スポーツの現状と課題を、我が国の発展も踏まえ、考える。

第13回：講義のまとめとともに、最終課題となるレポートについて説明する。障害者のスポーツに関わるものとして必要な知識と政策、キーワードについても理解する。

定期試験

テキスト

実践で学ぶ！学生の社会貢献（田中暢子，松本 格之祐，吉田勝光，櫻井智野風，加藤知生，成文堂）

スポーツ政策研究（文部科学省）

参考書・参考資料等

参考文献や政策文書、youtubeなどで配信されているビデオについては、講義内で随時伝える。

学生に対する評価

出席確認を含む毎週の小レポート（リアクションペーパー）の内容と授業態度（30％）・・・到達目標1、2

テストと課題①障害者スポーツ形態の理解（50％）・・・到達目標1、2

テストと課題②スポーツ推進現場に必要な知識（30％）・・・到達目標1、2

テストと課題③障害受容に関する理解（20％）・・・到達目標1、2

なお、講義の知識をより深めてもらうため、課題レポート並びに演習レポートの作成により、講義内容のレビュー、文献レビュー、講義外での補講が必要となる。リアクションペーパーに対するフィードバックや疑問については、次の授業内で取り上げ、解説する。

授業科目名： スポーツ教育学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 木原 洋一
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
・スポーツ教育学について、その成立過程や学問的性格を理解する ・スポーツ教育学の研究領域（カリキュラム論・教授論・学習論）の内容を理解する ・スポーツ教育の場における教授-学習過程の分析方法を身につける			
授業の概要			
1970 年代ごろより、アメリカをはじめとして、教授を科学的に分析しようとする試みがみられるようになった。優れた教授行為に通底する原理・原則が明らかになり、教授行為の具体を科学的に示す手法が確立したことで、スポーツ教育は学問の一領域として位置づくことになった。 本科目では、スポーツ教育学の各研究領域について包括的にとりあげ解説する。			
授業計画			
第 1 回：スポーツ教育学の範囲			
第 2 回：スポーツ教育学の成立と領域			
第 3 回：スポーツ教育の教授論①：学習指導論			
第 4 回：スポーツ教育の教授論②：教材論			
第 5 回：スポーツ教育の教授論③：四大指導者行動			
第 6 回：スポーツ教育の学習論①：四大学習者行動			
第 7 回：スポーツ教育の学習論②：ALT・PE			
第 8 回：スポーツ教育の学習論③：学習形態論			
第 9 回：スポーツ教育と ESD			
第 1 0 回：プロセス-プロダクト研究—組織的授業観察法			
第 1 1 回：体育授業における反省的思考と実践的指導力			
第 1 2 回：スポーツ教育のカリキュラム論①：世界学校体育サミット			
第 1 3 回：スポーツ教育のカリキュラム論②：戦後の学校体育の歴史的変遷			
定期試験			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
高橋・岡出ほか編（2010）体育科教育学入門 新版. 大修館書店.			
学生に対する評価			
試験（75%）・リアクションペーパー（25%）			

授業科目名： スポーツマネジメント論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金森 純
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学校、地域、職場、民間、プロスポーツなどの現場で個人や組織を対象としてスポーツマネジメントが行われている中で、スポーツマネジメントの知見を元にスポーツ組織を多角的に分析し、課題解決にむけた知識や判断力を獲得することを到達目標とする。 ①スポーツマネジメントの基礎理論について説明できる。 ②スポーツマネジメントの視点からスポーツ組織について分析し、課題解決に向けた道筋を説明することができる。			
授業の概要 本講義では、スポーツならびにその周辺産業におけるマネジメント（経営や管理）について、その事例を学習し、課題解決のために必要なマネジメント知識やスキルを獲得することを目的とする。さらに、スポーツマネジメントの基礎理論を学習し、その構造や展開、特性などについて理解を深めてゆく。			
授業計画 第1回：スポーツマネジメントとは何か 第2回：スポーツイベント 第3回：プロスポーツ 第4回：メディアイベント 第5回：学校体育・スポーツ 第6回：地域スポーツ 第7回：商業スポーツ施設 第8回：スポーツとまちづくり・地域活性化 第9回：スポーツツーリズム 第10回：スポーツ政策 第11回：健康づくりとしてのスポーツ 第12回：アダプテッドスポーツ 第13回：これからのスポーツマネジメント			
テキスト 適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

スポーツマネジメント改訂版（原田宗彦・小笠原悦子編著、大修館書店）

学生に対する評価

授業毎のリアクションペーパー（50％）、期末レポート（50％）

以上をもとに総合的に評価する。

授業科目名：学校体験実習（小学校）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 谷本 直美 担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 知能・技能 1) 小学校の役割、教師の仕事を理解している。 2) 教育現場における守秘義務、取るべき行動を身につけている。 3) 児童及び保護者との対応について、適切に対応することができる。 思考・判断・表現 1) 学校における自身がかかわれる事項を発見している。 2) 教育実習に向けた解決すべき課題を発見している。 3) 学校体験を通じて、教職の適性を判断している。 主体的学び 1) 自己研鑽、探究心をもち、学校体験に取り組んでいる。 2) 学校方針、教員の指導に従い、児童への対応に真摯に取り組んでいる。 3) 学校体験実習で遵守すべき留意事項を受け入れている。			
授業の概要 教職の資質・能力に関する実践的指導力の育成に向けては、教職の基礎的知識・技能の習得にとどまらず、それらを活用する機械や探究的に学ぶ機会の充実が求められている。 本授業では、教職課程の学修をする早期の段階で学校現場において、学校行事や教師のサポート等の体験をするで、学校における実態及び教員の職務を学ぶ機会とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス：事前指導（体験校における諸注意、教育現場における心構え等） 第2回：各学校における注意事項の周知及び、守秘義務遵守すべき事項の通達 第3回：現場実習（前半）① 第4回：現場実習（前半）② 第5回：現場実習（前半）③ 第6回：現場実習（前半）④ 第7回：考察、途中経過報告、情報共有及び現段階での課題についてレポート 第8回：現場実習（後半）① 第9回：現場実習（後半）②			

第11回：現場実習（後半）③

第12回：現場実習（後半）④

第13回：現場実習を終えて、成果発表を行い、他者の課題などについて議論する。

定期試験はおこなわない。

テキスト

小・中・高 学習指導要領（本文／解説）

参考書・参考資料等

子どもと接するときにほんとうに大切なこと 出版：キノブックス

学生に対する評価

計2回提出するレポート

学校体験日誌における記載状況

最終成果発表及び議論の内容にて総合的に評価を行う

授業科目名：学校インターンシップ実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 谷本 直美
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 知能・技能 1) 学校の役割、教師の仕事を学校体験実習及び教育実習等の経験を踏まえ理解している。 2) 教育現場における課題に対しての対応策の基本的方策を理解している。 3) 生徒との対応について、学校体験実習、教育実習等の経験を踏まえ適切に対応することができる。 思考・判断・表現 1) 採用後の自己の解決すべき課題を整理している。 2) 採用後に取り組むべき職務を見据えた体験の意義をまとめている。 3) 学校インターンシップを通じて、様々な責務への適切な対応の仕方を分析している。 主体的学び 1) 自己研鑽、探究心を持ち、学校インターンシップに取り組んでいる。 2) 学校方針、教師の指導に従い、生徒への対応に柔軟に取り組んでいる。 3) 学校インターンシップで遵守すべき留意事項を受け入れている。			
授業の概要 本授業では、大学での学習成果や学校体験実習、学校ボランティアなどで得た技能などを生かす実践的指導力の確認及び、教育実習等を通して、明確となった採用後に事故に取り組むべき課題の解決に向けて、学校現場において、学校行事や教師のサポート等に積極的に取り組む中で、学校における学び続ける教員としての素養を身に着けることを狙いとする。			
授業計画 第1回：ガイダンス：事前指導（体験校における諸注意、自己課題の整理等） 第2回：学校インターンシップ（受け入れ行におけるガイダンス） 第3回：学校インターンシップ（教育補助活動） 第4回：学校インターンシップ（教育補助活動） 第5回：学校インターンシップ（教育補助活動） 第6回：学校インターンシップ（教育補助活動） 第7回：学校インターンシップ（学校担当者、大学担当者との内政と後半の活動重点の確認） 第8回：学校インターンシップ（教育補助活動）			

第9回：学校インターンシップ（教育補助活動）

第10回：学校インターンシップ（教育補助活動）

第11回：学校インターンシップ（教育補助活動）

第12回：学校インターンシップ（教育補助活動）

第13回：実習後の自己課題におけるレポート及び成果報告、活動報告を実施

定期試験はおこなわない。

テキスト

小・中・高 学習指導要領（本文／解説）

参考書・参考資料等

インターンシップ受入校に合わせ適宜指示する

学生に対する評価

活動記録や、レポート、成果報告レポートによって総合的に評価を行う。

授業科目名： 運動部活動論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大石 進
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
運動部活動の歴史、位置づけ、意義等を学び、自らが経験して来た部活動と重ね合わせ、課題を認識し、その解決に向けた実践を創造できることが最終的な目標である。具体的には、次の4つの事柄を科目の到達目標とする。 1 運動部活動の歴史、位置づけ、意義等、基本的事項を理解すること。 2 運動部活動の課題とその解決、指導・運営の在り方等を考え、表現すること。 3 運動部活動の問題に関心を持ち、課題の発見や解決に主体的に取り組むこと。 4 運動部活動の実際の運営計画を立てること。			
授業の概要			
本科目では、対面で学習を進めることを基本とする。学校における運動部活動は、その教育的意義から学校教育活動の一環として幅広く行われている。また、我が国における競技スポーツ・生涯スポーツの振興に大きな役割を果たして来た。しかし、社会の変化に伴う生徒の価値観の多様化、少子化による部員不足、指導にあたる教員の働き方改革等、運営上の課題が指摘されており、今後の動向が注目される。本授業では、運動部活動の歴史、位置づけ、意義等を学び、後半の授業では、運営計画を実際に作成する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・運動部活動の意義と考え方：「自分にとって部活動とは何か」 「学校において運動部活動を行う意味は何か」について考える中で、運動部活動の意義や意味を理解する。 第2回：教育課程と運動部活動：学習指導要領における運動部活動の位置付けについて理解する。学校教育の目的、教科保健体育、特別活動、道徳などと運動部活動の関係について理解する。 第3回：運動部活動の歴史と社会的役割：学校教育における運動部活動の位置付けやスポーツの発展に果たしてきた社会的役割等について理解する。 第4回：スポーツ振興と運動部活動：スポーツ基本法、スポーツ振興計画などスポーツ関係法規や制度から我が国のスポーツ振興について基本的な理解をした上で、運動部活動が競技スポーツ、生涯スポーツとどのように関わりを持ちどのような役割をしているかを考え、理解する。 第5回：運動部活動とスポーツ関係組織：中学校体育連盟、高等学校体育連盟、高等学校野球			

連盟など運動部活動運営組織について理解する。また、各種スポーツ関係団体と運動部活動運営組織との関係や役割について理解する。

第6回：運動部活動の現状と課題：運動部活動の指導上の課題、運営上の課題について現状とこれまでの基本的事項の理解を踏まえ整理し、現状と課題の全体を理解する。

第7回：運動部活動の課題とその解決に向けて①：体罰、ハラスメントについて理解した上で、原因や背景、どのように改善、解決すればよいかについて考える。

第8回：運動部活動の課題とその解決に向けて②：運動部活動の指導者である教員の専門性や服務などの実態について理解した上で、原因や背景、どのように改善、解決すればよいかについて考える。

第9回：運動部活動の課題とその解決に向けて③：生徒の運動部活動へのニーズの多様性や少子化による廃部などの実態について理解した上で、原因や背景、どのように改善、解決すればよいかについて考える。

第10回：運動部活動の課題とその解決に向けて④：生徒の保護者や地域との関わりについて理解した上で、課題とその原因や背景、どのように改善、解決すればよいかについて考える。

第11回：運動部活動の課題とその解決に向けて⑤：運動部活動におけるケガや事故について理解した上で、課題とその原因や背景、どのように改善、解決すればよいかについて考える。

第12回：運動部活動の課題とその解決に向けて⑥：運動部活動に関する部員の悩みや活動上の様々な問題について、事例を参考に顧問としてどのように対応するか、具体的・実践的な対応について考える。

第13回：運動部活動の運営計画を立てる：自分が運動部の顧問となった際に、どのような指導・運営を行うか考え、実際の運営計画を作成する。授業全体を通してのまとめを行う。

定期試験

テキスト

友添秀則 編著 「運動部活動の理論と実践」 (大修館書店) 定価 2,300 円＋税

参考書・参考資料等

スポーツ庁「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」令和4年12月 その他、授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

対面の授業、計13回の内3分の2以上の出席(9回以上)がない場合は、本学の規定に基づき単位を認定しない。

1 毎回の授業のワークシート (40%) 2 課題レポート (10%) 3 試験 (50%)

授業科目名： コーチング学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 廣川 充志
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
本講座は、スポーツやビジネスの世界に限らずあなた方自身の学生生活をより豊かにするであ ろう「コーチング」技能の習得を念頭に授業を展開する。対人支援の手法としてのコーチング というのは、まだまだ日本では馴染みの少ない言葉ではあるが、問題解決や目標達成には円滑 なコミュニケーションは不可欠である。実社会で活用するための基礎を学ぶ。			
授業の概要			
実際の部活動現場、野外活動やインターンシップ、就職活動はもとより、友人の相談にいたる までコーチングが有効活用されることを期待する。			
授業計画			
第1回：・ガイダンス ・全13回のコーチング学授業の流れの説明 ・注意事項			
第2回：・コーチング及びコーチング心理学とは何か ・コーチングとコーチング心理学の定義 ・ コーチングとコーチング心理学の歴史 ・コーチングと近接領域の違い ・カウンセリング・心理 療法・メンタリングなどと区別する			
第3回：・コーチング心理学のスキルとモデル ・コーチの基本的態度 ・基本的なコーチングスキル ・コーチング心理学のモデル ・聞くスキルと動かすスキルを理解する			
第4回：・コーチング心理学におけるアセスメント ・コーチング心理アセスメントの必要性 ・心理 アセスメントとは ・心理アセスメントの妥当性と信頼性 ・コーチング心理学におけるアセスメント 方法 ・行動観察法 ・面接法 ・心理検査			
第5回：・高等教育で教えるコーチング心理学 ・国内外の大学・大学院におけるコーチング・カリキ ュラムの紹介 ・授業実践 ・授業効果			
第6回：・コーチングの背景理論 ・アドラー、マズロー、ロジャースからコーチングへの歴史的な流 れ・5段階欲求説 ・人間の持っている力			
第7回：・アドラー心理学・アドラー心理学とは ・劣等感 ・ライフタスク ・ライフスタイル			
第8回：・人間性心理学 ・人間性心理学とは ・モダンな人間観から“第3勢力”人間性心理学へ			
第9回：・ポジティブ心理学 ・ポジティブ心理学とは ・ポジティブ心理学とコーチング心理学 ・ コーチング心理学の展開 ・感情的な心 ・意識的な心 ・自己焦点 ・他者焦点			
第10回：・認知行動コーチング・「認知行動」療法とコーチング ・認知行動コーチングの理論と技 法 ・問題解決法 ・認知行動コーチングの2つの立場 ・感情の問題に着目する			

第11回：・プロコーチによるコーチング・前提（契約に至るまで）・コーチの能力水準と倫理 ・コーチを「探す⇒選ぶ⇒契約する」・人はなぜコーチングを受けようと思うのかを考える

第12回：・コーチのコア・コンピテンシー ・セッション開始からコーチングの終結までのプロセス ・セッション期間 ・セッション契約の終了と継続 ・コーチの団体

第13回：・キャリア支援のコーチング ・大学生にとってのキャリア ・キャリア支援のコーチングの特徴と進め方 ・アカデミックキャリア ・就職活動の中でのキャリア ・地域社会の中でのキャリア ・実際に自分自身のキャリアに応用してみる・トップアスリートに対するコーチングの実例
定期試験は実施しない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

教師を目指す学生必携「保健体育科教育法」（大修館書店）他、適宜紹介。

学生に対する評価

毎時授業内で与えるレポート課題を総合的に評価

出席状況及び授業態度70%、毎授業で与える課題への取り組み30%を基準に総合的に評価。

授業科目名：学校体験実習（中・高）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 谷本 直美
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 知能・技能 1) 中学校・高等学校の役割、教師の仕事を理解している。 2) 教育現場における守秘義務、取るべき行動を身につけている。 3) 生徒指導の場面で、学校体験実習性として適切に対応することができる。 思考・判断・表現 1) 学校における自身がかかわれる事項を発見している。 2) 教育実習に向けた解決すべき課題を発見している。 3) 学校体験を通じて、教職の適性を判断している。 主体的学び 1) 自己研鑽、探究心をもち、学校体験に取り組んでいる。 2) 学校方針、教員の指導に従い、生徒への対応に真摯に取り組んでいる。 3) 学校体験実習で遵守すべき留意事項を受け入れている。			
授業の概要 教職の資質・能力に関する実践的指導力の育成に向けては、教職の基礎的知識・技能の習得にとどまらず、それらを活用する機械や探究的に学ぶ機会の充実が求められている。 本授業では、教職課程の学修をする早期の段階で学校現場において、学校行事や教師のサポート等の体験をするで、学校における実態及び教員の職務を学ぶ機会とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス：事前指導（体験校における諸注意、教育現場における心構え等） 第2回：各学校における注意事項の周知及び、守秘義務遵守すべき事項の通達 第3回：現場実習（前半）① 第4回：現場実習（前半）② 第5回：現場実習（前半）③ 第6回：現場実習（前半）④ 第7回：考察、途中経過報告、情報共有及び現段階での課題についてレポート 第8回：現場実習（後半）① 第9回：現場実習（後半）②			

第10回：現場実習（後半）③

第11回：現場実習（後半）④

第12回：現場実習（後半）⑤

第13回：現場実習を終えて、成果発表を行い、他者の課題などについて議論する。

定期試験はおこなわない。

テキスト

小・中・高 学習指導要領（本文／解説）

参考書・参考資料等

適宜配布する

学生に対する評価

計2回提出するレポート

学校体験日誌における記載状況

最終成果発表及び議論の内容にて総合的に評価を行う

授業科目名： 道徳教育指導論（初等を含む）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 矢作信行
				担当形態： 単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小・中） 大学が独自に設定する科目（高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		道徳の理論及び指導法（小・中）		
授業のテーマ及び到達目標				
1 小・中学校における道徳教育の意義及びその具体について理解する。（主に小学校を扱う） 2 「特別の教科 道徳」の目標を理解し、その内容について、具体的な授業の在り方を理解する。 3 演習を通して簡単な教材吟味や指導案の作成の仕方を理解する。 4 道徳教育についての自分考えを、根拠を明らかにして論じることができる。				
授業の概要				
1 次の点を重点に授業を実施する。第一は、子供を取り巻く社会的な変化への対応。第二は、子供たちの価値意識や行動様式の変化への対応。第三に「特別の教科 道徳」の設置を中核とする道徳教育の抜本的・充実への対応である。 2 実際の学校教育における指導方法（指導案の作成・模擬授業）について習得する。				
授業計画				
第 1 回：社会における道徳の存在意義と道徳の教科化①道徳とは何か ②教育と道徳教育が直面する諸課題 ③道徳の教科化にいたる経緯について				
第 2 回：道徳の教科化とこれからの道徳教育 ①変化する道徳規範と新しい道徳教育の理論的基盤 ②現代社会に求められる道徳授業の在り方（学修指導要領の概要の理解）				
第 3 回：子どもの道徳規範の発達 ①「道徳の内容」を支える道徳理論 ②小・中学校における内容項目の重点化				
第 4 回：道徳科の内容と道徳理論①子どもの日常生活における道徳的諸問題 ②道徳教育の歴史 ③外国の道徳教育				
第 5 回：道徳科の指導計画 ①道徳の授業展開 ②小・中連携によって取り組む道徳授業の活性化				
第 6 回：道徳科の指導計画 ①中学校における道徳全体計画 ②指導計画の実際 ③指導計画作成演習				
第 7 回：「道徳科」の指導 ①道徳性の発達段階と道徳科の授業づくり ②アクティブラーニングとしての道徳の学び				
第 8 回：「道徳科」の指導 ①多面的・多角的に議論を深める問題解決的な学習 ②主体的・対話的で深い学びを追究する授業展開				
第 9 回：教育活動全体を通じて行う道徳教育 ①総合道徳プロジェクトによる道徳教育活動 ② スクールマネジメントプラン ③カリキュラムマネジメントプラン				
第 10 回：教育活動の全体を通じて行う道徳教育 ①学年プロジェクトプラン ②地域との連携による道徳教育 ③体験的な学習を生かす道徳授業 ④他教科との連携による道徳授業の実際 ⑤ICT を活用した道徳教育				
第 11 回：道徳科授業の実際 1 ①教材分析の仕方 ②価値分析の仕方 ③多様な思考形態による学習指導過程 ④道徳授業の構成の仕方 ⑤学習指導案作成の仕方				
第 12 回：道徳科授業の実際 2 ①板書計画の作成 ②板書を中心とした模擬授業				
第 13 回：道徳科の評価と学習のまとめ ①成長を促す評価の在り方 ②これからの道徳教育の展望				
定期試験				

テキスト

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年度）解説 特別の教科 道徳編 平成30年
教育出版

参考書・参考資料等

押谷由夫編著「小学校教育課程実践講座 特別の教科道徳」2018 株式会社 ギョウセイ
渡邊満 山口圭介・山口意友編著「新教科「道徳」の理論と実践」2017 玉川大学出版部

学生に対する評価

定期試験50% 授業中の課題レポート30% 学習への参加態度（グループによるワークシ
ョップ）20%とする。

授業科目名： 道徳教育指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 矢作信行
				担当形態： 単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目（小・中） 大学が独自に設定する科目（高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		道徳の理論及び指導法（小・中）		
授業のテーマ及び到達目標				
1 小・中学校における道徳教育の意義及びその具体について理解する。（主に中学校を扱う）2 「特別の教科 道徳」の目標を理解し、その内容について、具体的な授業の在り方を理解する。3 演習を通して簡単な教材吟味や指導案の作成の仕方を理解する。4 道徳教育についての自分考えを、根拠を明らかにして論じることができる。				
授業の概要				
1 次の点を重点に授業を実施する。第一は、子供を取り巻く社会的な変化への対応。第二は、子供たちの価値意識や行動様式の変化への対応。第三に「特別の教科 道徳」の設置を中核とする道徳教育の抜本的・充実への対応である。2 実際の学校教育における指導方法（指導案の作成・模擬授業）について習得する。				
授業計画				
第 1 回：社会における道徳の存在意義と道徳の教科化①道徳とは何か ②教育と道徳教育が直面する諸課題 ③道徳の教科化にいたる経緯について				
第 2 回：道徳の教科化とこれからの道徳教育 ①変化する道徳規範と新しい道徳教育の理論的基盤 ②現代社会に求められる道徳授業の在り方（学修指導要領の概要の理解）				
第 3 回：子どもの道徳規範の発達 ①「道徳の内容」を支える道徳理論 ②小・中学校における内容項目の重点化				
第 4 回：道徳科の内容と道徳理論①子どもの日常生活における道徳的諸問題 ②道徳教育の歴史 ③外国の道徳教育				
第5 回：道徳科の指導計画 ①道徳の授業展開 ②小・中連携によって取り組む道徳授業の活性化				
第6 回：道徳科の指導計画 ①中学校における道徳全体計画 ②指導計画の実際 ③指導計画作成演習				
第7 回：「道徳科」の指導 ①道徳性の発達段階と道徳科の授業づくり ②アクティブラーニングとしての道徳の学び				
第8 回：「道徳科」の指導 ①多面的・多角的に議論を深める問題解決的な学習 ②主体的・対話的で深い学びを追究する授業展開				
第9 回：教育活動全体を通じて行う道徳教育 ①総合道徳プロジェクトによる道徳教育活動 ②スクールマネジメントプラン ③カリキュラムマネジメントプラン				
第10 回：教育活動の全体を通じて行う道徳教育 ①学年プロジェクトプラン ②地域との連携による道徳教育 ③体験的な学習を生かす道徳授業 ④他教科との連携による道徳授業の実際 ⑤ICTを活用した道徳教育				
第11 回：道徳科授業の実際 1 ①教材分析の仕方 ②価値分析の仕方 ③多様な思考形態による学習指導過程 ④道徳授業の構成の仕方 ⑤学習指導案作成の仕方				
第12 回：道徳科授業の実際 2 ①板書計画の作成 ②板書を中心とした模擬授業				
第13 回：道徳科の評価と学習のまとめ ①成長を促す評価の在り方 ②これからの道徳教育の展望				
定期試験				

テキスト 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年度）解説 特別の教科 道徳編 平成30年教育出版 参考書・参考資料等 押谷由夫編著「中学校教育課程実践講座 特別の教科道徳」2018 株式会社 ぎょうせい 渡邊満 山口圭介・山口意友編著「新教科「道徳」の理論と実践」2017 玉川大学出版部 学生に対する評価 定期試験50% 授業中の課題レポート30% 学習への参加態度（グループによるワークショップ）20%とする。
--

授業科目名：法学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 秋山 栄一
				担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標				
「物事を批判的に捉えて問題を発見する力」、「他者の意見や考えに耳を傾けるとともに、自らの意見や考えを表現し、伝える力」、「長期的な展望をもって将来の人生を思い描き、その実現のために必要とされる物事を理解」できるための知識・能力の一部として、基礎的な法の知識を得るとともに、教職課程に必要な法学の知識を身につける。このため次の点が到達目標となる。				
1. 法の役割を理解できていること。				
2. 上記1を前提に、自分の理解と意見を他者に示せること。				
3. 資料や文献を調べ、理解して、各回の課題を作成・提出できること。				
授業の概要				
基礎的な法の知識を身につけることにより「物事を批判的に捉えて問題を発見する力」をつけ、「長期的な展望をもって将来の人生を思い描き、その実現のために必要とされる物事を理解」することを、課題の作成や検討を通じて「他者の意見や考えに耳を傾けるとともに、自らの意見や考えを表現し、伝える力」をつけることを目的とする。				
授業計画				
第1回：ガイダンス（法学とは）				
第2回：はじめに―法学に対するイメージと特徴・性格				
第3回：法学とは―社会科学としての法学				
第4回：法の学び方				
第5回：法の仕組				
第6回：憲法の基礎①―基本原理、統治機構				
第7回：憲法の基礎②―基本的人権（1）				
第8回：憲法の基礎③―基本的人権（2）				
第9回：法の解釈―刑法を手掛かりに				
第10回：裁判の仕組①―刑事裁判を中心に				
第11回：裁判の仕組②―特に裁判員制度				
第12回：犯罪と法				
第13回：法的問題を考える―私たちの常識と法的判断について、犯罪現象を手掛かりに				

定期試験を実施する
テキスト
『エッセンシャル法学（第7版）』（成文堂・2019）
参考書・参考資料等
授業内で適宜紹介します。
学生に対する評価
各回の授業課題70%、期末試験30%。

授業科目名： 英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 憲二
			担当形態： クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、これから英語の学習を進めていくうえで必要な、最も基礎的な英会話能力を身につけることを目的とする。このコースで扱うテーマは以下の通り：自己紹介、挨拶、英語学習法、日々の活動、衣服・ショッピング、ライフスタイル、外見や人格の描写、過去の出来事、健康、飲食物、道案内、物の描写、未来。授業のテーマは、外国人との日常会話を英語で行うことである。			
授業の概要			
学生は、様々なトピック・話題に関する基礎的な英単語、英語表現を学んでいくとともに、実際のコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法と発音の仕方を学んでいく。 また、英語圏の国々の文化、習慣についても学ぶ。授業中使用される言語は英語のみである。学生は、授業中に行われるペアワーク、グループワークなどの活動への積極的積極的参加が求められる。			
授業計画			
第1回：自己紹介、挨拶、疑問文の作り方			
第2回：好き嫌い、教室で使用する英語、英語学習法			
第3回：時間の表現、スケジュール、過去形、会話の続け方			
第4回：衣服、ファッション、ショッピング			
第5回：趣味の活動、頻度の副詞			
第6回：復習、中間考査			
第7回：外見、人柄、身体			
第8回：感情、健康			
第9回：飲食物、同意と異議、レストラン			
第10回：場所の描写、道案内			
第11回：物の描写、利用目的、贈物			
第12回：未来、夢、推測			
第13回：総復習、最終考査、まとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト			

大学作成の全学共通テキストを使用する（必要に応じて補足プリントを配布する）。

参考書・参考資料等

適宜指定する

学生に対する評価

単位取得には全13回中10回以上出席を必須とし、それを満たさない者は試験を受けることができない。

以下の基準で成績判定する：

考査テスト 90%

オーラル能力＋授業態度 10%

授業科目名：データコミュニケーション入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 溝口 侑
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、初年次の必修科目として、大学やその先の社会で活躍するために必須となる資質・能力を、学生同士の協働的な学びを通して、身につけることを目的とした科目である。本学のユニバーシティ・ポリシーに定める「人生と学びの基盤となる力」を身につけるための素地を養う。本科目では、データサイエンスやAIについての基礎的な知識について学ぶと同時に、データ分析・解釈の技能を学び、データを活用した説得的なコミュニケーションができるようになることを目指す。			
具体的には、次の3つの事柄を科目の到達目標とする。			
1. データサイエンス・AIに関する基礎的な知識について理解をすること 2. 基本的なデータの収集・分析・解釈をできるようになること 3. データを活用したコミュニケーションができるようになること			
授業の概要			
本科目は、Society 5.0を生き抜くために求められるデータサイエンスやAIについての基礎的な知識を身につけるとともに、それらの知識を用いて議論や提案ができるようになることを目指す。学んだ知識と身近な事象を結びつけて考えることで、データを活用することの意義を触れるとともに、実際に自分でデータを分析・解釈する活動を通して、データを用いて新たな価値を生み出すことの楽しさに気づくことを期待する。授業では、講義に加えて、Excelでのデータ分析演習やPower Pointを用いた資料作成を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、データサイエンスとAIの基礎知識①（この授業で学習すること、【キーワード】第4次産業革命/Society5.0/知識集約型社会/データ駆動型社会）			
第2回：データサイエンスとAIの基礎知識②（【キーワード】AI、機械学習、AIの発展の歴史、ニューラルネットワークとディープラーニング）			
第3回：データサイエンスとAIの基礎知識③（【キーワード】データ、サンプリング、データの所有者、ビッグデータ、相関関係と因果関係、母集団と標本）			
第4回：データ分析演習①（Excelの使い方）			
第5回：データ分析演習②（単変量：平均値、分散などの算出の仕方）			
第6回：データ分析演習③（二変量：クロス集計、相関係数の算出の仕方）			

第7回：データ分析演習④（データの視覚化）

第8回：データ分析演習⑤（総合演習）

第9回：データサイエンス・AIの活用事例①（【キーワード】データサイエンティスト）

第10回：データサイエンス・AIの活用事例②（実際の活用事例についてJMOOCを活用した学習）

第11回：データサイエンス・AIの活用事例③（【キーワード】データ分析のプロセス、AIとの共存）

第12回：まとめ・個人情報と倫理の問題①（【キーワード】仮説検証PDCAサイクル、情報倫理、AI社会原則）

第13回：まとめ・個人情報と倫理の問題②（【キーワード】個人情報の保護、個人情報の流出）

定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

特に指定しない。必要に応じて授業の中で資料を紹介および配布する。

学生に対する評価

毎回のふりかえりと以下の4つの課題の総合点で評価を行う。

リフレクションシート（15%）・・・到達目標1

チェッククイズ（15%）・・・到達目標1

課題①Excelを用いたデータ分析演習（25%）・・・到達目標2、3

課題②レポート（25%）・・・到達目標1、2、3

※ループリック等の評価基準は、別途授業中に示す。

中間テスト（20%）・・・到達目標1、2

※授業の進度を鑑みて、中盤に行う。具体的な日付は授業内で指示する。

授業科目名：桐蔭スキル ゲート	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 溝口 侑 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、初年次の必修科目として、大学やその先の社会で活躍するために必須となる資質・能力を、自律的に学ぶことを通して、身につけることを目的とした科目である。本学のユニバーシティ・ポリシーに定める「人生と学びの基盤となる力」を身につけるための素地を養う。自律的に課題に取り組む学習習慣を確立し、大学での学習に必要な資質・能力を身につけるとともに、自らの学びを他者に説明できるようになることが最終的な目標である。具体的には、次の4つの事柄を科目の到達目標とする。 1. 計画的に学びに向かう態度を身につけること 2. 文書・資料の作成を行うための技術とアプリケーションの操作方法を身につけること 3. 情報検索の技術とメディア情報に関するリテラシーを理解すること 4. 自らの学びを他者に説明できるようになること			
授業の概要			
本科目は教材動画と資料をもとに課題に取り組む形式で学習を進める。そのため、自ら学習を計画し、課題に取り組むことが求められる。大学生活に留まらず社会人として身につけるべき、文書・資料作成の技術とMicrosoft officeソフトの操作方法、プレゼンテーションの作法、メディア情報リテラシーについて学ぶ。また、大学生は大学での学びを通して「何を学び、何を身に付けることができたか」を自ら説明することが求められている。授業の後半では、自分の学びを説明するためのショーケース型ポートフォリオの作成を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（この授業で学ぶこと、大学で学ぶことについて理解する）			
第2回：大学生活に必要なスキルを学ぶ（Gmailの使い方、パソコンの基本操作と資料の整理の仕方を身につける）			
第3回：情報の扱いを学ぶ（1）（図書館の利用の仕方を学ぶ、Wordの演習①文書スタイルなど）			
第4回：情報の扱い方を学ぶ（2）（メディア情報リテラシーを学ぶ、Wordの演習②文書レイアウトなど）			
第5回：レポートを書く（パラグラフライティング、引用と剽窃を学ぶ、Wordの演習③段落、フォントなど）			
第6回：中間まとめ（ここまでの大学生活をふりかえる、現代社会で求められることを理解する）			

第7回：プレゼンテーションをする（1）（Power Pointの演習①スライドマスターなど） 第8回：プレゼンテーションをする（2）（発表の基本的な態度を理解する、Power Pointの演習②デザインの原則など） 第9回：プレゼンテーションをする（3）（動画を収録する） 第10回：情報を整理・分析する（1）（Excelの演習①入力の基本、参照など） 第11回：情報を整理・分析する（2）（Excelの演習②基本の関数など） 第12回：情報を整理・分析する（3）（Excelの演習③グラフの作成など） 第13回：ショーケース型ポートフォリオの作成 （自分の学びを説明する準備をする、Power Point演習③他のOfficeソフトとの連携など） 定期試験
テキスト 特に指定しない。
参考書・参考資料等 特に指定しない。必要に応じて授業の中で資料を紹介および配布する。
学生に対する評価 毎回のふりかえりと6つの課題で評価を行う。 オンデマンド授業であるため、授業ごとのふりかえりの提出を出席の代わりとする。提出回数が3分の2に満たない場合には、本学の規定に基づき単位を認定しない。 毎週のふりかえりの内容（20%）・・・到達目標1、4 課題①メールソフトの使い方（10%）・・・到達目標2、3 課題②～④Officeソフトを用いた演習（50%）・・・到達目標2、3 課題⑥ショーケース型ポートフォリオ（20%）・・・到達目標4 ※ルーブリック等の評価基準は、別途授業中に示す。

授業科目名： 教育原理・教育課程論 (初等を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川妻 篤史 長濱 博文、茂野 賢治 担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、教員を目指す学生が教育原理及び教育課程論の論点を理解し、今後の教職課程の全体像を把握する基礎を獲得することが本科目の位置づけとなる。特に、以下のポイントが科目の位置づけとなる。（１）教育原理、教育課程論の理解を通して、これから学ぶ教職科目を体系化し、教育実習といった教育実践に繋げる事、（２）教育原理で扱う基本的な日本の教職を特徴づける項目について確認し、公教育の在り方を理解する事、（３）子どもの学習経験の在り方を探究し、実践となる教育現場においても活用できるものとする事。			
授業の概要			
学校教員を志す者は「誰が、何のために、どのように教育をするのか？」という問いに對して、より良い自分なりの信念と回答を問い続けなければならない。この学びの姿勢を獲得することが、この科目の究極的な目標である。これは、本学のユニバーシティ・ポリシーでもある「人生と学びの基盤となる力」を自分なりに探究し、考動力、複眼的思考力、リーダーシップ、探究力を向上させる講義を目指す。個々人の発達段階を理解できる教師を目指す上で求められるが、その中でも自分の得意となる分野を見出し、自分の教師力を底上げすることが求められる。また将来、必ずしも教員になる希望をもっていない学生でも、次世代への文化の継承行為である教育について考察することは、きわめて重要かつ有用である。			
この講義では教育の歴史や思想、これまでの学校の営みの変遷について取り扱う。教育原理、教育課程論の基本的な学問的理解を深めるとともに、教育全般についてあらゆる多角的な観点から考察することができるよう、現代の教育に多大な影響を与えた人物の思想も踏まえて、教育的行為が現代の姿になるプロセスを理解し、今後どのように発展したらよいのか、そして、その発展にどのように貢献できるかについて考察することが求められる。			
授業計画			
第1回：本講義の概説：教育原理とは（基本的概念、歴史、思想）（担当：茂野賢治）			
第2回：教育制度のパラダイムシフト：近代教育制度の歴史と現代の教育課題（グローバル化に伴う社会変動、多様な社会的ニーズ、いじめ、虐待）（担当：茂野賢治）			
第3回：教育成立の諸背景と関係性（学校、地域、価値観、文化、伝統）（担当：茂野賢治）			
第4回：教育の本質および目標：キー・コンピテンシーの育成を目指す教育課程（担当：長濱博			

文)

第5回：教育哲学・教育思想（古代～現代）（担当：茂野賢治）

第6回：学校教育・家庭教育・学校外教育（ノン・フォーマル教育）・社会教育の役割および関係性（担当：茂野賢治）

第7回：①教育原理総括（担当：茂野賢治）

②教育課程とカリキュラムの概念について：子ども達をどのように捉えるか

- ・学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的
- ・学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景
- ・教育課程が社会において果たしている役割や機能
- ・教育課程編成の基本原理

第8回：カリキュラム概念の変遷と類型：これからの教育に求められる学びと関わり（担当：茂野賢治）

- ・学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性
- ・カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価

第9回：教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法（担当：茂野賢治）

- ・教科・領域を横断した教育内容の選択・配列
- ・学校、地域の実態に応じた教育課程の編成方法

第10回：教育内容の教科化と教科間連携：フィリピン価値教育を事例に（担当：長濱博文）

第11回：学習指導要領の性格と位置付け、記述の在り方と留意点（担当：茂野賢治）

第12回：中央教育審議会答申と教育課程・学習指導要領の形成と影響（担当：茂野賢治）

第13回：カリキュラムマネジメントの実際～桐蔭学園を事例に～（担当：川妻篤史）

定期試験

テキスト

吉田武男監修 滝沢和彦編 『教育学原論』 ミネルヴァ書房（2018年）、『小学校学習指導要領解説 総則編』 文部科学省（東洋館出版社）

参考書・参考資料等 元兼正浩『教育法規エッセンス—教職を志す人のために—』 花書院（2018年）、山崎保寿・黒羽正見『教育課程の理論と実践』 学陽書房（2008年）

学生に対する評価

講義内でのワークやディスカッションへの積極的・協調的参加（30%）、毎回の課題レポートの提出や小テスト（30%）、及び定期試験（40%）を総合的に評価する。

授業科目名： 教師論（初等を含む）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤豊
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。				
授業の概要				
教師論では、まず、教師になるための教育の意義や教員の職務内容等を取り上げる。教師として身につけておくべき資質や能力(服務、授業、学級経営、部活動運営等)について理解する。さらに、教育課程の意義、基本原則及び教科、教科間、家庭・地域連携等のカリキュラム・マネジメントを考えることを通して学習指導要領の性格や重要性の理解を図れるようにする。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
教師とはなにか。公教育の目的、教員の一日の仕事、教員免許と採用試験。				
第2回：教職の職業的特徴				
世界の授業に見る教師の役割と教育観の違い。				
第3回：我が国の学校と教員				
データに見る教員の実際。今日的な教育課題と教師が果たす役割。				
第4回：教師を目指すには				
教職をなぜ目指すのか。職業の比較からみた教職の良さとはなにか。				
第5回：教師に求められる資質・能力とは①				
学び続ける教員象(使命感、専門的な知識・技能総合的な人間力)について考える。				
職能のライフステージごとの到達目標と、教師前段階で身に付けたい資質・能力				
第6回：授業づくりと教師の仕事①				
良い授業の構造とは何か。学校教育目標から見たカリキュラム・マネジメント				
授業を観察する視点を知る				
第7回：授業づくりと教師の仕事②				
実際の授業映像から、組織的観察法による授業記録を通して意見交換をする。				
第8回：学級（ホームルーム）担任の仕事とチーム学校への対応				
学級の機能の理解、保護者対応の事例を通して学級経営を考える。				

第9回：クラブ活動、体育的行事とチーム学校への対応

外部指導者との連携、ライフワークバランスを踏まえた持続可能な指導の仕方を検討する。

第10回：特別な指導・支援を要する生徒への対応とチーム学校への対応

現代における特別支援の方策の変化や具体的な事例の理解

第11回：学校における個別課題への対応とチーム学校

授業、課外活動、公務分掌、クラス経営等における対応の仕方をまとめる。

第12回 教師になるために①

4年間で展望する(学校インターンシップ、介護等体験、教育実習等)。

第13回 教師になるために②

教員採用試験の実際(一般教養、教職教養)を展望する。

教師になるために、4年間の道筋と取り組みの重点について自身の考えを発表する。

定期試験を実施する

テキスト

授業用資料は、毎時テーマに応じて作成し、桐蔭ユニパよりダウンロードする

参考書・参考資料等

文部科学省

平成29年告示 小学校学習指導要領解説 総則編 (文部科学省、2018)

平成29年告示 中学校学習指導要領解説 総則編 (文部科学省著、2018)

平成29年告示 高等学校学習指導要領解説 総則編、(文部科学省著、2019)

学生に対する評価

テスト40%、レポートによる思考力・判断力・表現力等30%、毎時の学習カードによる情意的領域評価30%

授業科目名： 教育社会論（初等 および学校安全を 含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山口晶子 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①教育社会学の基本的な概念を学び、教育と社会変化との関わりを理解すること			
②学校のみならず、家庭や地域が子どもの教育に果たす重要性を理解し、学校と家庭や地域と の連携のあり方について検討できること			
③近年の教育政策や教育改革の動向を検討する力を身につけること			
④公教育制度の意義・原理・構造を理解し、教育制度をめぐる諸課題を検討できること			
授業の概要			
本授業では、社会の変化と子どもたちの教育や生活環境との関連を理解するべく、教育社会学 的な観点から近年の教育的諸課題を検討する。また、これらの課題に対応するための教育政策 の動向を押さえていくとともに、制度面での課題も検討し、これからの社会がめざすべき教育 のありようを議論していく。とりわけ、子どもが生まれてから育っていく環境である家庭や地 域社会の果たす役割と抱える課題に着目し、学校と地域との連携・協働の必要性を理解してい く。授業方法は講義形式を中心とするが、事前課題を含む個人ワークならびにそれを踏まえた グループディスカッションを実施し、多様な情報の共有と多面的検討を行う。授業内では統計 データや新聞記事を中心として資料を提示し、現状の客観的理解を試みる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、教育社会学とはどのような学問なのか			
第2回：教育制度(1) 公教育制度の意義・理念・原理、学校の制度、法規			
第3回：教育制度(2) 義務教育の行政制度と課題、日本における外国人労働者の子どもたち			
第4回：近年の学校の変化、子どもの生活と家族、地域社会の関わりや連携、諸外国の教育事 情			
第5回：家庭教育の現状と課題、教育政策の動向			
第6回：子どもの貧困問題(1) データによる実態把握			
第7回：子どもの貧困問題(2) 教育格差と高等教育における奨学金制度の課題			
第8回：学校経営のあり方、学校評価、学校と家庭や地域との連携・協働、開かれた学校づく り			
第9回：学校経営の仕組みと方法、学校経営の基礎理論			
第10回：不登校児童・生徒の抱える課題と教育制度、いじめ問題の課題と対策、各部署との 連携			
第11回：情報社会における子どもたち(1) ネットいじめ			
第12回：情報社会における子どもたち(2) 子どもとスマホの関わり方（グループディスカッ ション）			
第13回：学校安全の現状とこれから 危機管理や事故対応、安全上の課題			
定期試験を実施する			
テキスト			
テキストは使用しない。プリント資料を紙と LMS 上で配布する。			
参考書・参考資料等			
『現場で使える教育社会学 教職のための「教育格差入門」』（中村高康・松岡亮二編著、ミ ネルヴァ書房）			

『日本の教育を捉える一現状と展望』（望月重信・播本秀史・岡明秀忠・石井久雄編著、学文社）

『共に創り出す公教育へー社会知性を身につけた教師としてー』（嶺井正也・森田司郎・福山文子編著、八千代出版）

『未来を創る教育制度論【新版】』（川口洋誉・古里貴士・中山弘之編著、北樹出版）

学生に対する評価

定期試験 50%、毎時間の課題と予習課題の評価 40%、ディスカッションやワークへの積極的参加 10%

それぞれ到達目標に照らして、総合的に評価を行う。

授業科目名： 教育心理学（初等を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 亀岡 聖朗
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。			
授業の概要			
教師が学校現場で児童生徒と接する際には、児童生徒が今現在、発達のどのような状況にあり、心身の状態は如何なるものかに配慮しながらかわることが求められる。そこで本授業では、教育活動を行ううえで必要となる正しい心理学的知識を習得することを学習目標とする。 授業では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえ、人の発達、学習、適応、教授の各過程について取り上げる。教育活動に必要な心理学の基本的知識、学校環境の理解・集団での教育活動・個別の教育活動を支援するために必要な心理学的知識、児童生徒への教育成果やその到達度を評価する方法、障害や心の問題に向き合う際の基本的知識の修得を目指す。さらに現在では、様々な障害を抱える児童生徒をどのように受け入れ教育するかが、教育現場の大きな課題となっている。そのような課題に応えるため、教師には教育臨床心理学的な知識の修得も目指す。 授業は講義形式だけではなく、テーマによって演習を取り入れ、学生の授業参加を促し主体的に学びを深めるアクティブ・ラーニング型の授業形式を用いる。模擬的な教育教授活動の実習を行いながら教育活動についての心理的理解を深める。毎回授業課題を提示し、次の授業回で学生にフィードバックする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 教育心理学の概説			
教育心理学で取り扱う内容（発達・学習・適応・教授）について取り上げる。教育を行ううえで専門的に確立された方法が必要であることを理解する。			
第2回：人生初期の発達①～生涯発達の視点からみた人間発達の特徴について			
児童生徒は発達途上にある存在である。現在では、生涯発達の視点から発達を捉えることを説明したうえで、人の発達を規定する要因、発達の共通性、言語発達、愛着形成を基盤とした社会性発達の芽生えについて取り上げる。発達の過程が何に影響され、どのような法則に従うのかを理解する。			
第3回：人生初期の発達②～認知発達の過程を中心として			
運動発達、認知発達の過程と各時期の特徴、発達の最近接領域について取り上げる。発達には人に共通する過程があり、また、周囲からはたらきかけにより影響されることを理解する。			
第4回：青年期の発達①～青年期の心身の発達の特徴について			
「疾風怒濤の時代」とも表現される青年期を迎える心身の特徴について取り上げる。さら			

に、著しい変化を見せる青年期の適応不適応の問題も取り上げ、感情と欲求、欲求不満と葛藤、防衛機制の点から適応のメカニズムを理解する。また、適応が叶わなくなった際の精神的問題（うつ、摂食障害など）について理解する。

第5回：青年期の発達②～青年期の発達課題を中心に

青年期の発達課題として、アイデンティティの獲得および拡散の考え方、道徳性の発達について取り上げる。自己をどのように理解、受容していくかについてその過程を理解する。

第6回：障害の理解

発達障害の種類や特徴、学級内で障害を抱えた児童生徒への理解と対応について取り上げる。発達障害をどのように理解し受容するのかを理解し、学内外の関係機関との他職種連携についても学ぶ。

第7回：さまざまな学習理論～学習の基本的なしくみと教授技法について

学習の連合理論と認知理論に基づく学習のしくみ、授業における学習指導の理論（教授技法）の種類と特徴について取り上げる。教育の基盤となる人の学習過程の基礎的な心理学的知識や、学習内容の体系化の観点から、効果的な学習内容の提示方法について理解する。

第8回：学習の規定因①～学習の規定因としての動機づけについて

学習を規定する要因としての動機づけ理論、動機づけ向上に必要な事項について取り上げる。教育における学習者の動機づけの重要性を理解し、それを高めるための理論と方法について学ぶ。

第9回：学習の規定因②～学習の規定因としての記憶について

学習を規定する要因としての記憶のしくみ、忘却の要因、覚えるための工夫のいくつかについて取り上げる。記憶に関する知識を教育教授活動でどのように利用していくかを学ぶ。

第10回：学習の規定因③～学習の規定因としての知能・パーソナリティの捉え方について

学習を規定する要因としての個人差を反映する知能とパーソナリティの理論、それぞれの形成要因について取り上げる。個人差をどのように理解し、効果的に促進するかを学ぶ。

第11回：学級集団と児童生徒の心理

学級成員間の繋がりからみた学級集団の理解、学級が抱える諸問題（いじめ、不登校など）、児童生徒個人が抱える生活上の諸問題（経済的貧困、異文化適応など）、教師のリーダーシップなどについて取り上げる。児童生徒の問題行動、生活上の問題、進路上の問題を教育臨床心理学の立場から概観し、教師としての関わり方を考える。

第12回：教育評価

教育評価の目的や手法、さまざまな観点から見た評価の種類と特徴、検査法による個性（知能やパーソナリティ）の測定、学力の捉え方について取り上げる。正しい評価なくして正しい教育的介入はありえないことを理解し、どのような教育評価方法が適切かを理解する。

第13回：教授技法～授業作りや授業実施の具体例について

自らが教員となった際に備え「教える」ことをシュミレーションできるように、教える技術、伝える技術、授業作りとその留意点について取り上げる。各回の授業で学修した知識を実践にどう結び付けるのか、具体的な方法について討論する。

定期試験：学期末に定期試験を実施する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

藤田主一・齋藤雅英・宇部弘子編著「新 発達と学習の心理学」（福村出版、2013年）など、授業中に適宜紹介する。また授業では資料を配布する。

学生に対する評価

単位認定 60点以上。授業回数の2/3の出席を前提に、学年末定期試験（70%）、レポート・課題（小テスト含む）等（30%）の総合点で評価する。

授業科目名： 特別支援教育指導論 （初等を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 池田 仁
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 障害児教育の歴史的変遷と特別支援教育の理念を理解し、各障害の理解と特別な教育的ニーズの把握と教育的支援、インクルーシブな教育への在り方について理解する。①特別支援教育の理念と制度について理解する、②特殊教育から特別支援教育への歴史的変遷についてその意義を理解する、③障害のある児童生徒、特別な教育的ニーズのある児童生徒の教育課程について理解する、④各障害の発達特性とその支援について理解する、⑤障害のある児童生徒、特別な教育的ニーズのある児童生徒の生活と発達上の困難を理解し、生きる力を身につけていくための教育的支援について理解する、⑥障害のある児童生徒、特別な教育的ニーズのある児童生徒の移行支援と他職種連携に付いて理解する。			
授業の概要			
・ 学校教育における障害のある児童生徒の発達特性並びに心身の発達と特別な教育的ニーズのある児童生徒の理解を通し、特別支援教育の意義とその教育課程、支援の方法を学ぶ。具体的内容は、障害児教育の歴史的変遷と特殊教育から特別支援教育へ移行した経緯について学び特別支援教育の理念と制度について理解する。障害の種類や各障害の発達特性とその教育課程、教育的支援に関する基礎的な知識・技能について学ぶ。支援においては、支援の連携の在り方、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義について学ぶ。障害がある児童生徒だけでなく、さまざまな生活と発達に困難のある特別な教育的ニーズある多様な児童生徒の理解と支援について考える。			
授業計画			
第 1 回：特別支援教育の制度や理念、児童及び生徒の困難性ならびに発達・成長過程			
第 2 回：障害児教育の歴史			
第 3 回特別支援教育に関わる制度・幼稚園・小学校・中学校等における特別支援教育と教育課程			
第 4 回視覚障害の児童生徒の理解と支援			
第 5 回聴覚障害の児童生徒の理解と支援			
第 6 回知的障害の児童生徒の理解と支援			
第 7 回肢体不自由の児童生徒の理解と支援			
第 8 回病弱虚弱の児童生徒の理解と支援			
第 9 回発達障害の児童生徒の理解と支援(1) 学習障害、注意欠如/多動性障害			
第 10 回発達障害の児童生徒の理解と支援(2) 自閉スペクトラム症等			
第 11 回不登校・学校不適応の児童生徒の理解と支援、連携体制			
第 12 回さまざまな生活と発達に困難のある児童生徒の理解と支援、連携体制			
第 13 回特別支援教育における各ライフステージでの支援と他職種連携及び移行支援			
テキスト			
特別支援教育総論」加瀬進・高橋智（NHK 出版）978-4-595-31923-5、2,300 円			
参考書・参考資料等			
「発達障害のある子どもができることを伸ばす！思春期編」杉山登志郎・辻井正次（日東書院）、「15mの通学路」山本純士（角川文庫）、「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼小中）」文部科学省			
学生に対する評価			

・定期試験は実施しない。授業全体のうち3分の2以上への出席(13回授業では9回以上)と小テスト、課題レポートにより成績認定の前提とする。出席は授業後提出のリアクションペーパーの提出と合わせて出席とする。リアクションペーパーにより、授業を理解しているかについて評価する(30%)。小テストでは、学習の定着度を評価する(20%)。次回授業にて解答のフィードバックを行う。課題レポートにより本科目の基本的知識の理解を評価する(50%)。

授業科目名： 特別活動・総合的な 学習の時間指導法 (初等を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：濱田 由起夫 藤原 寿幸、金馬 国晴 担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 ・主体的な学習活動を通じて獲得した知識・技能を基に作成する指導計画等の資料について対話的な学びを通じて、思考力・判断力・表現力を高め、教員としての実践力を養うこと 1. 主体的に学びに向かう態度を身に付けること 2. 学習活動を通じて指導案等の資料を作成する知識・技能を身に付けること 3. 自らの意見を他者に説明することができるようになること			
授業の概要 ・学習指導要領における「特別活動」及び「総合的な学習（探究）の時間」の教育課程上の位置づけと教育的価値について理解し、具体的な学習指導計画等の資料作成を通じて、教員としての実践力を高めていく学習内容を扱っていく ・各校種の目標とその内容、また、その関連性、系統性について理解を深め、演習や協議を通して、より高い実践力につなげるものである ・学習形態としては、講義に加え、ペアやグループワークを取り入れ、互いに作成した資料についてプレゼンテーションを行い、さらにディスカッションを加え、主体的・対話的で付加学びにつなげるものとしている			
授業計画 第1回：学習指導要領の変遷と特別活動および総合的な学習の時間の目標や基本方針、必要となる資質・能力について学ぶ（担当：濱田由起夫） 第2回：教育課程における特別活動および総合的な学習の時間の学習指導要領上の位置づけと各校種の要点について学ぶ（担当：濱田由起夫） 第3回：特別活動および総合的な学習の時間の教育的意義と育てたい資質・能力について学ぶ（担当：濱田由起夫） 第4回：学級活動の目標及び内容を学び、学級活動の指導案を作成する（担当：藤原寿幸） 第5回：キャリア教育の目標と内容を学び、キャリア教育に関する指導案を作成する（担当：藤原寿幸） 第6回：児童・生徒会活動の目標及び内容について学び、課題解決に向けた指導案を作成する（担当：藤原寿幸） 第7回：学校行事の目標及び内容について学び、学校行事計画案を作成する（担当：藤原寿幸） 第8回：総合的な学習（探究）の時間の趣旨と要点について学ぶ（担当：金馬国晴） 第9回：総合的な学習（探究）の時間で育成する資質・能力及び各学校における全体計画及び年間指導計画の作成について学ぶ（担当：金馬国晴） 第10回：話し合いや集団活動の指導、家庭・地域との連携の意義（担当：金馬国晴） 第11回：年間指導計画に基づいた単元計画の作成及び学習指導案の作成について学ぶ（担当：金馬国晴） 第12回：単元計画に基づいた総合的な学習（探究）の時間の各種指導案を作成する（担当：金馬国晴） 第13回：特別活動・総合的な学習（探究）の時間における評価について学ぶ（担当：濱田由起夫） 定期試験は実施しない			

テキスト

特に使用しない

参考書・参考資料等

- ・ 小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月告示）、中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月告示）、高等学校学習指導要領 特別活動編（平成 30 年 7 月告示）、小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成 29 年 7 月告示）、中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成 29 年 9 月告示）、高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成 30 年 9 月告示）文部科学省
- ・ 授業中に適宜資料を配付する

学生に対する評価

- ・ 毎時間の振り返り・レポート（20%）本時課題への取組（20%）指導案等資料の作成（40%）資料等を基にした発表・討議（20%）

授業科目名： 教育方法論（初等を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 李 禧承
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義は教師の授業づくりに不可欠な教育方法の基礎概念・諸原理を理解し、授業実践の土台づくりのための授業である。本講義では次の2つの学習目標を設定する。（1）授業構成の「学習」「指導」「教材研究」に関する原理を理解し、授業づくりに必要な知識を習得する。（2）授業づくりのための具体的な手法として ID（Instructional Design）及び ICT 基礎理論とスキルを取得し、学習指導案を作成する。			
授業の概要			
本講義は、①授業の構成要素と学習指導の原理 ②ICT 活用に関する基礎知識 ④授業づくりの手法として ID 理論、④ICT 活用した学習指導案の作成、の4つから構成する。特に、④I Dモデルに基づく学習指導案づくりはグループ活動として実施し、授業づくりの実践的な能力を高める。さらに、教育問題についてグループで議論・発表する時間を設け、学校教育の現状理解を促す。			
授業計画			
第1回 教育方法論の学ぶ意義			
第2回 授業の構成要素と学習理論、学習評価の理解			
第3回 ALの「資質・能力」の育成に向けた ICT 活用の必要性和課題			
第4回 教員の ICT 活用指導力（情報モラルを含む）の現状と課題			
第5回 学習指導の形態の理論と実際			
第6回 学習指導案の構成要素の理解			
第7回 ID を活用した授業づくり			
第8回 ID による学習目標の設定の理論と方法			
第9回 ID による教材研究の理論と方法			
第10回 ID による授業展開の理論と方法			
第11回 ID による学習評価の理論と方法			
第12回 オンライン・オンデマンド教材の作成			
第13回 オンライン・オンデマンド教材利用の学習指導案の作成			
定期試験			
テキスト			
授業内容に応じて配布する。			
参考書・参考資料等			
『上手な教え方の教科書』（2015）向後千春 技術評論社			
『はじめて学ぶ教職 教育の方法と技術』（2019）樋口直宏編著 ミネルヴァ書房			
『教育の方法と技術』（2019）稲垣忠 北大路書房			
学生に対する評価			
1. 授業参加度（40%）			
－毎回の予習・復習課題に取り組んできたのか否か（ノート提出）；授業内グループ活動			
2. 学習指導案作成（30%）			

ーグループ作業として ID に基づく学習指導案であるか否か。

3. 確認テスト (30%) ー基本的な知識・概念が定着されているか否か。

授業科目名： ICT 活用スキルの理論と実際(初等を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤 豊
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
授業の概要 本授業では、小学校、中学校を中心とした一人一台端末を活用した授業の実践について知るとともに、本大学の桐蔭ユニバやグーグルクラスルーム等を活用して、授業者として身に付けておくべきスキルを高めていく。また、生徒の情報活用能力を高めていくうえでの有効な活用方策について、簡易な PPT 作成や ICT 活用体験を交えて学ぶ。			
授業計画 第 1 回： オリエンテーション ICT 活用とはなにか、Society5.0 社会と情報通信技術の進歩 第 2 回： 情報通信技術の活用の意義と理論① 新しい学習指導要領が求める主体的で対話的で深い学びと GIGA スクール構想を考える 第 3 回： 情報通信技術の活用の意義と理論② ICT 活用の意義(個別最適化と協働的学習) 第 4 回： 情報通信技術の活用の意義と理論③ 特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義と留意点 第 5 回： 情報通信技術の活用の意義と理論④ GIGA StuDX を活用する ICT 支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校における ICT 環境の整備の在り方 第 6 回： 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進① 様々なプラットフォームを知る(グーグル、マイクロソフト等) 第 7 回： 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進② グーグル・フォームによる情報収集とデータ処理を体験する 第 8 回： 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進③ 学習評価の実際(学習ログから成績情報を整理するには) 第 9 回： 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進④ クラウドを活用した学級経営のアイデア 第 10 回： 児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法① 情報通信技術活用の利点と危険性 第 11 回： 児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法② （レポート作成の情報モラル(よい例、悪い例から検討する)） 第 12 回： 児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法③ 体育・保健体育科の活用事例・・動画撮影と思考・判断・表現の育成 第 13 回： まとめ 情報通信技術を効果的に活用した学習指導、校務の推進の在り方、児童及び生徒の情報活用能力（情報モラルを含む。）について			

定期試験
テキスト 教育の情報化に関する手引(文部科学省，令和元年 12 月) 児童生徒の 1 人 1 台の ICT 端末を活用した体育・保健体育授業の事例集 (スポーツ庁，令和 3 年 3 月)
参考書・参考資料等 ウェーブサイト・・・StuDX Style
学生に対する評価 テスト(知識)40%、レポートによる思考力・判断力・表現力等 30%、毎時の学習カードによる情意的領域評価 30%

授業科目名： 児童生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：前田善仁
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 生徒指導の意義や原理を理解する。 ・ すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 ・ 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、教職員間の連携、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。			
授業の概要			
生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。 他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けさせることを念頭に授業を展開する。			
授業計画			
○第1回：生徒指導の意義 ○第2回：教育課程における生徒指導の位置づけ ○第3回：教育活動全体を通じた生徒指導 ○第4回：生徒指導の方法原理の二側面—個別と集団— ○第5回：生徒指導体制と教育相談体制 ○第6回：児童および生徒に対する指導のあり方 ○第7回：生徒指導への組織的な取り組み ○第8回：生活習慣や規範意識に対する生徒指導 ○第9回：子どもの自己有用感を高める生徒指導の実践 ○第10回：生徒指導の諸様相とその対応 ○第11回：生徒指導に関する法制度 ○第12回：暴力行為、いじめ、不登校等への対応 ○第13回：インターネット、性に関する課題、児童虐待への対応			
定期試験			

テキスト
・授業内容に合わせてプリントを配布する
参考書・参考資料等
・『生徒指導提要（改訂版）』 文部科学省
学生に対する評価
・定期試験(70%)と課題・レポート等(30%)によって評価する。

授業科目名： 教育相談・キャリア 教育指導論（初等を 含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 淳子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論 及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業の概要			
教育相談は、学校における教育相談の意義と理論、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性の理解すること、進路指導は、進路指導・キャリア教育の意義や原理、全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方、児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方の理解を通して、児童生徒の発達段階に応じた教育相談、進路指導について、カウンセリングの基本的技術を取り上げながら、事例検討やディスカッションを踏まえて、全体指導、個別支援、組織体制づくりの適切な対処の仕方を身に付けるようにする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、子どもの権利条約・教育相談の歴史と意義について ・学校における教育相談の意義と課題			
第2回：児童生徒の発達について			

・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念 第3回：教育相談の方法、教育相談を進める際に必要な基礎的知識 カウンセリングの基本技法Ⅰ：指示的方法・非指示的方法・折衷法 第4回：カウんでリングの基本技法Ⅱ：カウンセリングとその理論的背景、学校現場で行われている技法について 第5回：教育相談の展開 ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント ・発達障がい理解：自閉スペクトラム症、ADHD、学習障がい等について 第6回：いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談 第7回：①教育相談の総括 ・教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備、 ・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携 ②進路指導及びキャリア教育との連携 第8回：進路指導・キャリア教育の意義や原理 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携 第9回：ガイダンスとしての指導 ・キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 ・全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 第10回：カウンセリングとしての指導 ・児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題 第11回：カウンセリングとしての指導 ・キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法 第12回：カウンセリングとしての指導 ・キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法 第13回：①本講義の総括 ②最終課題 定期試験は実施しない。	
テキスト 「子育てとケアの原理」北樹出版	
参考書・参考資料等 「生徒指導と教育相談」北樹出版、「学校心理学に、もとづく教育相談」金子書房	
学生に対する評価 毎回ミニレポートを提出することで集積確認、平常点として評価する。最終課題、通常のミニ課題及び出席数と併せて総合的に評価する。	

シラバス:教職実践演習(初等を含む)		単位数：2 単位		担当教員名：谷本直美、清水由	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取 (※2)	○
受講者数 100 人 (8人×13班にグループ分け)					
教員の連携・協力体制 神奈川県立総合教育センターより派遣講義を実施する。					
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、これまで履修してきた教職課程において、以下の通り教科指導の方法・技術を振り返り、現場での解決方法などを考察し、教育についてより一層理解を深める。 ① 教職課程を振り返り、学習の成果を確認する。 ② 教育の目的や教師の役割についての理解を深める。 ③ グループ討議や模擬授業を行い自身の課題探究、現場における考察共有を行うことでより一層教育への理解を深める。					
授業の概要 ① 教職課程を履修した知識及び技術・方法などについて教職履修カルテ等を用いて振り返りを実施し、特に、現場での資質能力について深く考察できるようにする。 ② 授業形態は、ガイダンス、招聘講義を除いて能動的な学習を基本とする。プレゼンテーション、グループ討議、模擬授業等と組み合わせて実施する。また、模擬授業や事例発表を行う際はICT機器なども用いて実施する。					
授業計画 第1回：本講義のガイダンス（課題、目標、履修カルテの確認及び、今後の流れ） 第2回：教育実習の総括と、成果発表及び教育現場の課題についての議論 第3回：神奈川県立総合教育センター教員より講義 （教育現場における注意事項、教育現場の課題等講義、講義内容における課題の設定） 第4回：グループ討議準備 （教育センター及び教育実習などで得た課題、その解決方法等の発表） 第5回：グループ討議・・・①（8人×13班） 第6回：グループ討議・・・②（8人×13班） 第7回：グループ討議・・・③（8人×13班） 第8回：グループ発表 （グループ内での討議結果、課題の解決方法など発表する） 第9回：模擬授業発表・・・①（8人×13班） 第10回：模擬授業発表・・・②（8人×13班） 第11回：模擬授業発表・・・③（8人×13班） 第12回：模擬授業における課題等討議 第13回：グループ最終発表 （討議内容を記載した課題提出、現場における課題とその解決方法を記載した課題の提出する） 定期試験は実施しない					
テキスト					

特に指定しない

参考書・参考資料等

『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）

学生に対する評価

課題として設定されたレポートを評価する (50%)

グループ討議参画度: グループ討議に参画度、グループワークでの (20%)、学習指導案と模擬授業の実際を評価する。(30%)

レポート

学校体験日誌における記載状況

最終成果発表及び議論の内容にて総合的に評価を行う

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 教育原理・教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長濱 博文、茂野 賢治
			担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、教員を目指す学生が教育原理及び教育課程論の論点を理解し、今後の教職課程の全体像を把握する基礎を獲得することが本科目の位置づけとなる。特に、以下のポイントが科目の位置づけとなる。（１）教育原理、教育課程論の理解を通して、これから学ぶ教職科目を体系化し、教育実習といった教育実践に繋げる事、（２）教育原理で扱う基本的な日本の教職を特徴づける項目について確認し、公教育の在り方を理解する事、（３）子どもの学習経験の在り方を探究し、実践となる教育現場においても活用できるものとする事。			
授業の概要			
学校教員を志す者は「誰が、何のために、どのように教育をするのか？」という問いに対して、より良い自分なりの信念と回答を問い続けなければならない。この学びの姿勢を獲得することが、この科目の究極的な目標である。これは、本学のユニバーシティ・ポリシーでもある「人生と学びの基盤となる力」を自分なりに探究し、考動力、複眼的思考力、リーダーシップ、探究力を向上させる講義を目指す。個々人の発達段階を理解できる教師を目指す上で求められるが、その中でも自分の得意となる分野を見出し、自分の教師力を底上げすることが求められる。また将来、必ずしも教員になる希望をもっていない学生でも、次世代への文化の継承行為である教育について考察することは、きわめて重要かつ有用である。			
この講義では教育の歴史や思想、これまでの学校の営みの変遷について取り扱う。教育原理、教育課程論の基本的な学問的理解を深めるとともに、教育全般についてあらゆる多角的な観点から考察することができるよう、現代の教育に多大な影響を与えた人物の思想も踏まえて、教育的行為が現代の姿になるプロセスを理解し、今後どのように発展したらよいのか、そして、その発展にどのように貢献できるかについて考察することが求められる。			
授業計画			
第1回：本講義の概説：教育原理とは（基本的概念、歴史、思想）（担当：茂野賢治）			
第2回：教育制度のパラダイムシフト：近代教育制度の歴史と現代の教育課題（グローバル化に伴う社会変動、多様な社会的ニーズ、いじめ、虐待）（担当：茂野賢治）			
第3回：教育成立の諸背景と関係性（学校、地域、価値観、文化、伝統）（担当：茂野賢治）			
第4回：教育の本質および目標：キー・コンピテンシーの育成を目指す教育課程（担当：長濱博			

文)

第5回：教育哲学・教育思想（古代～現代）（担当：茂野賢治）

第6回：学校教育・家庭教育・学校外教育（ノン・フォーマル教育）・社会教育の役割および関係性（担当：茂野賢治）

第7回：①教育原理総括（担当：茂野賢治）

②教育課程とカリキュラムの概念について：子ども達をどのように捉えるか

- ・学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的
- ・学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景
- ・教育課程が社会において果たしている役割や機能
- ・教育課程編成の基本原則

第8回：カリキュラム概念の変遷と類型：これからの教育に求められる学びと関わり（担当：茂野賢治）

- ・学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性
- ・カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価

第9回：教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法（担当：茂野賢治）

- ・教科・領域を横断した教育内容の選択・配列
- ・学校、地域の実態に応じた教育課程の編成方法

第10回：教育内容の教科化と教科間連携：フィリピン価値教育を事例に（担当：長濱博文）

第11回：学習指導要領の性格と位置付け、記述の在り方と留意点（担当：茂野賢治）

第12回：中央教育審議会答申と教育課程・学習指導要領の形成と影響（担当：茂野賢治）

第13回：教育行政の仕組み、教科書検定制度の仕組み（担当：長濱博文）

定期試験

テキスト

吉田武男監修 滝沢和彦編 『教育学原論』ミネルヴァ書房（2018年）、『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省（東洋館出版社）、『高等学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省（東洋館出版社）

参考書・参考資料等 元兼正浩『教育法規エッセンス—教職を志す人のために—』花書院（2018年）、山崎保寿・黒羽正見『教育課程の理論と実践』学陽書房（2008年）

学生に対する評価

講義内でのワークやディスカッションへの積極的・協調的参加（30%）、毎回の課題レポートの提出や小テスト（30%）、及び定期試験（40%）を総合的に評価する。

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤豊
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。			
授業の概要			
教師論では、まず、教師になるための教育の意義や教員の職務内容等を取り上げる。教師として身につけておくべき資質や能力(服務、授業、学級経営、部活動運営等)について理解する。さらに、教育課程の意義、基本原則及び教科、教科間、家庭・地域連携等のカリキュラム・マネジメントを考えることを通して学習指導要領の性格や重要性の理解を図れるようにする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
教師とはなにか。公教育の目的、教員の一日の仕事を考える。			
教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障			
第2回：教職の職業的特徴			
世界の授業に見る教師の役割と教育観の違い			
他の職業との比較を通じた教職の職業的特徴の理解			
第3回：我が国の学校と教員			
データに見る教員の実際。今日的な教育課題と教師が果たす役割。			
第4回：教師を目指すには			
教職をなぜ目指すのか。職業の比較からみた教職の良さとはなにか。			
第5回：教師に求められる資質・能力とは①			
教員研修の意義及び生涯にわたって学び続ける教員象（使命感、専門的な知識・技能総合的な人間力)について考える。			
職能のライフステージごとの到達目標と、教師前段階で身に付けたい資質・能力			
第6回：授業づくりと教師の仕事①			
良い授業の構造とは何か。学校教育目標から見たカリキュラム・マネジメント			
授業を観察する視点を知る			
第7回：授業づくりと教師の仕事②			

実際の授業映像から、組織的観察法による授業記録を通して意見交換をする。

第8回：ホームルーム担任の仕事とチーム学校への対応

学級の機能の理解、保護者対応の事例を通して学級経営を考える。

第9回：運動部活動とチーム学校への対応

外部指導者との連携、ライフワークバランスを踏まえた持続可能な指導の仕方を検討する。

第10回：特別な指導・支援を要する生徒への対応とチーム学校への対応

現代における特別支援の方策の変化や具体的な事例の理解

第11回：学校における個別課題への対応とチーム学校

生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像の理解

(授業、課外活動、公務分掌、クラス経営等における対応の仕方をまとめる。)

第12回 教師になるために①

4年間で展望する(学校インターンシップ、介護等体験、教育実習等)。

第13回 教師になるために②

教員採用試験の実際(一般教養、教職教養)から教育委員会が求める教師像を考える。

教師になるために、4年間の道筋と取り組みの重点について自身の考えを発表する。

定期試験を実施する

テキスト

授業用資料は、毎時テーマに応じて作成し、桐蔭ユニパよりダウンロードする

参考書・参考資料等

文部科学省 中学校学習指導要領解説 総則編 (文部科学省, 2018)

高等学校学習指導要領解説 総則編、(文部科学省, 2019)

学生に対する評価

テスト40%、レポートによる思考力・判断力・表現力等30%、毎時の学習カードによる情意的領域評価30%

授業科目名： 教育社会論（学校安全を含む）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：山口晶子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①教育社会学の基本的な概念を学び、教育と社会変化との関わりを理解すること ②学校や家庭、地域社会など子どもの育つ環境に関わる現状と課題を理解すること ③近年の教育政策や教育改革の動向を検討する力を身につけること ④公教育制度の意義・原理・構造を理解し、教育制度をめぐる諸課題を検討できること			
授業の概要			
本授業では、社会の変化と子どもたちの教育や生活環境との関連を理解するべく、教育社会学的な観点から近年の教育的諸課題を検討する。また、これらの課題に対応するための教育政策の動向を押さえていくとともに、制度面での課題も検討し、これからの社会がめざすべき教育のありようを議論していく。とりわけ、これから複雑な社会の中で生きていく上で必要とされる資質・能力を身につけるためには、どのような教育や指導が必要なのかを考察していく。授業方法は講義形式を中心とするが、事前課題を含む個人ワークならびにそれを踏まえたグループディスカッションを実施し、多様な情報の共有と多面的検討を行う。授業内では統計データや新聞記事を中心として資料を提示し、現状の客観的理解を試みる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、教育社会学とはどのような学問なのか 第2回：教育制度(1) 公教育制度の意義・理念・原理、学校の制度、法規 第3回：教育制度(2) 義務教育の行政制度と課題、日本における外国人労働者の子どもたち 第4回：近年の学校の変化、子どもの生活と家族、地域社会の関わりや連携、諸外国の教育事情 第5回：家庭教育の現状と課題、教育政策の動向 第6回：子どもの貧困問題(1) データによる実態把握 第7回：子どもの貧困問題(2) 教育格差と高等教育における奨学金制度の課題 第8回：学校経営のあり方、学校評価、学校と家庭や地域との連携・協働、開かれた学校づくり 第9回：学校経営の仕組みと方法、学校経営の基礎理論 第10回：不登校児童・生徒の抱える課題と教育制度、いじめ問題の課題と対策、各部署との連携 第11回：情報社会における子どもたち(1) ネットいじめ 第12回：情報社会における子どもたち(2) 子どもとスマホの関わり方（グループディスカッション） 第13回：学校安全の現状とこれから 危機管理や事故対応、安全上の課題 定期試験を実施する			
テキスト			
テキストは使用しない。プリント資料を紙と LMS 上で配布する。			
参考書・参考資料等			
『現場で使える教育社会学 教職のための「教育格差入門」』（中村高康・松岡亮二編著、ミネルヴァ書房） 『日本の教育を捉える一現状と展望』（望月重信・播本秀史・岡明秀忠・石井久雄編著、学文			

社)

『共に創り出す公教育へー社会知性を身につけた教師としてー』（嶺井正也・森田司郎・福山文子編著、八千代出版）

『未来を創る教育制度論【新版】』（川口洋誉・古里貴士・中山弘之編著、北樹出版）

学生に対する評価

定期試験 50%、毎時間の課題と予習課題の評価 40%、ディスカッションやワークへの積極的参加 10%

それぞれ到達目標に照らして、総合的に評価を行う。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 亀岡 聖朗
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。			
授業の概要			
教師が学校現場で児童生徒と接する際には、児童生徒が今現在、発達のどのような状況にあり、心身の状態は如何なるものかに配慮しながらかわることが求められる。そこで本授業では、教育活動を行ううえで必要となる正しい心理学的知識を習得することを学習目標とする。 授業では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえ、人の発達、学習、適応、教授の各過程について取り上げる。教育活動に必要な心理学の基本的知識、学校環境の理解・集団での教育活動・個別の教育活動を支援するために必要な心理学的知識、児童生徒への教育成果やその到達度を評価する方法、障害や心の問題に向き合う際の基本的知識の修得を目指す。さらに現在では、様々な障害を抱える児童生徒をどのように受け入れ教育するかが、教育現場の大きな課題となっている。そのような課題に応えるため、教師には教育臨床心理学的な知識の修得も目指す。 授業は講義形式だけではなく、テーマによって演習を取り入れ、学生の授業参加を促し主体的に学びを深めるアクティブ・ラーニング型の授業形式を用いる。模擬的な教育教授活動の実習を行いながら教育活動についての心理的理解を深める。毎回授業課題を提示し、次の授業回で学生にフィードバックする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 教育心理学の概説			
教育心理学で取り扱う内容（発達・学習・適応・教授）について取り上げる。教育を行ううえで専門的に確立された方法が必要であることを理解する。			
第2回：人生初期の発達①～生涯発達の視点からみた人間発達の特徴について			
児童生徒は発達途上にある存在である。現在では、生涯発達の視点から発達を捉えることを説明したうえで、人の発達を規定する要因、発達の共通性、言語発達、愛着形成を基盤とした社会性発達の芽生えについて取り上げる。発達の過程が何に影響され、どのような法則に従うのかを理解する。			
第3回：人生初期の発達②～認知発達の過程を中心として			
運動発達、認知発達の過程と各時期の特徴、発達の最近接領域について取り上げる。発達には人に共通する過程があり、また、周囲からはたらきかけにより影響されることを理解する。			
第4回：青年期の発達①～青年期の心身の発達の特徴について			
「疾風怒濤の時代」とも表現される青年期を迎える心身の特徴について取り上げる。さら			

に、著しい変化を見せる青年期の適応不適応の問題も取り上げ、感情と欲求、欲求不満と葛藤、防衛機制の点から適応のメカニズムを理解する。また、適応が叶わなくなった際の精神的問題（うつ、摂食障害など）について理解する。

第5回：青年期の発達②～青年期の発達課題を中心に

青年期の発達課題として、アイデンティティの獲得および拡散の考え方、道徳性の発達について取り上げる。自己をどのように理解、受容していくかについてその過程を理解する。

第6回：障害の理解

発達障害の種類や特徴、学級内で障害を抱えた児童生徒への理解と対応について取り上げる。発達障害をどのように理解し受容するのかを理解し、学内外の関係機関との他職種連携についても学ぶ。

第7回：さまざまな学習理論～学習の基本的なしくみと教授技法について

学習の連合理論と認知理論に基づく学習のしくみ、授業における学習指導の理論（教授技法）の種類と特徴について取り上げる。教育の基盤となる人の学習過程の基礎的な心理学的知識や、学習内容の体系化の観点から、効果的な学習内容の提示方法について理解する。

第8回：学習の規定因①～学習の規定因としての動機づけについて

学習を規定する要因としての動機づけ理論、動機づけ向上に必要な事項について取り上げる。教育における学習者の動機づけの重要性を理解し、それを高めるための理論と方法について学ぶ。

第9回：学習の規定因②～学習の規定因としての記憶について

学習を規定する要因としての記憶のしくみ、忘却の要因、覚えるための工夫のいくつかについて取り上げる。記憶に関する知識を教育教授活動でどのように利用していくかを学ぶ。

第10回：学習の規定因③～学習の規定因としての知能・パーソナリティの捉え方について

学習を規定する要因としての個人差を反映する知能とパーソナリティの理論、それぞれの形成要因について取り上げる。個人差をどのように理解し、効果的に促進するかを学ぶ。

第11回：学級集団と児童生徒の心理

学級成員間の繋がりからみた学級集団の理解、学級が抱える諸問題（いじめ、不登校など）、児童生徒個人が抱える生活上の諸問題（経済的貧困、異文化適応など）、教師のリーダーシップなどについて取り上げる。児童生徒の問題行動、生活上の問題、進路上の問題を教育臨床心理学の立場から概観し、教師としての関わり方を考える。

第12回：教育評価

教育評価の目的や手法、さまざまな観点から見た評価の種類と特徴、検査法による個性（知能やパーソナリティ）の測定、学力の捉え方について取り上げる。正しい評価なくして正しい教育的介入はありえないことを理解し、どのような教育評価方法が適切かを理解する。

第13回：教授技法～授業作りや授業実施の具体例について

自らが教員となった際に備え「教える」ことをシュミレーションできるように、教える技術、伝える技術、授業作りとその留意点について取り上げる。各回の授業で学修した知識を実践にどう結び付けるのか、具体的な方法について討論する。

定期試験：学期末に定期試験を実施する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

藤田主一・齋藤雅英・宇部弘子編著「新 発達と学習の心理学」（福村出版、2013年）など、授業中に適宜紹介する。また授業中に資料を配布する。

学生に対する評価

単位認定 60 点以上。授業回数の 2/3 の出席を前提に、学年末定期試験（70%）、レポート・課題（小テスト含む）等（30%）の総合点で評価する。

授業科目名： 特別支援教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 池田 仁
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 障害児教育の歴史的変遷と特別支援教育の理念を理解し、各障害の理解と特別な教育的ニーズの把握と教育的支援、インクルーシブな教育への在り方について理解する。①特別支援教育の理念と制度について理解する、②特殊教育から特別支援教育への歴史的変遷についてその意義を理解する、③障害のある生徒、特別な教育的ニーズのある生徒の教育課程について理解する、④各障害の発達特性とその支援について理解する、⑤障害のある生徒、特別な教育的ニーズのある生徒の生活と発達上の困難を理解し、生きる力を身につけていくための教育的支援について理解する、⑥障害のある生徒、特別な教育的ニーズのある生徒の移行支援と他職種連携に付いて理解する。			
授業の概要			
・ 学校教育における障害のある生徒の発達特性並びに心身の発達と特別な教育的ニーズのある生徒の理解を通し、特別支援教育の意義とその教育課程、支援の方法を学ぶ。具体的内容は、障害児教育の歴史的変遷と特殊教育から特別支援教育へ移行した経緯について学び特別支援教育の理念と制度について理解する。障害の種類や各障害の発達特性とその教育課程、教育的支援に関する基礎的な知識・技能について学ぶ。支援においては、支援の連携の在り方、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義について学ぶ。障害がある生徒だけでなく、さまざまな生活と発達に困難のある特別な教育的ニーズある多様な生徒の理解と支援について考える。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション、特別支援教育の理念			
第 2 回：障害児教育の歴史			
第 3 回：特別支援教育に関わる制度・幼稚園・小学校・中学校等における特別支援教育と教育課程			
第 4 回視覚障害の生徒の理解と支援			
第 5 回聴覚障害の生徒の理解と支援			
第 6 回知的障害の生徒の理解と支援			
第 7 回肢体不自由の生徒の理解と支援			
第 8 回病弱虚弱の生徒の理解と支援			
第 9 回発達障害の生徒の理解と支援(1) 学習障害、注意欠如/多動性障害			
第 10 回発達障害の生徒の理解と支援(2) 自閉スペクトラム症等			
第 11 回不登校・学校不適応の生徒の理解と支援			
第 12 回さまざまな生活と発達に困難のある生徒の理解と支援			
第 13 回特別支援教育における各ライフステージでの支援と他職種連携及び移行支援			
テキスト			
特別支援教育総論」加瀬進・高橋智（NHK 出版）978-4-595-31923-5、2,300 円			
参考書・参考資料等			
「発達障害のある子どもができることを伸ばす！思春期編」杉山登志郎・辻井正次（日東書院）、「15mの通学路」山本純士（角川文庫）、「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼小中）」文部科学省			
学生に対する評価			
・ 定期試験は実施しない。授業全体のうち 3 分の 2 以上への出席(13 回授業では 9 回以上)と小			

テスト、課題レポートにより成績認定の前提とする。出席は授業後提出のリアクションペーパーの提出と合わせて出席とする。リアクションペーパーにより、授業を理解しているかについて評価する（30％）。小テストでは、学習の定着度を評価する(20%)。次回授業にて解答のフィードバックを行う。課題レポートにより本科目の基本的知識の理解を評価する（50％）。

授業科目名： 特別活動・総合的な学 習の時間指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉原 昌子 藤原 寿幸、金馬 国晴 担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
自律的に課題に取り組む学習習慣を確立し、大学での学習に必要な資質・能力を身に付けるとともに、自らの学びを他者に分かりやすく説明できるようになることが最終的な目標である。具体的には次の四つの事柄を科目の到達目標とする。			
1 学習指導要領における中学校及び高等学校の特別活動及び総合的な学習（探究）の時間の位置付けや価値、目標及び内容を理解すること。			
2 文書・実践計画案作成のための技術を身に付けること			
3 情報検索の技術とメディア情報に関するリテラシーを理解すること			
4 資料作成や協議に意欲的に取り組み、学びに向かう態度を身に付けること			
授業の概要			
本科目は教職に関する科目であり、対面授業により特別活動及び総合的な学習（探究）の時間について基本的な知識の理解をもとに、具体的な実践計画案作成等に取り組む学習を行う。特別活動及び総合的な学習（探究）の時間についての学習は、創造性を発揮したり、より良い方向性を見出したりすることが求められ、学校での学びにとどまらず、社会人として身に付けていくべき能力である。また、個人の取組をもとに仲間との協働による実践を行うことで、「相手に理解できる伝え方」や「効率の良い説明方法」等を身に付けていく。毎時間文書や実践計画案等を作成することで、自らの考えを整理し表現することに取り組む。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、特活及び総合の内容と意義、学習指導要領上の位置付けと育てたい力（担当：吉原昌子）			
第2回：特別活動の目標と内容、三つの視点と合意形成（担当：藤原寿幸）			
第3回：学級活動・ホームルーム活動の実際（キャリア教育：指導案作成）（担当：藤原寿幸）			
第4回：生徒会活動の実際（生徒会活動の実践に向けた実施案作成）（担当：藤原寿幸）			
第5回：学校行事の実際① 学校行事の目標と内容に関しての理解（担当：藤原寿幸）			
第6回：学校行事の実際② 計画案作成の基本的事項の理解、計画案の作成（担当：藤原寿幸）			

第7回：「総合的な学習の時間」設置経緯、小中高の目標と内容、探究的な見方・考え方 (担当：金馬国晴) 第8回：「総合的な学習の時間」の学習で育成を目指す力、各学校で定める目標、内容、取扱い (担当：金馬国晴) 第9回：「総合的な学習の時間」計画案作成① 学校の実態想定、学校としての課題、取組内容の検討 (担当：金馬国晴) 第10回：「総合的な学習の時間」計画案作成② 各学校で定める目標及び計画、全体計画、年間計画、単元計画の作成 (担当：金馬国晴) 第11回：「総合的な学習の時間」計画案作成③ 生徒の資質・能力を育む実践、単元計画及び学習指導案の作成 (担当：金馬国晴) 第12回：評価及び生徒指導要録について (担当：金馬国晴) 第13回：学校行事案、「総合的な学習の時間」作成資料発表 特別活動及び「総合的な学習の時間」についてのまとめ (担当：吉原昌子) 定期試験は実施しない
テキスト 自主作成資料
参考書・参考資料等 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(東山書房) 「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」(海文堂出版) 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(東山書房) 「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」(東京書籍)
学生に対する評価 毎回の授業の文書作成、実践計画案作成により評価を行う。 授業への出席が3分の2に満たない場合には、本学の規定に基づき単位を認定しない。 学習内容確認プリント等(20%)・・・到達目標1、4 文書作成、実践計画案作成資料(40%)・・・到達目標2、3 まとめレポート(20%)・・・到達目標1、2 毎週の振り返り、相互評価等(20%)・・・到達目標2、4

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 李 禧承
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 本講義は教師の授業づくりに不可欠な教育方法の基礎概念・諸原理を理解し、授業実践の土台づくりのための授業である。本講義では次の2つの学習目標を設定する。（1）授業構成の「学習」「指導」「教材研究」に関する原理を理解し、中学校と高校の授業づくりに必要な知識を習得する。（2）授業づくりのための具体的な手法として ID（Instructional Design）及び ICT 基礎理論とスキルを取得し、学習指導案を作成する。			
授業の概要 本講義は、①授業の構成要素と学習指導の原理 ②ICT 活用に関する基礎知識 ④授業づくりの手法として ID 理論、④ICT 活用した学習指導案の作成、の4つから構成する。特に、④I Dモデルに基づく学習指導案づくりはグループ活動として実施し、授業づくりの実践的な能力を高める。さらに、教育問題についてグループで議論・発表する時間を設け、学校教育の現状理解を促す。			
授業計画 第1回 教育方法論の学ぶ意義 第2回 授業の構成要素と学習理論、学習評価の理解 第3回 ALの「資質・能力」の育成に向けた ICT 活用の必要性和課題 第4回 教員の ICT 活用指導力（情報モラルを含む）の現状と課題 第5回 学習指導の形態の理論と実際 第6回 学習指導案の構成要素の理解 第7回 IDを活用した授業づくり 第8回 IDによる学習目標の設定の理論と方法 第9回 IDによる教材研究の理論と方法 第10回 IDによる授業展開の理論と方法 第11回 IDによる学習評価の理論と方法 第12回 オンライン・オンデマンド教材の作成 第13回 オンライン・オンデマンド教材利用の学習指導案の作成 定期試験			
テキスト 授業内容に応じて配布する。			
参考書・参考資料等 『上手な教え方の教科書』（2015）向後千春 技術評論社 『はじめて学ぶ教職 教育の方法と技術』（2019）樋口直宏編著 ミネルヴァ書房 『教育の方法と技術』（2019）稲垣忠 北大路書房			
学生に対する評価 1. 授業参加度（40%） －毎回の予習・復習課題に取り組んできたのか否か（ノート提出）；授業内グループ活動 2. 学習指導案作成（30%）			

ーグループ作業として ID に基づく学習指導案であるか否か。

3. 確認テスト (30%) ー基本的な知識・概念が定着されているか否か。

授業科目名： ICT 活用スキルの理論と実際	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤 豊
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
授業の概要 本授業では、中学校、高等学校における一人一台端末を活用した授業の実際について、本大学の桐蔭ユニバやグーグルクラスルーム等を活用して、授業者として身に付けておくべきスキルを高めていく。また、生徒の情報活用能力を高めていくうえでの有効な活用方策について、簡易な PPT 作成や ICT 活用体験を交えて学ぶ。			
授業計画 第 1 回： オリエンテーション ICT 活用とはなにか、Society5.0 社会と情報通信技術の進歩 第 2 回： 情報通信技術の活用の意義と理論① 新しい学習指導要領が求める主体的で対話的で深い学びと GIGA スクール構想を考える 第 3 回： 情報通信技術の活用の意義と理論② ICT 活用の意義(個別最適化と協働的学習) 第 4 回： 情報通信技術の活用の意義と理論③ 特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義と留意点 第 5 回： 情報通信技術の活用の意義と理論④ GIGA StuDX を活用する ICT 支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校における ICT 環境の整備の在り方 第 6 回： 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進① 様々なプラットフォームを知る(グーグル、マイクロソフト等) 第 7 回： 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進② グーグル・フォームによる情報収集とデータ処理を体験する 第 8 回： 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進③ 学習評価の実際(学習ログから成績情報を整理するには) 第 9 回： 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進④ クラウドを活用した学級経営のアイデア 第 10 回： 児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法① 情報通信技術活用の利点と危険性 第 11 回： 児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法② （レポート作成の情報モラル(よい例、悪い例から検討する) 第 12 回： 児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法③ 体育・保健体育科の活用事例・・動画撮影と思考・判断・表現の育成 第 13 回： まとめ 情報通信技術を効果的に活用した学習指導、校務の推進の在り方、児童及び生徒の情報活用能力（情報モラルを含む。）について			

定期試験
テキスト 教育の情報化に関する手引(文部科学省，令和元年 12 月) 児童生徒の 1 人 1 台の ICT 端末を活用した体育・保健体育授業の事例集 (スポーツ庁，令和 3 年 3 月)
参考書・参考資料等 ウェイクサイト・・・StuDX Style
学生に対する評価 テスト(知識)40%、レポートによる思考力・判断力・表現力等 30%、毎時の学習カードによる情意的領域評価 30%

授業科目名： 生徒指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：前田善仁
				担当形態： 単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
・ 生徒指導の意義や原理を理解する。				
・ すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。				
・ 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、教職員間の連携、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。				
授業の概要				
生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けさせることを念頭に授業を展開する。				
授業計画				
○第1回：生徒指導の意義				
○第2回：教育課程における生徒指導の位置づけ				
○第3回：教育活動全体を通じた生徒指導				
○第4回：生徒指導の方法原理の二側面—個別と集団—				
○第5回：生徒指導体制と教育相談体制				
○第6回：児童および生徒に対する指導のあり方				
○第7回：生徒指導への組織的な取り組み				
○第8回：生活習慣や規範意識に対する生徒指導				
○第9回：子どもの自己有用感を高める生徒指導の実践				
○第10回：生徒指導の諸様相とその対応				
○第11回：生徒指導に関する法制度				
○第12回：暴力行為、いじめ、不登校等への対応				
○第13回：インターネット、性に関する課題、児童虐待への対応				
定期試験				

テキスト

- ・授業内容に合わせてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

- ・『生徒指導提要（改訂版）』 文部科学省

学生に対する評価

- ・定期試験(70%)と課題・レポート等(30%)によって評価する。

授業科目名： 教育相談・キャリア 教育指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 淳子、松山 康成
				担当形態： オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。また、進路指導は、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。				
授業の概要				
教育相談は、学校における教育相談の意義と理論、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性の理解すること、進路指導は、進路指導・キャリア教育の意義や原理、全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方、生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方の理解を通して、児童生徒の発達段階に応じた教育相談、進路指導について、カウンセリングの基本的技術を取り上げながら、事例検討やディスカッションを踏まえて、全体指導、個別支援、組織体制づくりの適切な対処の仕方を身に付けるようにする。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、子どもの権利条約・教育相談の歴史と意義について（担当：鈴木淳子） ・学校における教育相談の意義と課題				
第2回：青年期の発達について（担当：鈴木淳子）				

・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念

第3回：教育相談の方法、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（担当：鈴木淳子）

カウンセリングの基本技法Ⅰ：指示的方法・非指示的方法・折衷法

第4回：カウンセリングの基本技法Ⅱ：カウンセリングとその理論的背景、学校現場で行われている技法について（担当：鈴木淳子）

第5回：教育相談の展開（担当：鈴木淳子）

・教育相談の具体的な進め方やそのポイント

・発達障がい理解：自閉スペクトラム症、ADHD、学習障がい等について

第6回：いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談（担当：鈴木淳子）

第7回：①教育相談の総括（担当：鈴木淳子）

・教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備、

・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携

②進路指導及びキャリア教育との連携

第8回：進路指導・キャリア教育の意義や原理（担当：松山康成）

教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け

学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 進路指導・

キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携

第9回：ガイダンスとしての指導（担当：松山康成）

・キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義

・全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点

第10回：カウンセリングとしての指導（担当：松山康成）

・生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題

第11回：カウンセリングとしての指導（担当：松山康成）

・キャリア形成の視点に立った自己評価の意義および方法

第12回：カウンセリングとしての指導（担当：松山康成）

・キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法

第13回：①本講義の総括 ②最終課題（担当：鈴木淳子）

定期試験は実施しない。

テキスト

「子育てとケアの原理」北樹出版

参考書・参考資料等

「生徒指導と教育相談」北樹出版、「学校心理学にもとづく教育相談」金子書房

学生に対する評価

毎回ミニレポートを提出することで集積確認、平常点として評価する。最終課題、通常のミニ課題及び出席数と併せて総合的に評価する。

シラバス：教職実践演習（中・高）		単位数：2 単位		担当教員名：谷本直美、清水由	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取（※2）	○
受講者数 100 人（8人×13班にグループ分け）					
教員の連携・協力体制 神奈川県立総合教育センターより派遣講義を実施する。					
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、これまで履修してきた教職課程において、以下の通り教科指導の方法・技術を振り返り、現場での解決方法などを考察し、教育についてより一層理解を深める。 ① 教職課程を振り返り、学習の成果を確認する。 ② 教育の目的や教師の役割についての理解を深める。 ③ グループ討議や模擬授業を行い自身の課題探究、現場における考察共有を行うことでより一層教育への理解を深める。					
授業の概要 ① 教職課程を履修した知識及び技術・方法などについて教職履修カルテ等を用いて振り返りを実施し、特に、現場での資質能力について深く考察できるようにする。 ② 授業形態は、ガイダンス、招聘講義を除いて能動的な学習を基本とする。プレゼンテーション、グループ討議、模擬授業等と組み合わせて実施する。また、模擬授業や事例発表を行う際はICT機器なども用いて実施する。					
授業計画 第1回：本講義のガイダンス（課題、目標、履修カルテの確認及び、今後の流れ） 第2回：教育実習の総括と、成果発表及び教育現場の課題についての議論 第3回：神奈川県立総合教育センター教員より講義 （教育現場における注意事項、教育現場の課題等講義、講義内容における課題の設定） 第4回：グループ討議準備 （教育センター及び教育実習などで得た課題、その解決方法等の発表） 第5回：グループ討議・・・①（8人×13班） 第6回：グループ討議・・・②（8人×13班） 第7回：グループ討議・・・③（8人×13班） 第8回：グループ討議・・・④（8人×13班） 第9回：グループ討議・・・⑤（8人×13班） 第10回：グループ発表 （グループ内での討議結果、課題の解決方法など発表する） 第11回：模擬授業発表・・・①（8人×13班） 第12回：模擬授業発表・・・②（8人×13班） 第13回：模擬授業発表・・・③（8人×13班） （討議内容を記載した課題提出、現場における課題とその解決方法を記載した課題の提出する） 定期試験は実施しない					

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）

学生に対する評価

課題として設定されたレポートを評価する (50%)

グループ討議参画度: グループ討議に参画度、グループワークでの (20%)、学習指導案と模擬授業の実際を評価する。(30%)

レポート

学校体験日誌における記載状況

最終成果発表及び議論の内容にて総合的に評価を行う

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。